

吉野町館跡遺跡

県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る

埋蔵文化財発掘調査報告書

1992. 3

豊科町教育委員会

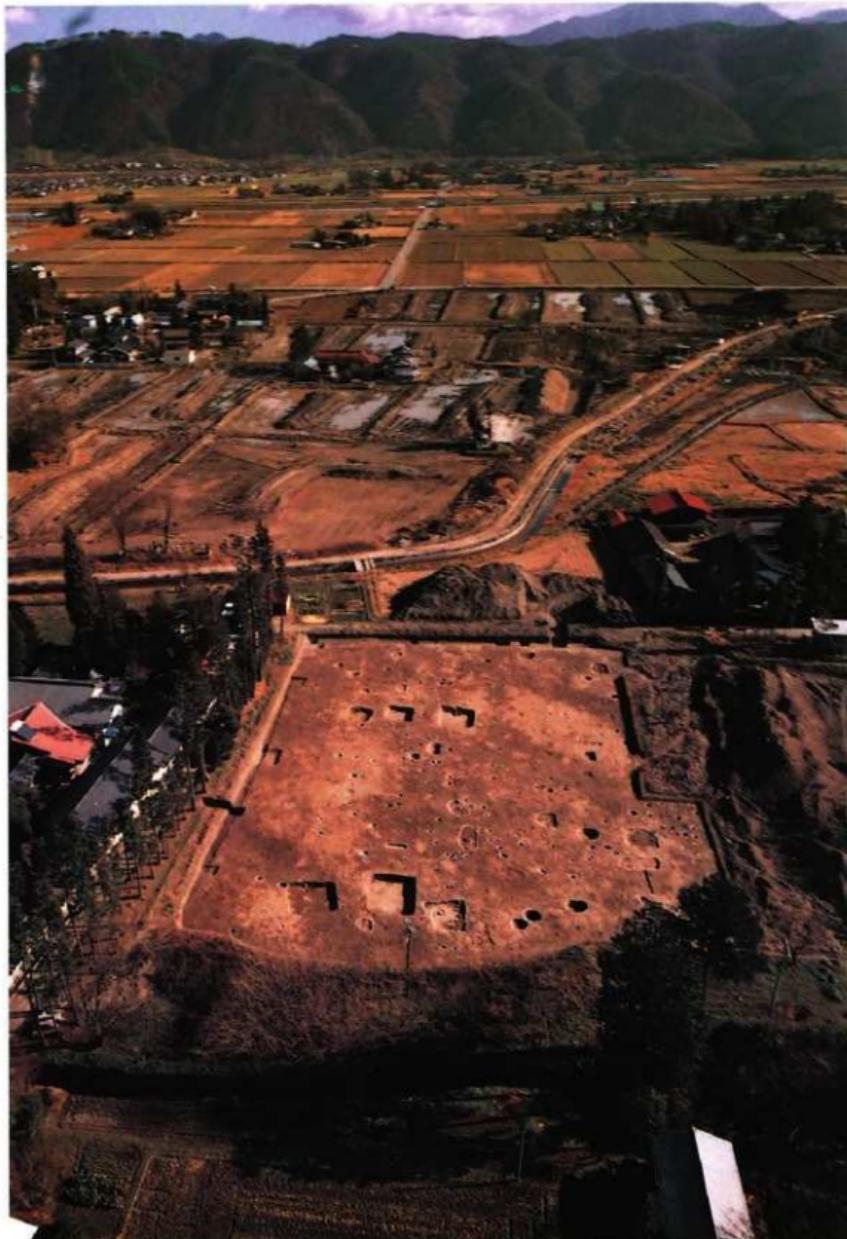
吉野町館跡遺跡

県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る

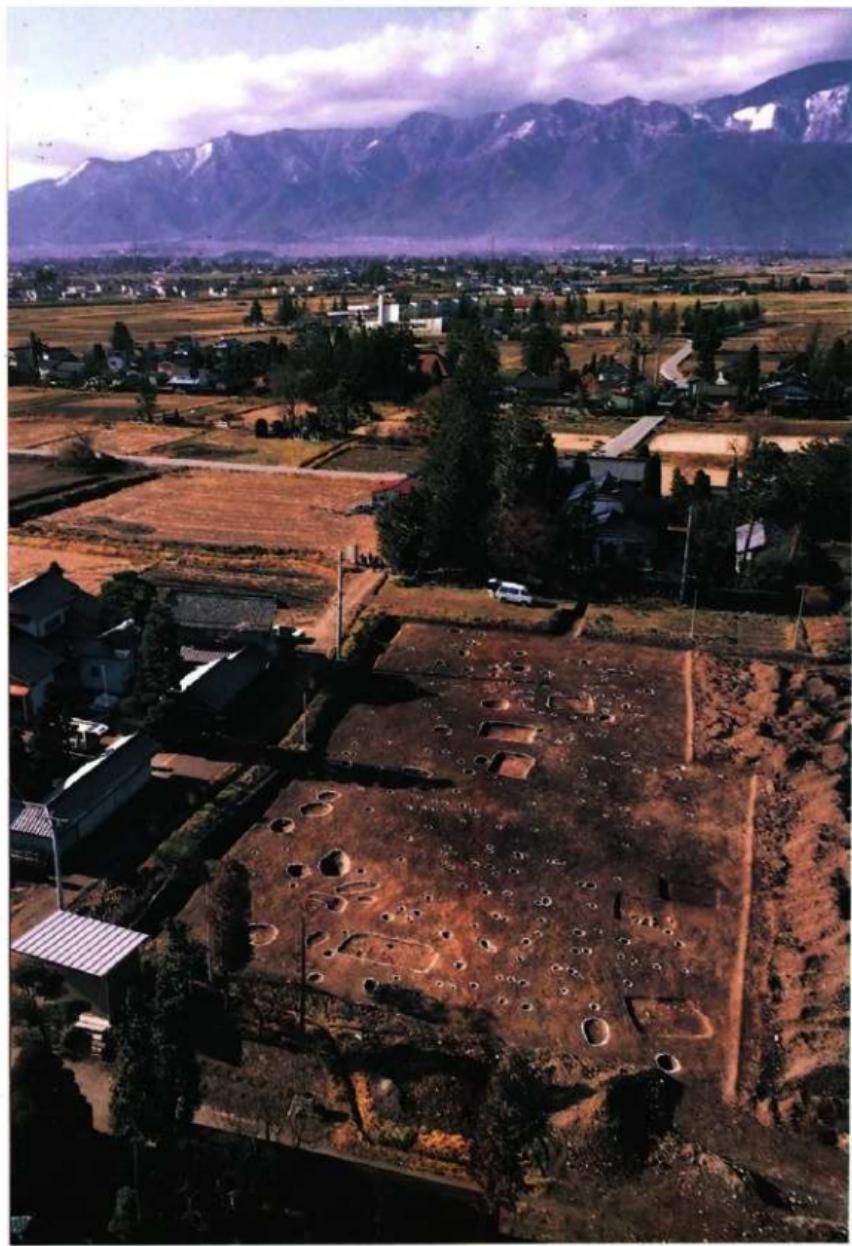
埋蔵文化財発掘調査報告書

1992. 3

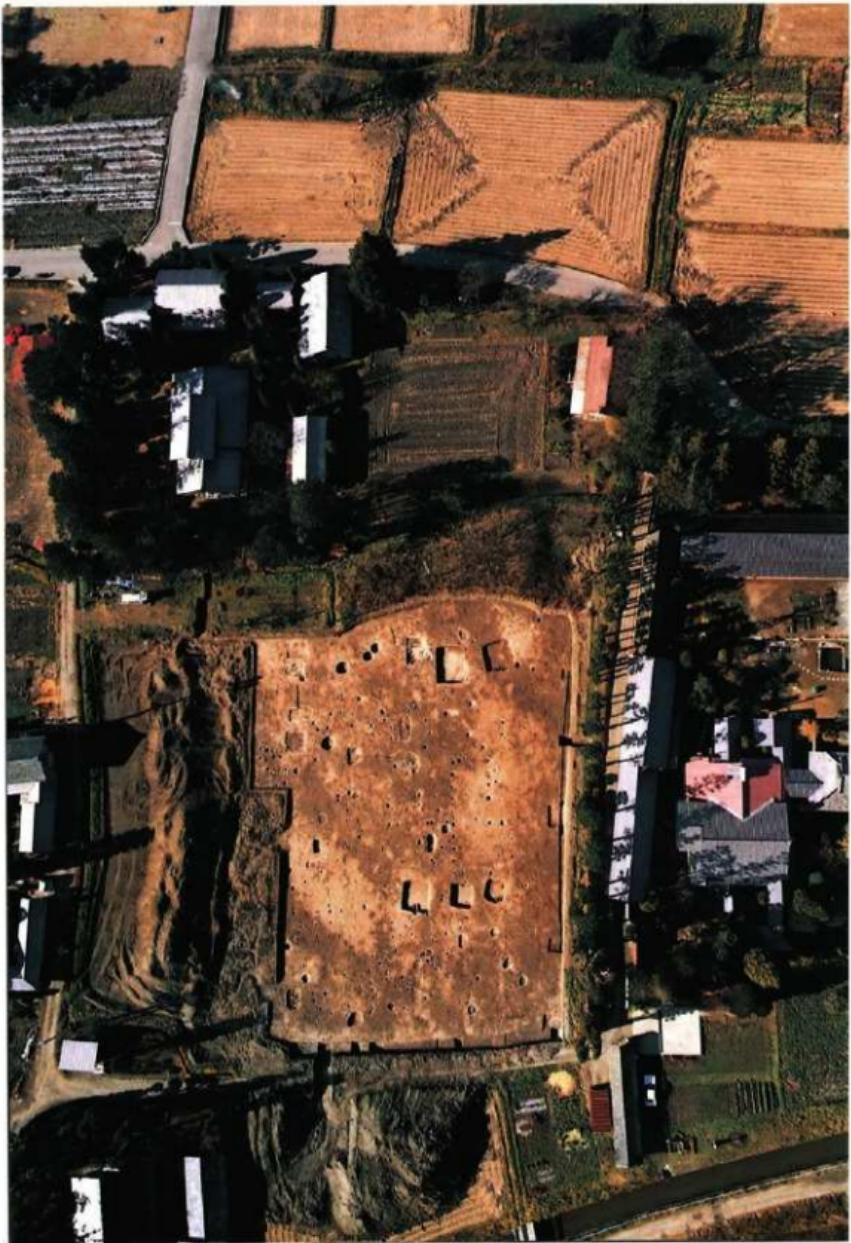
豊科町教育委員会



吉野町館跡遺跡（調査地北半、西上空より）



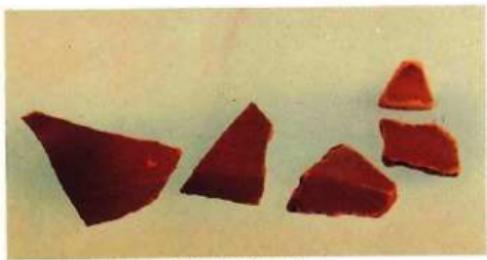
吉野町館跡遺跡（調査地南半、東上空より）



吉野町館跡遺跡全景（北半調査中）



石 鐵



綠釉陶器 (SB6)



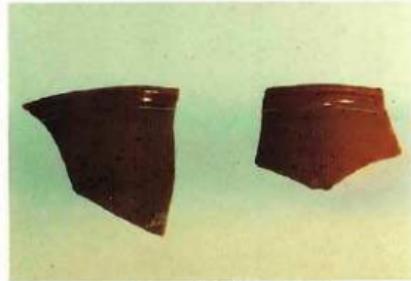
墨書土器 (SB2)



錚 (SB2)



墨書土器 (SB2-22)



白 磁



墨書土器 (SB8-92)



青 磁

序

吉野町館跡遺跡は今から約400年前に築かれたとされる館の跡です。周囲を堀と土塁という施設で囲んだ立派な館で、吉野町の町並みもこのころ形成されたと言われています。

しかし、その館も長い年月を経て荒廃し、土に埋まり、やがて水田へと姿を変えました。そして、今またほ場整備事業によってその景観も大きく変わろうとしています。今回の発掘調査は、その事業の前に、「館跡」という私たちの郷土を築いてきた先人の生活のあとを明らかにするために、平成2年の秋から冬にかけて実施したものです。

その結果、新たに古代の集落を確認するなど後述するような成果をあげることができました。それらは今後の文化財保護と地域の歴史の解明に役立つことでしょう。

ここに調査にご理解とご協力をいただきました松本地方事務所を初めとする関係機関の皆様に対し、深甚の敬意と感謝を申し上げます。

平成4年3月

豊科町教育委員会

教育長 小幡正行

例　　言

- 本書は平成2年10月15日から12月27日に実施した、長野県南安曇郡豊科町大字豊科3043番地 吉野町館跡遺跡の緊急発掘調査の報告書である。
- 本調査は松本地方事務所より委託を受け、豊科町教育委員会が実施した。
- 調査の記録にあたっては、古澤測量設計事務所に委託して設定した新平面座標系Ⅴによる測量座標を用いた。
- 本書の作成にかかわる図面、遺物整理等の作業の分担は第1章に記した。
- 本書の編集は、事務局が行なった。執筆は第2章第2節を森義直が、他は山田真一が担当した。
- 註、引用文献、参考文献等は各章末に一括掲載した。
- 遺物実測図のうち、古代土器の種類は次のように表した。



また、中世以降の陶磁器については次のように（土器は断面を白抜きで）表した。



- 調査地の航空写真は、写真測図研究所に委託して撮影した。
- 出土遺物及び図類は豊科町教育委員会が保管している。

目 次

第1章 調査の経緯と方法	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査の方法	3
第4節 調査経過	4
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	9
第1節 遺跡の位置	9
第2節 地形と地質	9
第3節 歴史的環境	12
第3章 調査の結果	17
第1節 調査の概要	17
第2節 遺構	17
1 穂穴住居址	17
2 土坑	29
3 堀	56
4 土塁	57
第3節 遺物	61
1 土器・陶磁器	61
(1) 古代の土器	61
(2) 中世以降の土器・陶磁器	63
(3) 遺構出土の土器	66
2 鉄器・金属製品	69
3 銭貨	70
4 石器・石製品	70
第4章 調査のまとめ	71

挿図目次

挿図1	遺跡の位置	8
挿図2	調査地の位置	11
挿図3	周辺の遺跡	13
挿図4	吉野町館跡地籍図	15
挿図5	SB1実測図	18
挿図6	SB2遺物出土状況図	20
挿図7	SB2実測図	21
挿図8	SB6疊等出土状況図・実測図	22
挿図9	SB7疊等出土状況図	23
挿図10	SB7実測図	24
挿図11	SB8遺物出土状況図	25
挿図12	SB8実測図	26
挿図13	SB9実測図	27
挿図14	SB10実測図	28
挿図15	SB11実測図	29
挿図16	土坑現状相関図	30
挿図17	SB3実測図	31
挿図18	SB4実測図	32
挿図19	SB5・SB12実測図	33
挿図20	SK1・SK2・SK3・SK4・SK5・SK78実測図	35
挿図21	SK6・SK7・SK8・SK9実測図	37
挿図22	SK11・SK12・SK13・SK19・SK20・SK24実測図	39
挿図23	SK25・SK26・SK29・SK30・SK31・SK32・SK33実測図	42
挿図24	SK35・SK38・SK39・SK40・SK41・SK42実測図	44
挿図25	SK215・SK301・SK308・SK310・SK312・SK328実測図	46
挿図26	SK339・SK355・SK361・SK374・SK383実測図	49
挿図27	SK385・SK400・SK401・SK402実測図	51
挿図28	SK433・SK450・SK452・SK454・SK500実測図	53
挿図29	SK501・SK505・SK510・SK511・SK512実測図	55
挿図30	SK521・SK547実測図	56
挿図31	堀・土塁実測地点	58
挿図32	堀・土塁実測図(1)	59
挿図33	堀・土塁実測図(2)	60
挿図34	SB1出土須恵器坏ヘラ記号	67
挿図35	文字關係資料(墨書き土器・転用硯)	69
挿図36	柱列組み図	73

表 目 次

表 1 町内の城館跡	14
表 2 SB1出土土器構成表	66
表 3 SB2出土土器構成表	67
表 4 SB6出土土器構成表	67
表 5 SB7出土土器構成表	68
表 6 SB8出土土器構成表	68
付表 1 土坑一覧表	77
付表 2 出土土器・陶器観察表	95
付表 3 鉄器・金属製品一覧表	106
付表 4 錢貨一覧表	106
付表 5 石器・石製品一覧表	107

図 版 目 次

カラー図版 1 吉野町鮑跡遺跡（調査地北半、西上空より）
カラー図版 2 吉野町鮑跡遺跡（調査地南半、東上空より）
カラー図版 3 吉野町鮑跡遺跡全景（北半調査中）
カラー図版 4 石蹴、墨書き土器、綠釉陶器、鎌、白磁、青磁
図版 1 調査地全体図
図版 2 遺構図 (1)
図版 3 遺構図 (2)
図版 4 遺構図 (3)
図版 5 遺構図 (4)
図版 6 遺構図 (5)
図版 7 遺構図 (6)
図版 8 遺構図 (7)
図版 9 遺構図 (8)
図版 10 遺構図 (9)
図版 11 遺構図 00
図版 12 遺構図 01
図版 13 遺構図 02
図版 14 遺構図 03
図版 15 遺構図 04
図版 16 遺構図 05
図版 17 遺構図 06
図版 18 遺構図 07
図版 19 遺構図 08

- 図版20 遺物実測図（土器：SB1, SB2）
図版21 遺物実測図（土器：SB2）
図版22 遺物実測図（土器：SB6, SB7）
図版23 遺物実測図（土器：SB7, SB8）
図版24 遺物実測図（土器：SB8）
図版25 遺物実測図（土器：SB8, SB9, SB10, SB11）
図版26 遺物実測図（土器・陶磁器：SB11, SB3, SB4, SB12, SK3）
図版27 遺物実測図（土器・陶磁器：SK6, SK11, SK12, SK13, SK24, SK25, SK51, SK61, SK67, SK269, SK296, SK297, SK298, SK355, SK361）
図版28 遺物実測図（土器・陶磁器：SK385, SK400, SK456, SK500, SK512, 堀（東側），堀（南側））
図版29 遺物実測図（土器・陶磁器：堀（東側），遺構外）
図版30 遺物実測図（土器・陶磁器：遺構外，錢貨，鐵器，金屬製品）
図版31 遺物実測図（石器・石製品）
図版32 遺物実測図（石器・石製品）
図版33 西上空より（調査地北半，1 平原城，2 上ノ山窓跡群）
図版34 東上空より（調査地南半，背後に吉野町の町並みが見える）
図版35 二の郭西側の矢竹・調査地北側（右奥が調査地，堀と土塁を彷彿させる）
図版36 堀跡（本郭西側）・熊野権現社（西より）
図版37 調査地全景
図版38 調査地北半・調査地南半
図版39 SB1・SB1 カマド
図版40 SB2 遺物等出土状況・SB2
図版41 SB6 磁等出土状況・SB6
図版42 SB7・SB8 遺物等出土状況
図版43 SB8 カマド・SB8
図版44 SB9・SB10
図版45 SB11・SB11 カマド
図版46 堀（北側）・堀（東側）
図版47 SB3, SB5, SK2, SK6, SK24, SK328, SK383（手前）・SK385, SK374
図版48 SB1・SB2出土土器
図版49 SB2・SB6出土土器
図版50 SB7・SB8出土土器
図版51 SB8・SB9・SB10・SB11・土坑出土土器・陶器
図版52 土器・陶磁器，錢貨，石器・石製品

第1章 調査の経緯と方法

第1節 調査に至る経緯

本調査は県営ほ場整備事業豊科南部地区に伴う緊急発掘調査で、事業の主体者は長野県松本地方事務所である。事業は豊科町の中南部に位置し一級河川梓川及び犀川左岸に展開する水田地帯においては場整備を計画し、高性能農業機械の有効利用、水田の汎用化、農地の集団化を図り、労力の節減、作物の品質向上等、総合的改善を期することを目的としている。事業総面積は 387.8haで 平成 2 年度から着手された。

事業の開始にあたり、区域内の埋蔵文化財の保護について、事業者・長野県教育委員会・豊科町役場耕地課・豊科町教育委員会が参加して協議がもたれた。その結果、平成 2 年度は吉野町館跡遺跡に工事の影響が及ぶため、その発掘調査を実施することとなった。調査は平成元年11月の試掘調査を経て、平成 2 年10月から12月にかけて実施された。翌年 1 月から整理作業を本格的に開始し、平成 3 年度にその報告書を作成した。

なお、本調査は平成 2 年度及び 3 年度の国宝重要文化財等保存整備費補助事業（国庫）、文化財保護事業（県費）として行なわれた。その文書記録は以下のとおりである。

- 平成元年 9 月 8 日 平成 2 年度県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る埋蔵文化財保護協議を豊科町公民館及び現地にて開催
- 11月20～27日 吉野町館跡遺跡試掘調査を実施（豊科町教育委員会）
- 12月 8 日 平成 2 年度県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る埋蔵文化財保護協議を豊科町公民館及び現地にて開催
- 12月25日 平成 2 年度文化財関係補助事業計画書提出
- 平成 2 年 4 月 4 日 平成 2 年度国宝重要文化財等保存整備費補助事業計画内定（通知）
平成 2 年度文化財保護事業県費補助金の内示（通知）
- 6 月 1 日 平成 2 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出
- 7 月 24 日 平成 2 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定（通知）
- 8 月 10 日 平成 2 年度文化財保護事業県費補助金交付申請書提出
- 9 月 17 日 埋蔵文化財（吉野町館跡遺跡）発掘調査の通知提出

- 10月1日 平成2年度県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査
委託契約を結ぶ
- 10月12日 平成2年度文化財保護事業県費補助金交付決定（通知）
- 12月27日 埋蔵文化財（吉野町館跡遺跡）発掘調査終了届・埋蔵文化財拾得届・同保管証提出
- 平成3年1月11日 平成3年度文化財関係補助事業計画書提出
- 2月4日 吉野町館跡遺跡埋蔵物の文化財認定通知
- 3月25日 平成2年度県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査
実績報告書提出
- 3月30日 平成2年度国宝重要文化財等保存整備費補助事業・平成2年度
文化財保護事業（県費）実績報告書提出
- 3月31日 平成2年度文化財保護事業県費補助金額の確定
- 4月10日 平成2年度国宝重要文化財等保存整備費補助金額の確定
- 4月15日 平成3年度国宝重要文化財等保存整備費補助事業計画内定（通
知）
- 5月10日 平成3年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出
- 5月20日 平成3年度県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査
委託契約を結ぶ
- 平成3年度事業着手
- 9月11日 平成3年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定（通知）
- 9月26日 平成3年度文化財保護事業県費補助金交付申請書提出
- 10月15日 平成3年度文化財保護事業県費補助金交付決定（通知）

第2節 調査体制

- 調査主体** 豊科町教育委員会
- 調査担当** 山田真一（豊科町教育委員会社会教育課）
- 調査員** 森 義直（大町高等学校）
百瀬新治（豊科東小学校）

作業参加者 飯沼定計、奥村隆雄、奥村美栄子、熊井秋実、熊井かつ江、熊井貞義、熊井孝子、熊井貞四郎、熊井徹朗、小林武夫、手塚秀子、古瀬操、堀井鉄造、丸山倫子、山田治実、山田昌子、山水美知子

事務局 豊科町教育委員会社会教育課社会教育係 二木義照（社会教育課長～H3.6.30）丸山幸安（社会教育課長 H3.7.1～）等々力政文（社会教育係長）赤沢重輝、宮沢佐多子、宮沢万茂留、野本岳洋、小川正弘

第3節 調査の方法

吉野町館跡遺跡は、主に地籍図からの研究と、堀及び土塁と推定される遺構の存在によりその位置が知られてきた。

今回、工事が館跡本郭と予想される地域に及ぶにあたり、まず、試掘調査を実施し遺構の存在と土層の状況を確認した（平成元年）。

本調査は稲の刈取りを待って開始した。本郭のほぼ全域が対象となることから、その様相を明らかにすること。また、いつ、誰によって築造されたかが不明であることから、その手がかりを得ることを目標にした。調査は、調査地外への排土の移動が限られたため調査地内で土の移動をし、まず北半を、次いで南半の順に実施した。

試掘調査の際、礫層まで安定した面が存在しないことが確認されていたのでその直上を検出面ととらえた。表土は重機で剥ぎ、検出は人力で行なった。

遺構には検出順に堅穴住居址にSB、土坑にはSKの記号を冠し通し番号を付けていった。SKを付した中には掘立柱建物を構成する柱穴とみられるものがあり、これらはまとめてSTの記号を付した。遺構名は現場での調査終了後に整理し、変更したり追加したものもある。掘り下げは四分割し、その土手で土層を観察する方法を基本に、適宜応用して実施した。また、堀部分の調査についてはその底までは工事によって破壊されないとの判断から、一部、トレンチ法を採用し、上面の調査にとどめた部分もある。

測量は委託設定した国土座標に基づき1/20で行ない、必要に応じて1/10等大縮尺で行なった。写真はモノクロネガとカラースライドを使用し、その他にカラーネガでも撮影をしている。また、館の全容を明らかにするため航空写真を委託して撮影した。

調査記録は主に次の者が担当した。

遺構測量 奥村美栄子、熊井秋実、熊井かつ江、熊井孝子、手塚秀子、古瀬操

操、丸山倫子、山田昌子、山水美知子、山田真一	
遺物復元	飯沼定計、奥村美栄子、熊井秋実、熊井かつ江、小林武夫、手塚秀子、山田昌子、山水美知子
遺物実測	手塚秀子、山水美知子、山田真一
遺構トレース	手塚秀子、山水美知子
遺物トレース	山水美知子
遺構・遺物写真	山田真一

調査中は以下の方々、ならびに諸機関からご指導、ご協力いただいた。記して謝意を表したい。

会田進 市川隆之 伊藤和明 小穴喜一 小穴芳実 大沢哲 河西克造 神沢昌二郎
桐原健 熊井章夫 熊井健治 熊井康夫 熊谷康治 児玉卓文 小林富雄 小松望
塩原久和 島田哲男 関沢聰 烏羽嘉彦 直井雅尚 中野次男 中野正實 野村一寿
原明芳 桶口昇一 平林彰 平林秀一 福田明男 降旗俊行 三村竜一 山下泰永
山田和之 吉野区

第4節 調査経過

調査の経過は以下の作業日誌に記したとおりである。

- 平成2年10月15日(月) 晴 調査地にプレハブ・トイレを設置。
- 10月16日(火) 晴 器材等搬入。調査員会議、作業説明会開催。
- 10月17日(水) 晴 パックホー・ブルドーザーにより調査地の雑物を除去する。
- 10月18日(木) 晴 パックホー・ブルドーザーにより水田耕土を除去(東側の田へ)。
- 10月19日(金) 晴 引き続き水田耕土を除去、午後からは表土剥ぎを行なう。
- 10月20日(土) 晴 パックホー・ブルドーザーにより表土剥ぎを行なう。土師器・須恵器・灰釉陶器が出土し、平安時代の遺構の存在を予想させる。
- 10月22日(月) 晴 引き続きパックホー・ブルドーザーにより表土剥ぎを行なう。本日より検出作業を開始する(北西隅から)。
- 10月23日(火) 晴 引き続きパックホー・ブルドーザーによる表土剥ぎ、作業員による検出を行なう。

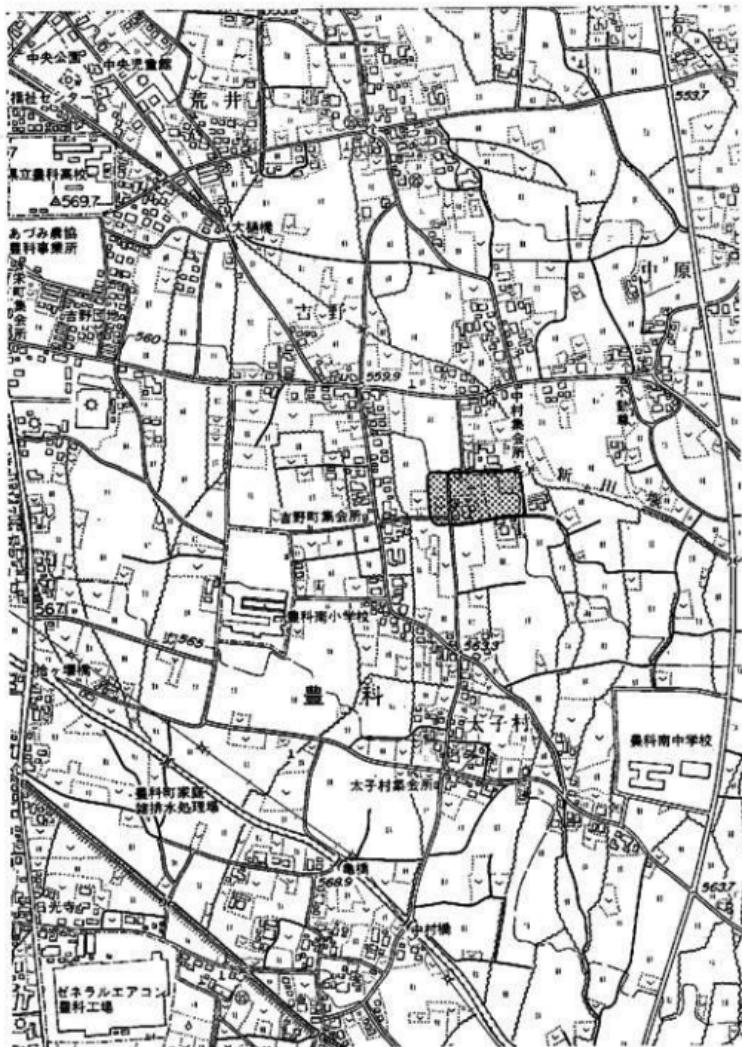
- 10月24日(木) 曇／晴 バックホー・ブルドーザーによる表土剥ぎを行なう。終了後、堀部分へトレンチを入れる。検山作業継続。遺構検出状況略測図を作成する。「中日新聞」取材。
- 10月25日(金) 曇 遺構検山状況略測図を作成。西端の遺構から掘りはじめる。
- 10月29日(火) 晴 引き続き西端の遺構を掘り下げる。検出土出土の遺物を取り上げ。
- 10月31日(木) 曙／晴 古澤測量設計事務所基準統設定。土坑掘り下げ継続。セクション図作成。
- 11月1日(金) 晴 SB1他掘り下げ。土坑セクション図作成。
- 11月2日(土) 晴 SB1他掘り下げ。SB2再検出。土坑セクション図作成。
- 11月5日(火) 晴 SB1, 2他掘り下げ。土坑セクション図作成。
- 11月6日(水) 晴 SB1, 2, 6掘り下げ。SB1は床面及びカマド周辺を調査。SB1・土坑のセクション図を作成する。
- 11月7日(木) 晴 SB1, 2, 6掘り下げ。SB1遺物出土状況図作成。
- 11月8日(金) 晴 SB2, 6他掘り下げ。土坑セクション図作成。
- 11月9日(土) 曙 SB2他掘り下げ。SB6・土坑セクション図作成。
- 11月10日(日) 晴／曇 SB2他掘り下げ。土坑セクション図作成。SB5疊出土状況図作成。
- 11月13日(水) 晴 土坑掘り下げ。SB2他セクション図作成。
- 11月14日(木) 晴 SB2, 7他掘り下げ。SB5疊出土状況図作成。土坑セクション図作成。
- 11月15日(金) 晴／曇 SB2, 7他掘り下げ。SB1遺物出土状況図作成。SB8を検出。土坑セクション図作成。
- 11月16日(土) 晴 SB6, 7他掘り下げ。SB2遺物等出土状況図作成。土坑セクション図作成。
- 11月17日(日) 晴 SB8他掘り下げ。SB2遺物取り上げ。SB6疊等出土状況図作成。土坑セクション図作成。
- 11月19日(火) 曙 SB8他掘り下げ。SB7セクションベルトをはずす。SB1, 2床面及びカマド精査。土坑等セクション図作成。
- 11月20日(水) 曙 SB8他掘り下げ、セクション図を作成する。SB7カマド調査。東側堀を検出、部分的に掘り下げる。
- 11月21日(木) 曙／晴 SB7他掘り下げ。SB6遺物出土状況図作成。東側堀掘り下げ。遺構完掘写真撮影。南中学校一・二年生見学。「信濃毎日新聞」「市民タイムス」取材。
- 11月22日(金) 晴 SB8遺物出土状況図作成、写真撮影。東側堀掘り下げ。遺構完掘写真撮影。南中学校一・二年生見学。

- 11月24日(土) 晴 SB8出土状況図作成。調査地全域に水糸で2mメッシュを組み遺構平面図の作成を始める。(西側より) 南小児童SB9掘り下げ。
- 11月26日(月) 曇 SB9掘り下げ。東側堀掘り下げ。遺構平面図作成継続。
- 11月27日(火) 晴 SB9セクション図作成。東側堀・北側堀部分トレンチ掘り下げ。遺構平面図作成継続。
- 11月29日(木) 曇時々雨 北側トレンチ掘り下げ。遺構平面図作成継続。
- 12月1日(金) 晴 SB9完掘。北側堀を検出、引き続き掘り下げ。遺構平面図作成継続。
- 12月3日(日) 晴 遺構清掃。10時30分よりラジコンヘリコプターを利用し空撮を行なう(写真測図研究所)。撮影後、住居址カマドの断ち割り、測量を行なう。SB10の掘り下げ開始。あづみ野テレビ取材。
- 12月4日(火) 晴 ブルドーザーにより堆土の移動を行なう。西側及び東側のトレンチ(堀・土壘部分)のセクション図を作成する。北側トレンチ掘り下げ。
- 12月5日(水) 晴 パックホー・ブルドーザーで表土剥ぎ、検出を行なう。北側堀セクション図作成。SB10・東側堀を掘り下げる。SB1、2のカマドを断ち割る。
- 12月6日(木) 晴 パックホー・ブルドーザーで表土剥ぎ、検出を行なう。SB10セクション図・SB1、2のカマドセクション図作成。遺構の検出状況略測図を作成する。
- 12月7日(金) 晴 パックホー・ブルドーザーで表土剥ぎ、検出を行なう。遺構の検出状況略測図を作成する。西側より遺構の掘り下げを開始する。
- 12月8日(土) 晴 遺構(土坑)掘り下げ継続。土坑セクション図作成。古澤測量設計事務所基準杭設定。
- 12月10日(月) 晴 遺構(土坑)掘り下げ継続。土坑セクション図作成。古澤測量設計事務所基準杭設定。
- 12月11日(火) 曙 遺構(土坑)掘り下げ継続。土坑セクション図作成。古澤測量設計事務所基準杭設定。
- 12月12日(水) 曙 遺構(土坑)掘り下げ継続。土坑セクション図作成。
- 12月13日(木) 晴 調査地西側の再検出を行なう。土坑セクション図作成。
- 12月14日(金) 曙/晴 遺構(土坑)掘り下げ継続。土坑セクション図作成。
- 12月15日(土) 曙 午前中雨が残ったため作業は休み。山田 土坑セクション図作成。
- 12月17日(月) 晴/曇 南側堀・土坑掘り下げ。調査地全域に水糸で2mメッシュを組み遺構平面図の作成を始める。(西側より)

- 12月18日(火) 晴 南側堀掘り下げ。遺構平面図作成。教育委員視察。
- 12月19日(水) 晴 遺構平面図作成。東側堀掘り下げ。南小学校五年生見学、文化財調査委員視察。
- 12月20日(木) 晴 遺構平面図作成。東側堀掘り下げ。
- 12月21日(金) 曇／晴 午前中、雨が残ったため作業中止。午後、遺構平面図作成。東側堀掘り下げ。調査地の清掃を行なう。
- 12月22日(土) 晴 午前中、写真測図研究所により空撮。午後、現地説明会を開催。終了後、SB10, 11の遺物取り上げ、床面及びカマドの精査、測量を行なう。器材等撤収。
- 12月24日(月) 晴 発掘器材等撤収。
- 12月27日(木) 雪 プレハブ・トイレ等撤収。

以後、教育委員会事務局別室で整理作業を継続。平成3年度報告書（本書）作成。





挿図1 遺跡の位置（1:10,000）

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の位置

吉野町館跡遺跡は豊科町のほぼ中央、吉野地区に所在する。人家が散在する安曇野の典型的な風景の中に位置し、地番では豊科町大字豊科2991～3045番地周辺があたる。

遺跡周辺はほぼ平坦な地形で、地目は水田あるいは畠地となっている。西100mに旧松本街道に沿った吉野町の古い町並みが形成され、南100mには吉野神社古宮が所在する。また、東は西流する新田堀（慶長年間開削、延宝7年（1679年）改修）がこの館の手前で大きく北へ流れを変えられている。

第2節 地形と地質

地形・地質の概説 本遺跡は南北約50km、東西10～15kmにかけて広がる松本盆地の中央やや北寄り、安曇野の標高657mの地点に位置する。松本盆地に流入する主要河川の一つである梓川により形成された大層状地の沖積地で、梓川と奈良井川が合流して犀川となる左岸にある。

松本盆地は、更新世の中頃（およそ70万年前）の造盆地運動により、西は山麓線に沿い東もほぼ東山の山麓線に沿って南北方向に走るそれぞれ複数の大断層で陥没し、この陥没地に南から奈良井川、南西から梓川、北からは高瀬川をはじめとする大小の河川が流入し、大量の土砂を厚く堆積させ現在に至っている。盆地の西部山地は飛騨山脈の東端にあたり、地質学上は美濃帯と呼ばれる中・古生層と中生代末の花こう岩類より成り、上記断層の他、それに雁行する幾つかの断層により、急傾斜をなして盆地と接している。これらの山地を侵食して運ばれた沢や河川の疊は、供給源である山地の地質により、硬砂岩・粘板岩・チャート・花こう岩などが主である。梓川水系ではこの他に、乗鞍・焼岳の安山岩や穂高連峰の火成岩も混入している。

東部山地はフォッサマグナの堆積物で、新生代の第三紀層と火成岩より成る。古女鳥羽川が城山付近に流下し厚く礫層を堆積させているが、本遺跡付近には及んでいない。したがって本遺跡付近は主として梓川水系による扇状地堆積物より成り、土砂の厚さはおよそ400mと推定されている。その堆積物の上に烏川系の古い扇状地の扇端付近が重なり、現吉

野の地表面が形成されている。

遺跡付近について 上述したように、吉野地区の大部分は、更新世の比較的径の大きな梓川礫層（波田礫層）の上に、氾濫原堆積物として沖積層が10～30mの厚さで堆積しており、部分的に微高地として旧烏川扇状地の削り残された部分ではないかとみられる硬く締まった褐色粘土層が存在している。梓川系の沖積層は一般に比較的細粒の堆積物が多く、シルト質をはさんでいるのが特徴である。発掘地点は、膠結の進んだ旧烏川の扇端が梓川に削り残された部分ではないかと推定され、平安時代ころまでは微高地になっていたところである。

梓川左岸には三つの段丘が存在し、上段からロームの載った更新世の上野面、次のロームの載らない完新世の丸田面、その下の現梓川の氾濫原である岩岡面となっている。梓川は丸田面の堆積が終わるところから流路を北から東へと向きを変え、その結果、広い岩岡面が形成されるに至った。このうち直接本遺跡と関係が深い丸田面は、梓川下立田から大妻を通り、上真々部から下鳥羽の太子村付近で消滅している。したがって吉野付近は、時期的には岩岡面と同じとみられ、しばしば洪水に見舞われた跡が発掘地点の東部以東に見られる。一方、上記の如く鳥川による扇状地の東限は、およそ細塙から除沢付近迄であるが、部分的には旧扇端部（更新世）が吉野から梶海渡にかけて残存しているものとみられる。以上、総合すると発掘地点の大部分は旧烏川扇端部が削り残された更新世の微高地の疑いが濃く、東側は明らかに梓川の沖積層となっている。これらの微高地もまわりの沖積地との比高差が小さいため、洪水時に冠水したことが認められる。時期のわかるものとしては平安時代の堅穴住居址に洪水性の砂礫が南東方向から流れ込んでおり、平安中期の梓川の洪水によるものと推定される。その後も文献資料によると、洪水時に梓川村岩岡付近でしばしば決壊し、真々部→上鳥羽→吉野の東部→寺所方向に向かう流れが西の限界であり、それ以東では幾度となく洪水の被害に遭っている。

発掘地点は平安中期の冠水以後はほとんど洪水による冠水はなかったものと見られ、平安時代の生活面と中世の生活面との差はわずかで、発掘作業のうえからは近似した検出面となっている。

17世紀、堰の開削が進む以前の自然河川は、この洪水路に沿ったほぼ南北方向のものであったと推定される。近世に入って、梓川扇状地の等高線沿いに拾ヶ堰を始め何本かの東西方向の堰とそれに交差する幾多の堰の開削により水田化が進み、現地形が形成される。土砂の堆積速度は凹地を除き盆地中央部では年平均1mmと推定される。



挿図2 調査地の位置

遺跡の土壇は大きく3層に区分できるが、歴史的に連続して人が居住または耕作されてきたため、人の手の加わった堆積土である。第1層の表土（耕作土）は20cm前後の厚さであり、第2層の褐色系の遺物包含層は、その下の地山となる第3層の起伏により厚さ・土質は一定せず平均30cm前後である。この第2層内は人為的に攪乱されており、中世の生活面は検出しにくいが、その下部となる。第3層は基底を成す層で、旧鳥川の扇端堆積物と考えられる。上部は極めてふるいわけの悪い黒褐色の疊混じり土で、疊は径10cm以下のものが多く入っており、沖積地と比べ膠結が進んでいる。下にいくにつれ、暗褐色～褐色の疊土に漸移している。平安時代の生活面は、第3層の最上部か第2層の最下部とみられる。

第3節 歴史的環境

周辺の遺跡 豊科町は北アルプス山麓にひろがる安曇野の南東に位置し、地形的には肥沃な水田地帯となっている平地と犀川右岸の東山に大別される。

扁状地の複合より成る平地では、梓川をはじめとする各河川の影響で各所に砂疊の厚い堆積がみられ、一方、100cm以上の深い耕土帯も存在する。したがって、遺跡はわずかな遺物出土地が「点」として知られているのみで、その広がり・性格等は不明なものが多い。また、過去に紹介されている遺物もその所在が不明であったり、出土地点が明確でないものが多い。¹⁰ 発掘調査も今までに数例しか行なわれていない。このように町内の遺跡を述べるには必ずしも資料に恵まれてはいないが、以下、時代ごとに概観していきたい。

先土器時代にさかのぼる遺跡は現在のところ発見されていないが、縄文時代には犀川段丘上から東山にかけて遺物の出土が知られている。犀川左岸段丘上の熊倉遺跡で打製石斧・四石、右岸段丘上の光遺跡では中期土器の出土が記録されている。東山山中では1986・87年に行なわれた窓跡群の発掘調査の際、五領ヶ台式土器を主体に早期から中期にかけての土器と石器が出土している。また、平地部の成相遺跡でも打製石斧が出土している。

弥生時代には、光城山山麓から犀川段丘上にかけて町田遺跡が形成される。瓦の粘土採取中に発見された遺跡で、土器では百瀬式・箱清水式、石器では太形始刃石斧・扁平片刃石斧・石包丁等の出土がある。土器には人面付のものもある。

古墳時代の構造・遺物は現在のところ確認されていないが、奈良・平安時代には各所で遺物が出土している。宮前遺跡・小海波遺跡・町村遺跡・飯田古宮遺跡・真々部巾下遺跡・



- | | | | |
|----------|------------|----------------|-----------|
| 1 宮前遺跡 | 11 成相遺跡 | 21 上ノ山北遺跡 | 31 黒倉氏館跡 |
| 2 熊倉遺跡 | 12 葛蒲平窯跡群 | 22 殿村館跡(細賀氏館跡) | 32 町田館跡 |
| 3 小海瀬遺跡 | 13 上ノ山窯跡群 | 23 法藏寺館跡 | 33 田沢城跡 |
| 4 上手太戸遺跡 | 14 町田遺跡 | 24 横えの墓館跡 | 34 光城跡 |
| 5 荒井遺跡 | 15 光遺跡 | 25 中村掘屋敷跡 | 35 上ノ山城跡 |
| 6 髙海瀬遺跡 | 16 原村遺跡 | 26 吉野町館跡 | 36 推定日光寺址 |
| 7 郡原遺跡 | 17 飯田古宮遺跡 | 27 成相氏館跡 | 37 推定法藏寺址 |
| 8 本村遺跡 | 18 真々部郡下遺跡 | 28 鳥羽館跡 | |
| 9 大海瀬遺跡 | 19 町村遺跡 | 29 飯田若狭 | |
| 10 誓ヶ谷遺跡 | 20 小瀬福遺跡 | 30 真々部氏館跡 | |

図3 周辺の遺跡

荒井遺跡・梶海渡遺跡・柳原遺跡・本村遺跡・大海渡遺跡・姥ヶ池遺跡・成相遺跡・原村遺跡等が知られている。いずれも発掘調査が実施されておらずその内容については不明だが、荒井遺跡では住居址らしい造構があったと報告されている。広大な沖積地の開発が進んでいたことが窺われる。一方、この時期、東山山中では須恵器窯跡群が形成される。1986・87年ゴルフ場造成に伴い行なわれた発掘調査では須恵器窯跡17基、竪穴住居址26軒等が調査された。芥子屋主山から金田盆地にかけて形成された窯跡群の一つの中心をなしていたと考えられている。

町内の城館跡 中世～近世には殿村館跡（細萱氏館跡）・真々部氏館跡をはじめ多くの城館が築かれる（表1）。とりわけ大伴氏の系譜に連なる細萱氏の居館 殿村館跡の築造は中世前期にさかのぼるとされており、安曇野の開発の拠点として果たした役割は大きい。他は戦国期以降の築造とされ、田沢城・光城・町田館跡等が海野氏に、中村堀屋敷跡・鳥羽館跡が丸山氏に、真々部氏館跡等が武田氏に関係するものと考えられている。いずれも松本から安曇野への交通の要衝に築かれ、以後集落の中心として現在に至っている。豊科町に残る古い町並みは、ほぼこの頃、基盤ができたといつていい。

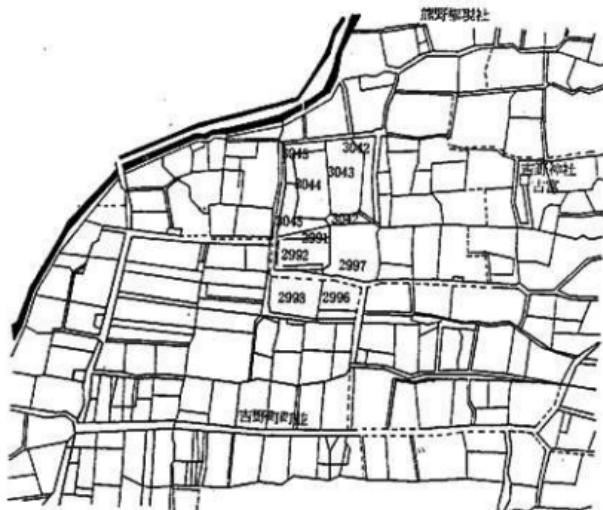
一方、この時代の集落址には上手木戸遺跡がある。1986年、中央自動車道長野線の工事に先立ち発掘調査が行なわれ、内耳土器を伴う竪穴状造構、掘立柱建物址等が検出されて

名 称	立 地	規 模 • 造 構	時 期	現 状
1 殿村館跡（細萱氏館跡）	平 地	本郭:東西34m 南北28m, 二の郭:東西27m 南北54m, 堀 土塁	中世	宅 地
2 法藏寺跡跡	平 地	東西100m 南北109m, 堀	中・近世	寺 院
3 横えの堀館跡	平 地	東西45m 南北54m, 堀	中・近世	墓 地
4 中村堀屋敷跡（堀尾敷）	平 地	東西45m 南北66m, 堀 土塁	中・近世	宅 地
5 吉野町館跡（堀之内）	平 地	本郭:東西63m 南北72m, 二の郭, 堀 土塁	中・近世	宅地・水田
6 成相瓜館跡	平 地	本郭:東西63m 南北34m	中・近世	水 田
7 鳥羽館跡	平 地	本郭:東西90m 南北21m, 二の郭, 堀 土塁	中世	宅地・水田
8 蔊田館跡	平 地	東西30m 南北26m, 土塁	中世	墓
9 真々部氏館跡	平 地	本郭:東西31m 南北31m, 二の郭, 堀 土塁	中世	宅地・寺院
10 猪合氏館跡	平地(裏丘上)	土塁	中世	宅 地
11 町田館跡	平地(裏丘上)	東西60m 南北72~90m	中世	宅地・水田
12 田沢城跡	尾根上	本郭:東西20m 南北26m, 堀 土塁	中世	山 林
13 光城跡	山 頂	本郭:東西30m 南北15m, 二の郭:東西42m, 南北18m 堀 土塁	中世	山 林
14 上ノ山城跡	尾根上	土塁	中世	山 林

表1 町内の城館跡 （草末参考文献より、規模は間数を1.8mで換算）

いる。

吉野町館跡 吉野町館跡のある字は元屋敷（堀の内）といい、慶安4年（1651年）の検知帳が初見だという。明治22年の地籍図によると（挿図4）、3043、3044番地の2枚の田と、その四周を巡る細長い畠地がそれにあたる。この畠地は一段と高くなっている、土壘が崩れた痕と考えられた。さらにその東、南、西に用水が巡っており、2991番地の南には堀の痕と考えられる溝がある（図版36）。また、北側3045番地の北の道が一段と低くなっていることから、やはり堀の痕と推定された（図版35）。以上が本郭で、その西2992～2997番地が二の郭と推定されている。二の郭は現在屋敷地となっており、南側にけやきの古木がみられる。また、西には矢竹が群生している（図版35）。一方、本郭の南東には熊野権現社が祀られ、境内には樹齢5・600年とされるびゃくしんの古木（豊科町指定文化財）がある（図版36）。館の鎮守の意味をなしたものと考えられている。



挿図4 吉野町館跡地籍図

吉野町の町並みは 204mの南北の通りで、その南と北がそれぞれ鏡の手に屈曲されている。細萱・成相・飯田・平瀬を結ぶ松本街道筋の要衝である。

館主および築造時期等は明白でない。また、慶安4年には既に元屋敷になっており、居が移されているがその理由は火事によるとの伝承がある。

註 (I) 遺跡名についても若干の混亂が生じている(猪ヶ池遺跡等)。今後、あらためて調査する必要がある。

参考文献 『豊科町誌』(1955年)

『南安曇郡誌』第二巻上(1968年)

長野県教育委員会『長野県の中世城跡跡－分布調査報告書－』(1983年)

長野県教育委員会『上手木戸遺跡』(『中央自動車道長野線埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
10—豊科町内一』, 1989年)

豊科町教育委員会『豊科町の土地に刻まれた歴史』(1991年)

第3章 調査の結果

第1節 調査の概要

調査は館跡の木郭部分を一部トレント法を用いながら、ほぼ全面的に発掘した。調査面積は4800m²である。調査地内で土の入れ替えをし2回に分けて検出したこと、礫が多く検出が困難であったことから十分に遺構を明らかにできたとはいえないが、当初確認されていなかった平安時代の堅穴住居址をはじめ、館の堀・建物跡・土坑等の遺構約600基を調査した。これらは遺物からみると9世紀代、12~13世紀、16世紀以降の3段階に分けられそろである。しかし、個々の遺構の所属時期については、出土遺物がなかつたり流れ込みと考えられる例があつたりして判然としないものが多い。

平安時代の遺構では堅穴住居址が8軒調査された。この他に土師器・黒色土器・須恵器を伴う土坑が30数個ある。いずれも9世紀中ごろの遺構と考えられる。堅穴住居址は主に調査地北半に分布するが、遺物の出土地点はあまり偏りがなく、調査地周辺に堅穴住居址の存在を想定することもできる。遺物には須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・綠釉陶器・鉄製の鎌がある。特に綠釉陶器の出土が注目される。また、須恵器蓋を転用した硯、墨書き土器も出土している。

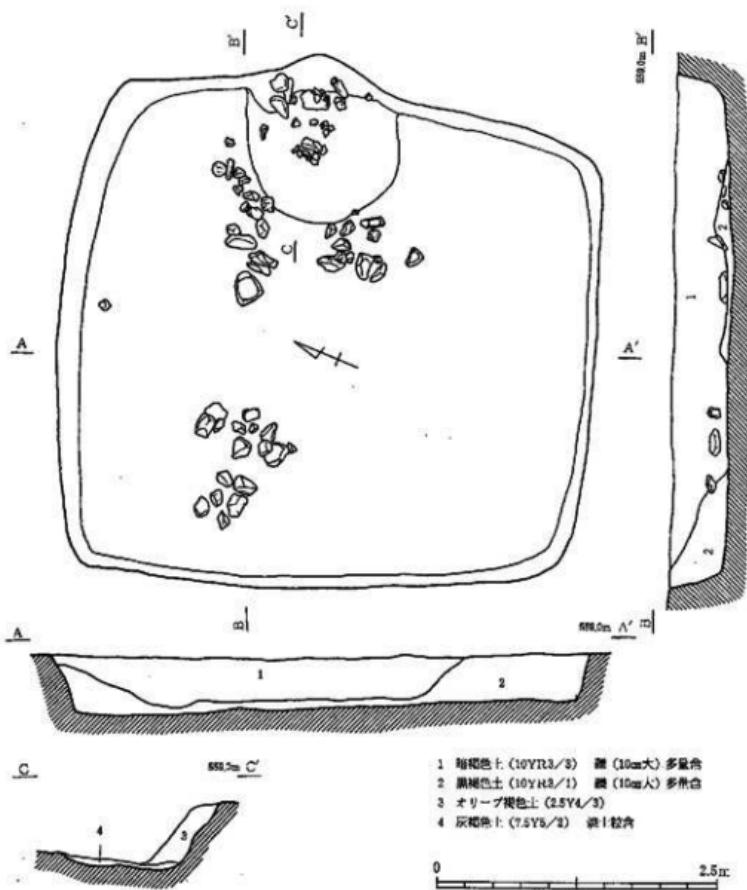
中世以降の遺構には館跡の堀、掘立柱あるいは堅穴の建物、土坑等がある。しかし、土壘については、その明確な痕跡は見当らなかった。また、土壘があるべきところに遺構が検出される例、現地表に残る堀・土壘と想定される遺構と検出された堀・土壘の位置がずれている例もあり、新たな課題も残した。

館の様相については、特に掘立柱建物がつかめず、十分に明らかにできたとはいえない。さらに検討が必要である。

第2節 遺構

1 堅穴住居址

検出時にSBの記号を付した遺構の中で、平安時代に属する堅穴住居址を取り上げる。中世以降に属するものは土坑の項で取り上げる。



挿図5 SB1 実測図

SB1

調査地北西 C-7・8に位置する。SK563・564・565に切られ、南3mにはSB2が隣接する。疎混じりの褐～灰黄褐色土に掘り込んで構築されており、検出は困難であった。規模は4.8×4.6mで平面形はほぼ方形、主軸方向はN-69°-Eを指す。

覆土は二層に分かれ、ともに10cm大の礫が多量に含まれていた。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、最大壁高は55cmを測る。床面は掘り方をそのまま用いているが、平坦で固くしまっていた。

カマドは東壁中央に設けられている。遺存状況が悪く、薄い火床と芯材とした石がわずかに残るだけである。

貯蔵穴・柱穴等は検出されなかった。

遺物はカマド前からまとまって出土している。須恵器の壺、黒色土器の壺・碗、土師器の小形甕・甕・盤等がある。

SB2

調査地北西 C-7・8に、SK566・567・568に切られ、SB1に隣接して位置する。疎混じりの褐～灰黄褐色土に掘り込んで構築されており、検出は困難であった。規模は4.4×5.7mで、平面形は煙道部がやや突出する長方形を呈す。主軸方向はN-81°-Eを指す。

覆土は四層に分かれる。1層の黄灰色土には礫を含まないが、2層以下には多量の礫を含む。特に床面近くには10～20cm大の礫が多量にみられた。壁は垂直に掘り込まれており、最大壁高は65cmを測る。床面は平坦で、中央から南側にかけては黄色粘質土の貼床がみられた。

カマドは東壁中央に設けられている。芯材にしたと思われる礫がカマド前に重なっており、遺存状況はよくない。火床の焼土も少ない。

ピットは北東隅に3ヶ検出された。いずれも径30～50cmの円形のもので、深さも15cmたらずである。

遺物は3層中から床面にかけて多く出土している。カマド前を中心にはほぼ全面からだが、壁際からの出土は少ない。黒色土器壺・碗、灰釉陶器皿・碗・瓶、須恵器壺・碗・甕（四耳甕）、土師器甕・小形甕・台付甕、また、鉄製の鎌の出土もある。土器の中にはSB8、SB9出土のものと接合する例もある。

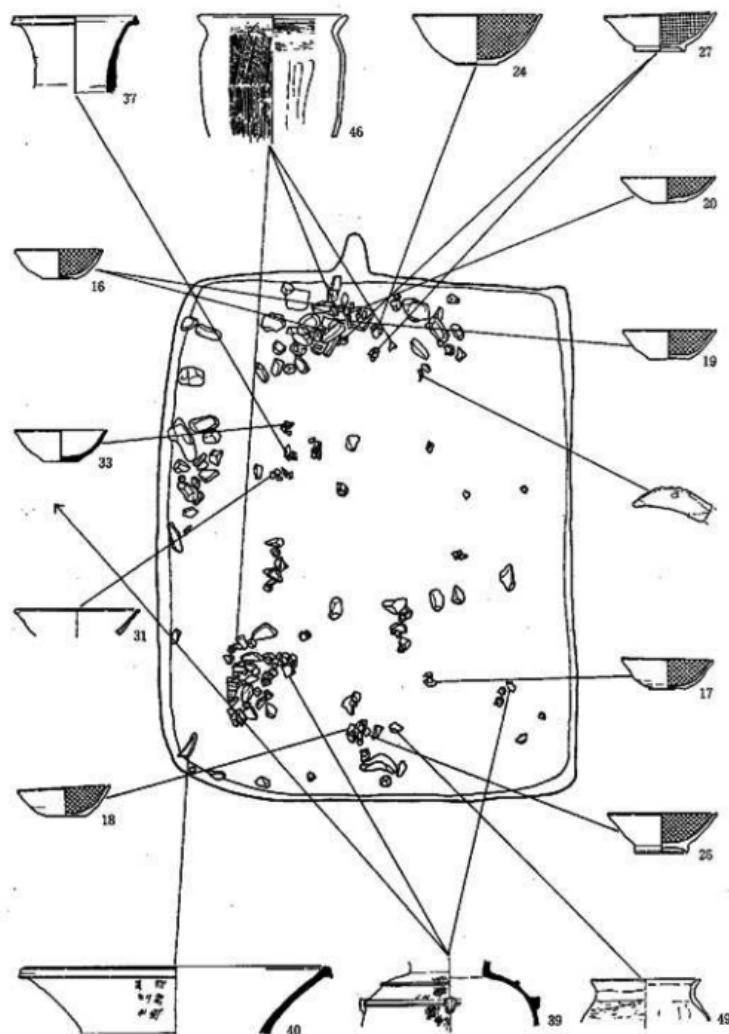
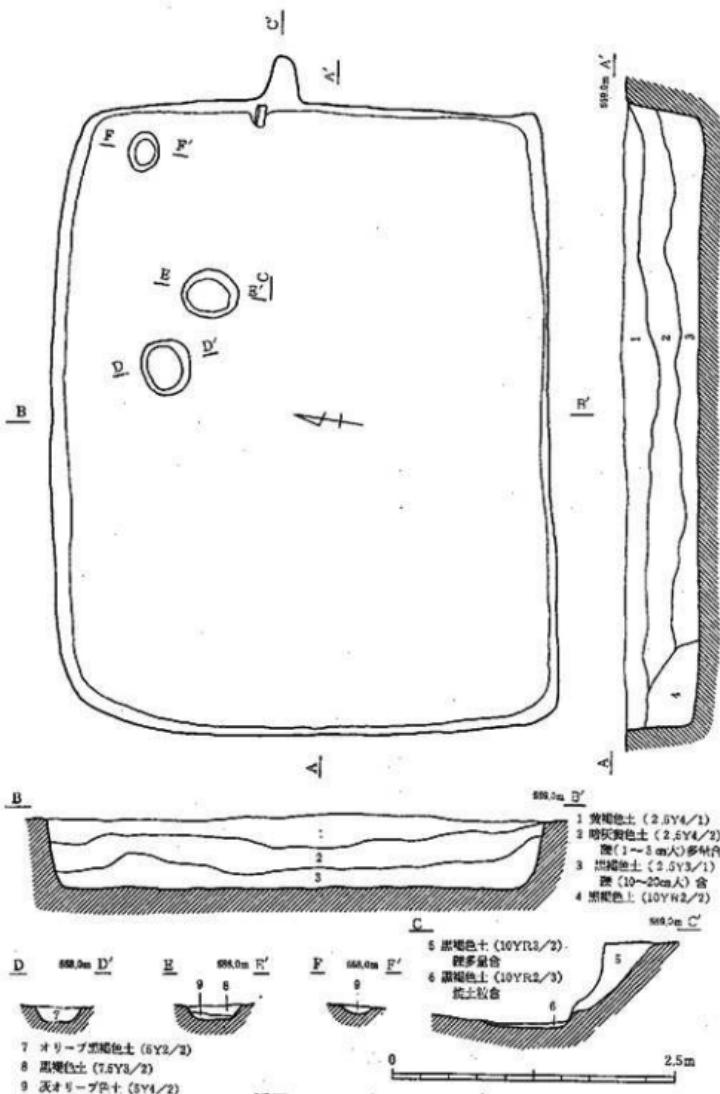


插圖 6 SB2 遺物出土狀況圖



插図7 SB2 実測図

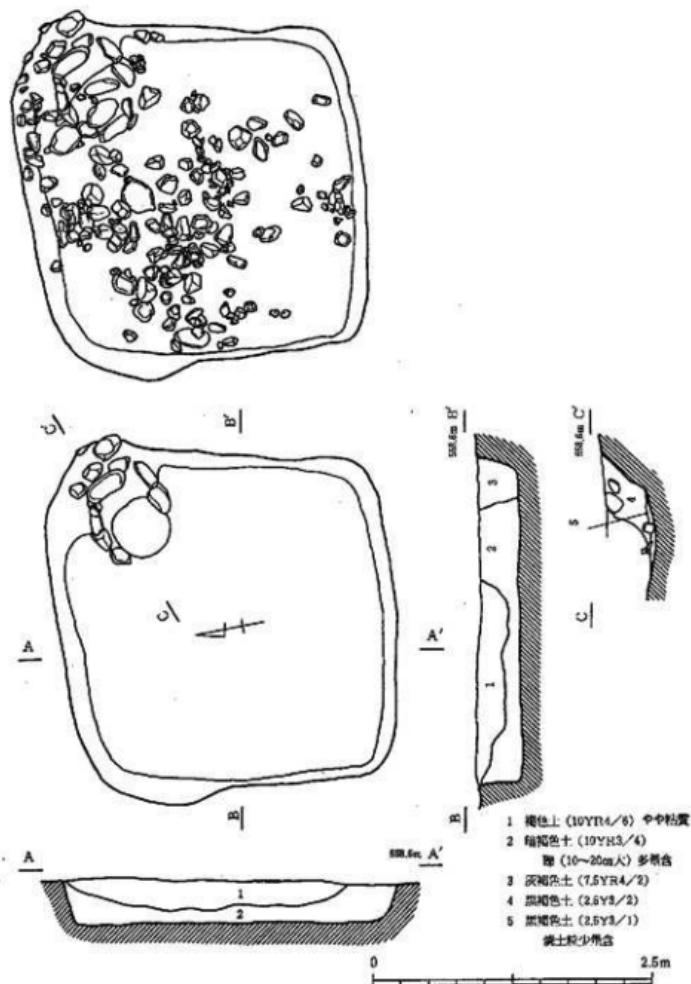


插图8 SB6 碗等出土状况图·实测图

SB 6

調査地北側 B-4に検出された。礫混じりの褐色土中に掘り込まれ、SB7・SB8に近接し、SK569・576に切られる。3×3mの不整方形を呈す小形の住居址で、主軸方向はN-96°-Eを指している。

覆土は3層に分かれ、下層に10~20cm大の礫が多量に含まれている。壁はほぼ垂直で、壁高は40cmを測る。床面は平坦である。

カマドは北東隅に設けられている。石を芯にし粘土で固めたもので、右袖側がやや深くなっている。焼土は薄い。

貯蔵穴・柱穴等は検出されなかった。

遺物は主にカマド前から出土している。須恵器坏・灰釉陶器皿・椀、黒色土器坏・椀・鉢、土師器壺・小形壺、縁付陶器等がある。

SB 7

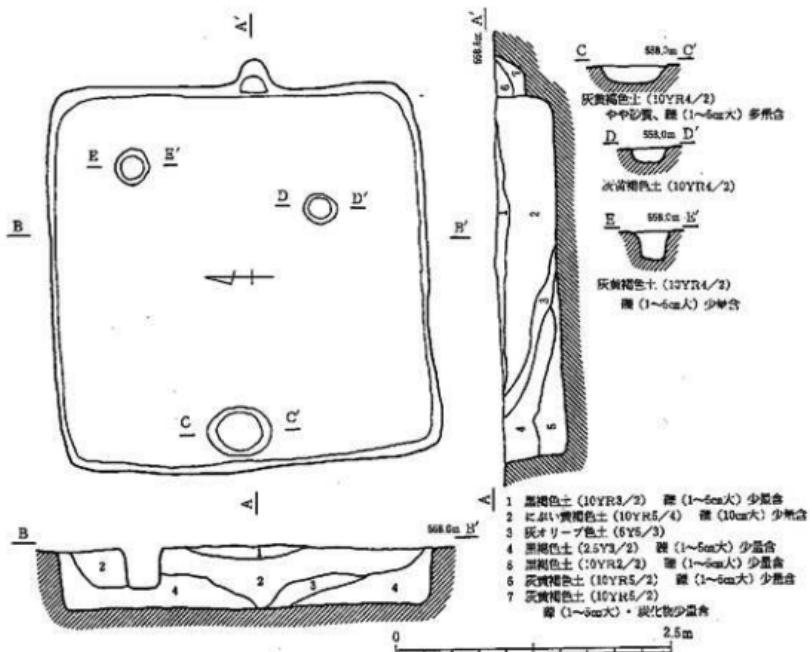
調査地北側 B-4に検出された。SK571・572・573・574に切られ、北にSB6、南にSB8が近接する。平面形は3.4×3.4mの方形を呈し、主軸方向はN-89°-Eを指す。礫混じりの褐色土中に掘り込まれており、壁高は55cmを測る。覆土は五層に分かれる。東西ベルトには南西方向からの流れ込みとみられる層(3.4層)がある。また、中央下層には10cm以上の礫がまとまって検出された。

床面は平坦で、ピットが3ヶ検出された。p1は58×45×16cm、p2は30×25×13cm、p3は30×30×25cmである。p3が柱穴に相当する可能性があるが、対応する位置には検出されなかった。

カマドは東壁中央に設けられている。遺存状況が悪く、煙道部と焼土がわずかに確認できただけである。



插図9 SB7 磯等出土状況図

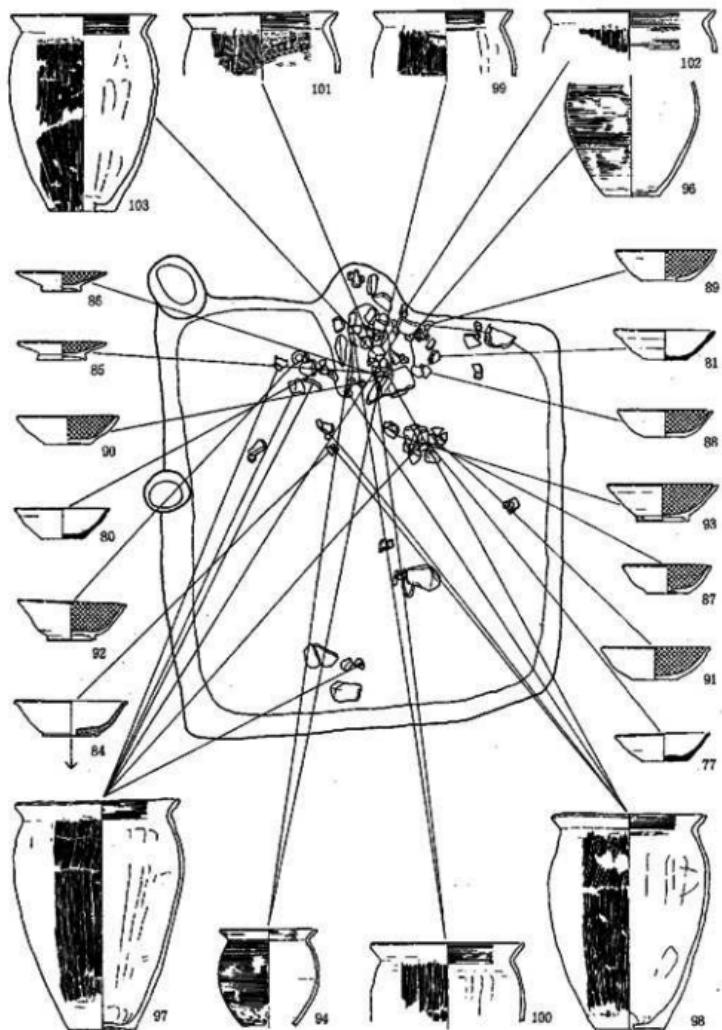


插図10 SB7 実測図

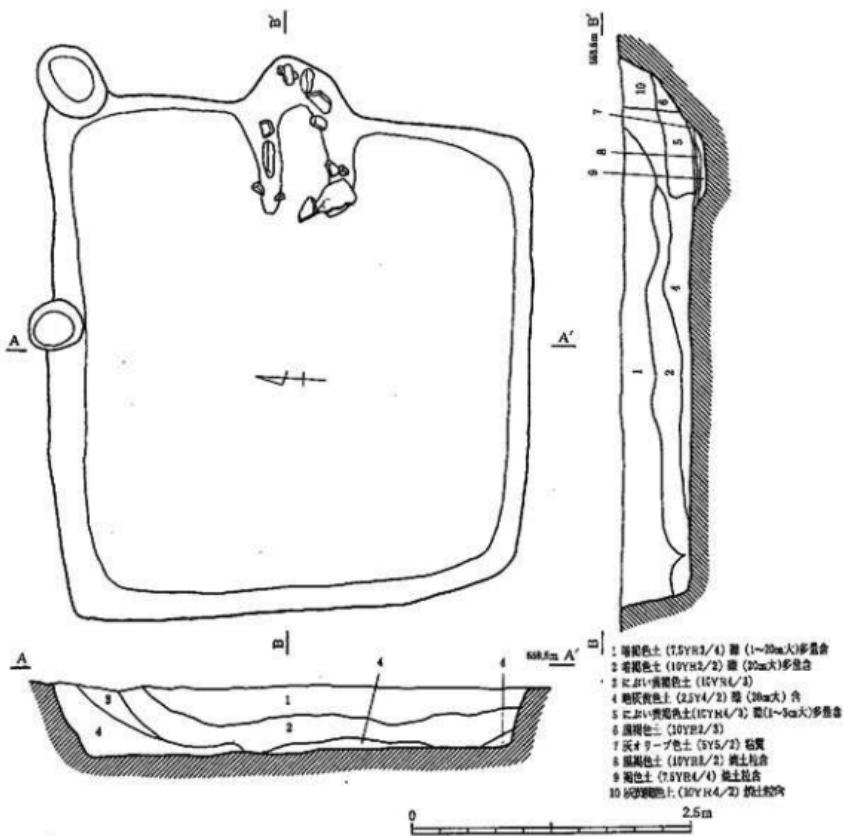
遺物は下層の隙間から、特にカマド前から多く出土している。須恵器壺・蓋・甕・壺、黒色土器皿・壺、土師器甕・小形甕等がある。また、須恵器蓋を転用した甕もカマド右側壁上位より出土している。

SB8

調査地北側 C-4に位置する。SK173・174・199・200・275に切られ、SB7に近接する。多量の礫が混じった褐色土中に掘り込まれて構築されており、カマド部分の他は検出が非常に困難であった。平面形は4.25×4.7mの長方形を呈し、主軸方向はN-86°-Eを指す。



插図11 SB8 遺物出土状況図



挿図12 SB8 実測図

覆土中には1~20cm大の礫が多量に含まれていた。壁はほぼ垂直で、壁高は60cmを測る。床面は掘り方をそのまま用いている。平坦てしまっているが、やや礫が露出している。

カマドは東壁中央に設けられている。30~50cm大の河原石を芯に灰オリーブ粘質土で固めている。

柱穴・貯蔵穴等の検出はなかった。

遺物はカマド内・前を中心多く出土している。特にカマド内には完形に近く復元できる土師器甕が横たわっていた。一方、離れて出土した破片が接合できる例、SB2出土のものと接合する例もみられた。須恵器坏・蓋・甕、灰釉陶器椀、黒色土器皿・坏・椀、土師器小形甕・甕等がある。

SB9

調査地北端 A-5に位置する。北半が館の掘に切られ規模は不明だが、残存する辺は3.2mを測る小形の住居である。褐色土中に掘り込まれて構築されており、壁高は25cmを測る。覆土は暗褐色の単層で10~30cmの大の礫を少量含んでいる。

カマドの位置は不明だが西壁際に15cm大の礫がまとまり、また遺物もそこから多く出土した。西壁中央にカマドがあり掘により壊されたと考えられる。

柱穴・貯蔵穴等は検出されなかった。

遺物には須恵器坏・黒色土器坏・椀、土師器小形甕・甕がある。西壁際に多く、特に須恵器坏1枚と黒色土器椀2枚が重なってまとめて出土した。

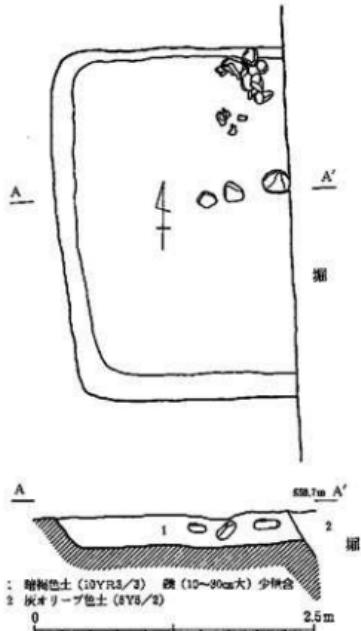


図13 SB9 実測図

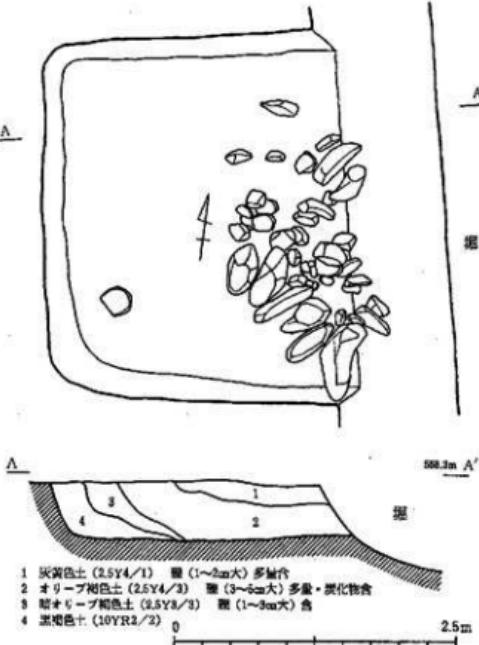
S B10

調査地東端 C-2に検出された。館の堀に切られ規模は不明だが、残存する辺は3.35mの小形の住居である。礫混じりの褐色土中に掘り込まれて構築されており、壁高は55cmを測る。

覆土は四層に分かれ。1～3層に小礫が多量に含まれている。また、堀との境近くには50cm大の河原石がまとまって堆積していた。住居に伴う施設たとえばカマドの構築材料に使われたものとは考えられず、また、調査地内からは他にこのような大石が出土していないことから、どのような意味をもつものか検討が必要である。あるいは堀に伴う施設の可能性もある。

カマド及び柱穴等は検出されなかった。

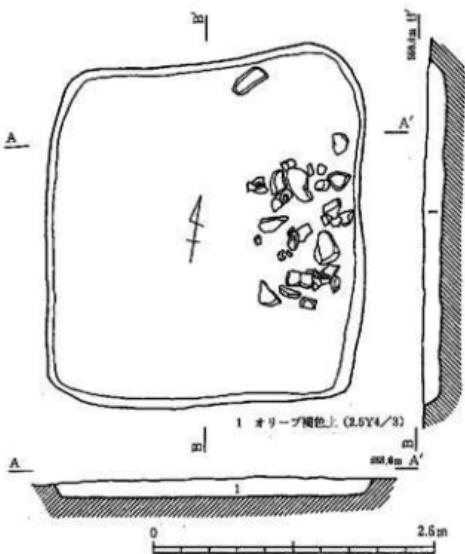
遺物は覆土上層から下層まで、また、大石の間からも出土している。須恵器壺・灰釉陶器皿・黑色土器皿・碗・鉢、土師器甕等があるが小片が多い。9世紀中ごろに位置付けられる。



插図14 SB10 実測図

S B11

調査地中央東側 E-3に位置する。礫混じりの褐色土中に掘り込まれて構築されているが、造構外まで覆土と同様のオリーブ褐色土が堆積しており検出は困難であった。2.8×3.1mの方形を呈す小形の住居で、主軸方向はN-82° -Eを指す。



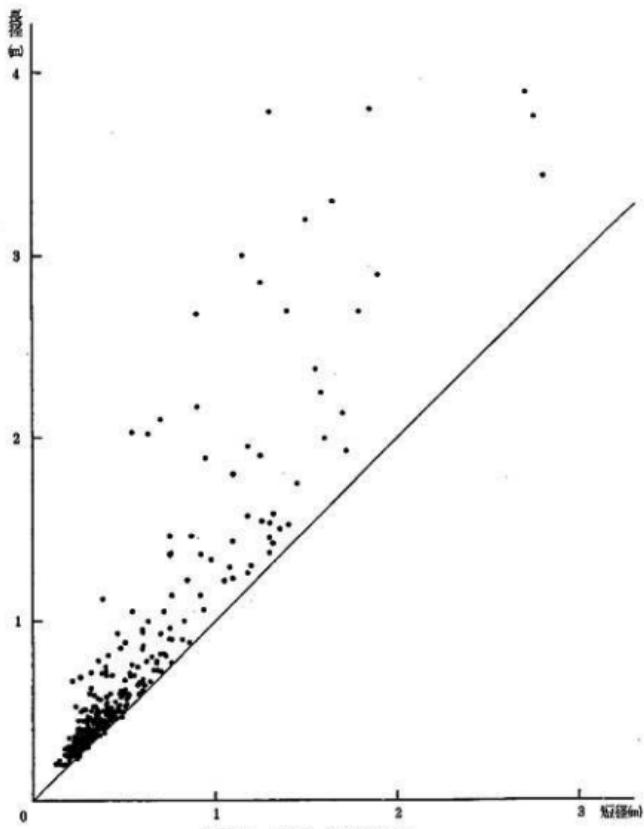
挿図15 SB11 実測図

覆土はオリーブ褐色土の単層で礫の混入は少ない。壁高は15~20cmと浅く、床面は基盤の礫が露出するものの平坦であった。カマドは東壁中央に設けられている。遺存状況が悪く、薄い火床と構築材にした礫がカマド前に残っているだけであった。

遺物は主にカマド前から出土している。須恵器壺、灰釉陶器皿、黒色土器壺・鉢、土師器小形甕・甕・鍋がある。

2 土坑

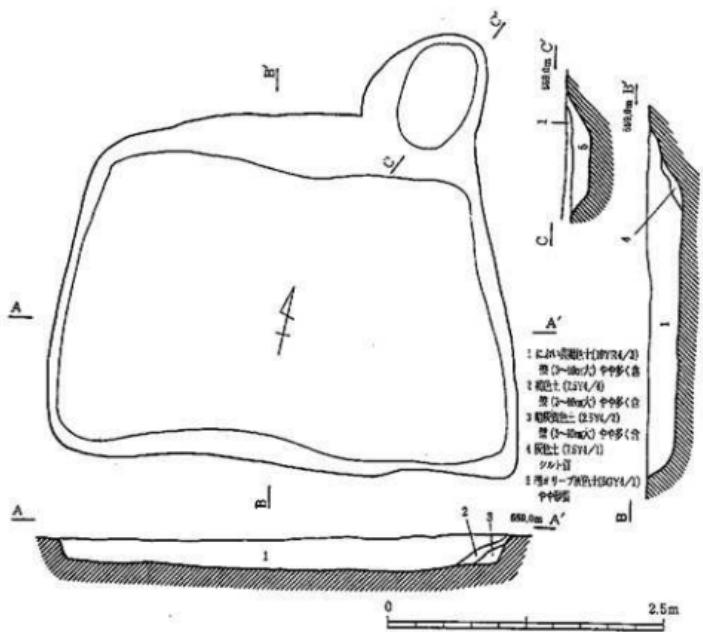
580基検出された。(検出時にSBの記号を冠した中世以降の遺構も、前述してきた平安時代の竪穴住居址と区別するためにここで扱う。) 平面形態・規模・出土遺物等さまざまである(挿図16)、これらは本米、竪穴建物址・掘立柱建物址を構成する柱穴等として把握されるべきものである。しかし、現時点では十分な把握が困難なため、掘立柱建物址等の構成についてはふれず、本章では個々の土坑を表により提示(付表)をし、代表的なものについて取り上げてふれたい。



挿図16 土坑 規模相関図

S B 3

調査地北西D-8に位置し、SK296を切る。礫混じりの褐～灰黄褐色土に掘り込まれて構築されている。平面形は4.2×3.1mの不整長方形で、長軸方向はN-77°-Eを指す。壁は、北側で崩落しているが、概ね斜めに立ち上がっている。底面は基盤の礫層をそのまま用いており、平坦である。覆土中には、4層を除いて、3～10cm大の礫が多く含まれている。特に南西側で顕著で、20cm大の大石もまとまってあった。大石は南東・北東側ではその量が少なく、北西側ではまったく見られなかった。



遺物にはV類の白磁碗（12世紀）、瀬戸美濃鉄釉碗・皿（17世紀）、伊万里染付碗、内耳鉢、釘、古錢等がある。

SB4

調査地西端中央 E-7に位置する。褐色土中に掘り込まれて構築されている。平面形は $3.45 \times 2.7\text{m}$ の長方形で、長軸方向はN-10°-Wを指す。底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。覆土はにぶい黄褐色土の単層で、礫を少量含んでいる。

遺物には18世紀に位置づけられる瀬戸美濃鉄釉碗、瀬戸美濃灰釉碗、染付皿がある。

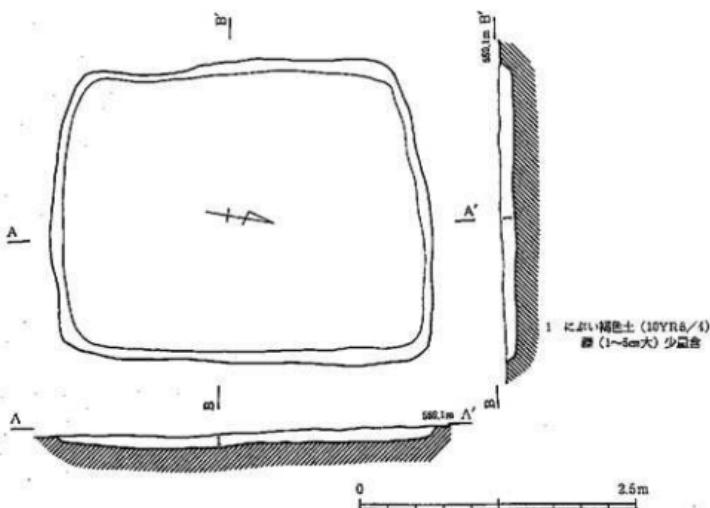


図18 SB4 実測図

SB5

調査地中央西側E-6に位置し、平面形は $3.3 \times 3.3\text{m}$ の不整方形を呈す。壁はややなだらかに立ち上がり、底面もほぼ平坦である。覆土は3層に分かれる。3層中に、人為的に投げ込まれたと考えられる $15\sim20\text{cm}$ 大の石が多量にあり、その中には石臼も含まれていた。その他の遺物には17世紀に位置づけられる志野皿、鉄津がある。

SB12

調査地東端中央E-2に位置する。平面形は $3.6 \times 3.1\text{m}$ の長方形で、長軸方向はN-25°-Wを指す。検出時には平安時代の竪穴住居址と考えたが、カマド等の施設は検出できなかった。壁高は $15\sim20\text{cm}$ と浅く、斜めに立ち上がっている。底面は基盤の礫が露出するものの平坦である。覆土はオリーブ褐色土の単層で、東壁中央には大きな石が見られた。

遺物には須恵器杯、土師器甕、黒色土器皿・碗がある。竪穴住居址同様、9世紀後半に位置づけられよう。

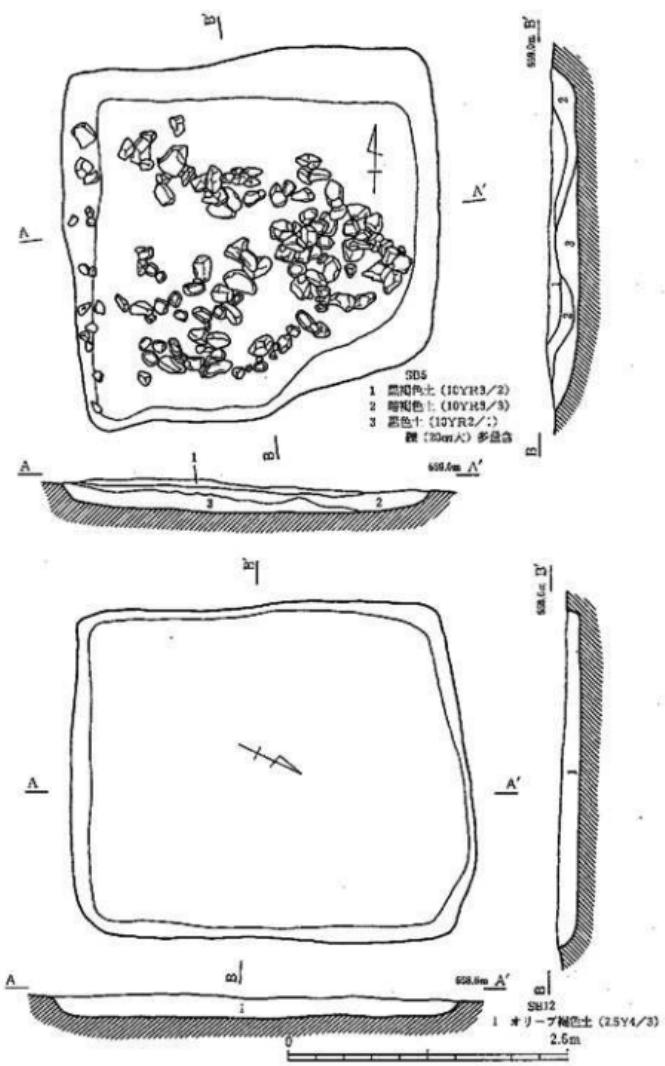


図19 S85・SB12 実測図

SK 1

調査地北西 C-8に位置する。平面形は $1.8 \times 1.1\text{m}$ の不整円形で、長軸方向はN-75°-Eを指す。浅い造構で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土は暗灰黄色土の単層で、底面には鉄分が沈澱して見られた。

遺物には土師器の壺らしい小片がある。

SK 2

調査地北西 C-7に位置し、礫混じりの褐～灰黄褐色土に振り込まれて構築されている。平面形は $2.02 \times 0.63\text{m}$ の長方形で、長軸方向はN-10°-Wを指す。壁はほぼ垂直で、底面は平坦である。覆土は三層に分かれ。2層中に炭化物（樹種はクルミが中心）が多量に含まれている。

遺物は土師器の壺が出土している

SK 3

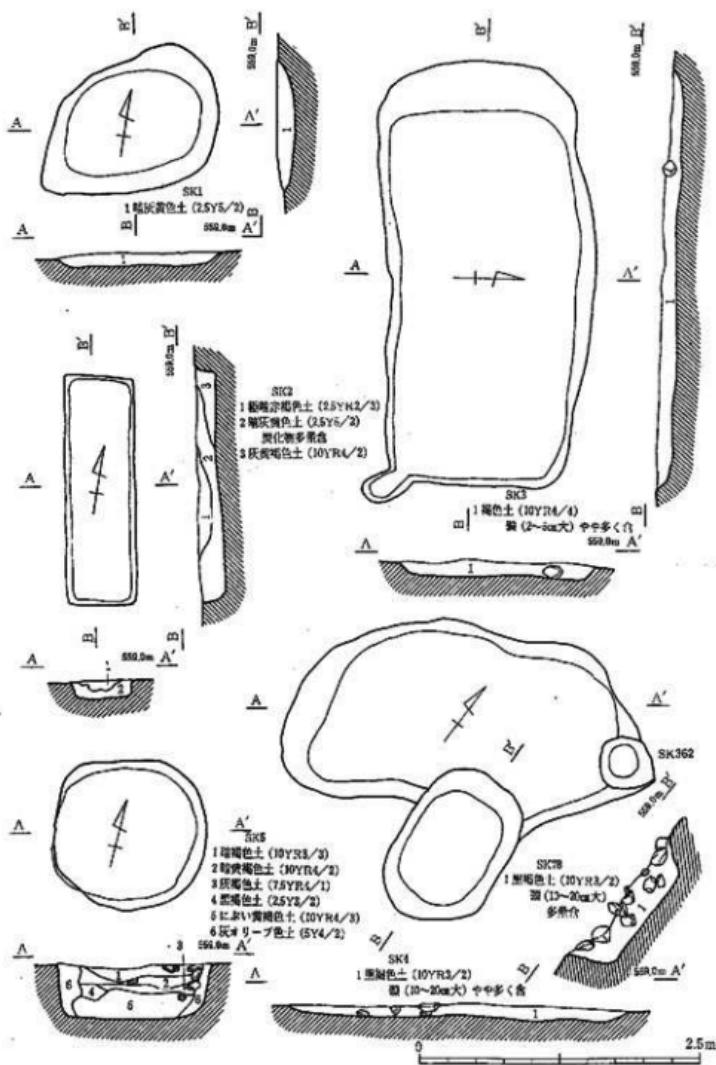
調査地中央北西寄り D-6に位置する。平面形は $3.78 \times 1.3\text{m}$ の長方形で、長軸方向はN-88°-Eを指す。南東隅に径25cmの円形の張り出しを有し、切り合い関係があったと思われたが、明確にできなかった。浅い造構で、壁はなだらかに立ち上がっている。覆土は褐色土の単層で、小礫が多く含まれている。特に、北西隅には20cm大の礫がまとまっていた。

遺物は北西側を中心に出土している。13世紀後半～14世紀前半に位置づけられる龍泉窯系の青磁碗、内耳鉢、18世紀に位置づけられる瀬戸美濃鉄釉碗、肥前系の陶器、また鉄製品等がある。

SK 4

調査地中央北西寄り C-6に位置し、SK78・362に切られる。平面形は $3.3 \times 1.65\text{m}$ の不整円形で、長軸方向はN-60°-Eを指す。浅い造構で、壁はなだらかに立ち上がっている。覆土は黒褐色土の単層で、10～20cm大の礫が含まれている。また、底面には鉄分が沈澱して見られた。

遺物の出土はなかった。



插図20 SK1・SK2・SK3・SK4・SK5・SK78 実測図

SK 5

調査地西端中央 D-8に位置し、SK6に近接する。掘り方の平面形は $1.42 \times 1.32\text{m}$ の円形を呈し、最大壁高は50cmを測る。壁は垂直で、やや袋状に掘り込まれているところもある。壁際を灰オリーブ色土で固めてあり、その内側が何らかの「あな」として機能していたものと考えられる。覆土は六層に分かれ、最下層には5~20cm大の礫が少量含まれていた。また、東壁際上位にも礫がまとまって見られた。

遺物の出土はなかった。

SK 6

調査地西端中央 D-7に位置し、SK5に近接する。掘り方の平面形は $1.52 \times 1.4\text{m}$ の円形を呈し、最大壁高は65cmを測る。壁は垂直で、やや袋状に掘り込まれているところもある。壁際と底面を厚さ10~20cmにわたって、粘性に富む暗青灰色土で固めてあり、SK5同様、その内側が何らかの「あな」として機能していたものと考えられる。覆土は三層に分れる。1層はマンガンと小礫を少量含む暗褐色土、2層はしまりがややない暗褐色土、3層は砂質のオリーブ黒色土となっている。このうち2層から3層にかけて、10~20cm大の礫がそれによって隙間ができるほど多量に重なり合っていた。礫はほとんどが割石であった。

遺物には須恵器壺、内耳鍋、志野皿（17世紀）、瀬戸美濃徳利（18世紀）、染付碗（18世紀）等がある。また、割石の中に石臼が含まれていた。

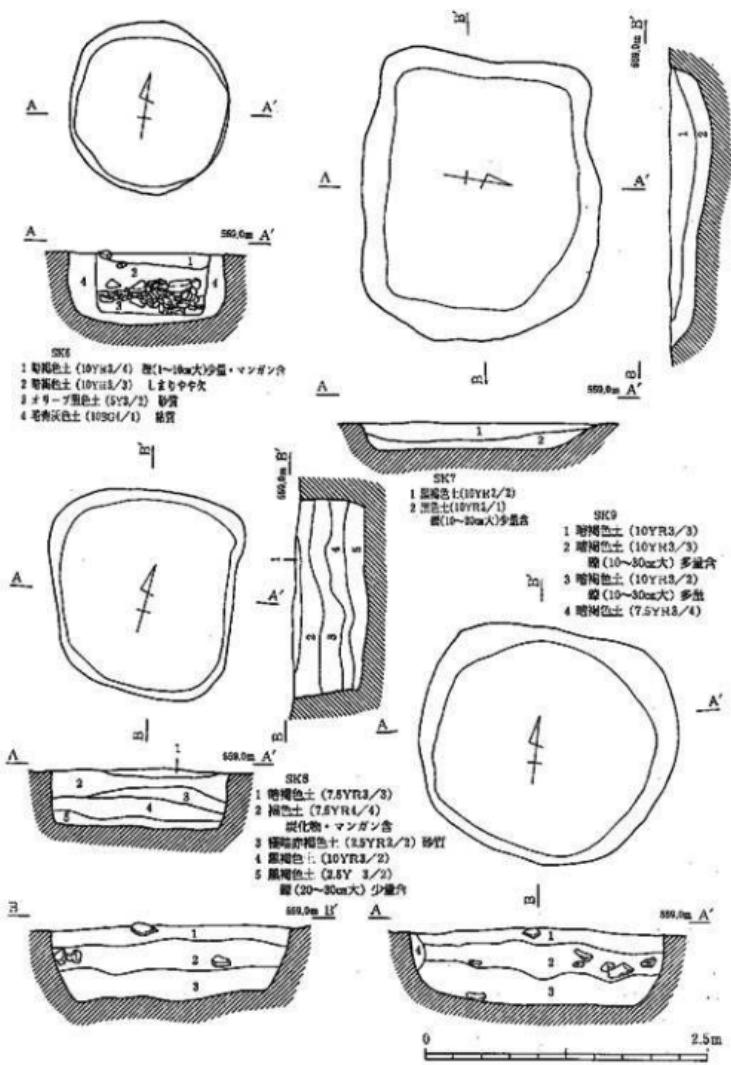
SK 7

調査地中央西側 D-6に位置する。平面形は $2.7 \times 1.8\text{m}$ の隅丸長方形で、長軸方向はN-85°-Eを指す。壁は斜めに立ち上がり、最大壁高は45cmを測る。底面は概ね平坦だが、やや傾斜をもっている。覆土は二層に分れる。北東隅と南西隅を中心 $20 \sim 30\text{cm}$ 大の礫がまとまっていた。

遺物は内耳鍋、瀬戸美濃鉄釉碗・拳骨茶碗（18世紀）、刀子他が出土している。

SK 8

調査地西端中央 E-7に位置する。平面形は $2.25 \times 1.58\text{m}$ の隅丸方形で、最大壁高は70cmを測る。壁は垂直で、底面にはやや凹凸がある。覆土は五層に分れる。このうち2層には炭化物（樹種はクリ・コナラ・ヒノキ等）とマンガンが、最下層の5層には20~30cm



挿図21 SK6・SK7・SK8・SK9 実測図

大の礫が少量含まれている。また、3層は砂質の土であった。

遺物には須恵器甕、黒色土器坏、銅錢がある。

S K 9

調査地中央西側 E-6に位置する。平面形は $2.38 \times 2.05\text{m}$ の円形を呈し、壁高は80cmを測る。壁はほぼ垂直で、底面にはやや凹凸が見られる。覆土は四層に分かれ。全般的に10~30cm大の礫が多く含まれており、特に2層に顯著であった。

遺物の出土はなかった。

S K 11

調査地西端中央に位置し、SB4に近接する。平面形は $3 \times 2.15\text{m}$ の不整形で北東隅でSK10を切る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はにぶい褐色土の単層で、南側を中心にして礫が少量含まれる。

遺物は北東側を中心に出土している。内耳綱、志野織部皿（17世紀）、瀬戸美濃灰釉碗（18世紀）・鉄釉碗、伊万里染付碗（18世紀）、煙管等がある。

S K 12

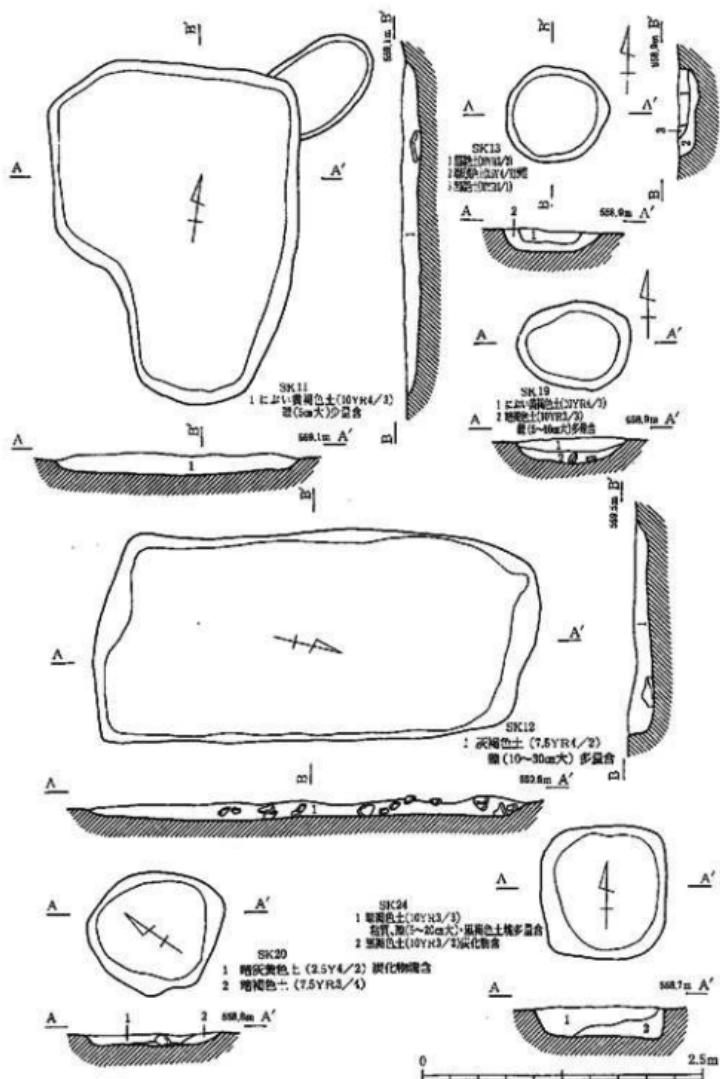
調査地中央西寄り E-6に位置し、SB5に近接する。平面形は $3.8 \times 1.85\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-15° -Wを指す。底面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土は灰褐色土の単層で、10~30cm大の礫を多量に含んでいる。

遺物はかわらけ、内耳綱、大窓皿（16世紀）、志野織部皿（17世紀）、瀬戸美濃鐵釉碗、凹石等が出土している。

S K 13

調査地北西 C-7に位置する。平面形は $0.88 \times 0.86\text{m}$ の円形を呈す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は19cmを測る。底面にはやや傾斜が見られる。覆土は三層に分かれ、うち、2層は砂質の層であった。

遺物には瀬戸美濃灰釉碗（18世紀）・拳骨茶碗がある。



擇図22 SK11・SK12・SK13・SK19・SK20・SK24 実測図

S K19

調査地中央西より E-6に位置する。平面形は $1.36 \times 0.75\text{m}$ の梢円形を呈し、壁高は21cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、底面にも傾斜が見られる。覆土は二層に分かれれる。2層中に小礫が多量に含まれている。遺物の出土はなかった。

S K20

調査地中央 D-5に位置する。 $1.22 \times 1.05\text{m}$ の不整円形を呈し、壁高は10cmと浅い造構である。底面はほぼ平坦で、鉄分が多量に沈澱し赤みが付いている。また、1~2cm大の小礫が多量に分布していた。壁はなだらかに立ち上がっている。覆土は二層に分かれ、1層中には炭化物塊も見られた。遺物の出土はなかった。

S K24

調査地中央北寄り C-5に位置し、周囲を小土坑が取り囲んでいる。平面形は $1.37 \times 1.3\text{m}$ の隅丸方形を呈し、壁高は30cmを測る。底面は平坦だが、東側がやや低くなっている。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は二層に分かれれる。1層は黒褐色土塊と小礫が多く含み、2層には炭化物が含まれる。

遺物には須恵器壺がある。

S K25

調査地中央北寄り C-5に位置する。平面形は $2.85 \times 1.25\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-85°-Eを指す。壁は東西は斜めに立ち上がり、南北はほぼ直に立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。覆土は三層に分かれれる。3層中には炭化物が層になって見られた。また、10~20cm大の礫が多く含まれている。

遺物には須恵器壺・壷、土師器壺、黒色土器碗がある。また釘の出土もある。

S K26

調査地中央北寄り C-4に位置し、北側をSK570に切られる。平面形は $0.72 \times 0.7\text{m}$ の円形を呈し、壁高は21cmを測る。壁はほぼ垂直で、底面にはやや凹凸がある。覆土は二層に分かれれる。うち、2層中に礫が多量に含まれる。

遺物の出土はなかった。

S K29

調査地中央 E-5に位置し、礫層に掘り込まれて構築されている。平面形は 1.58×1.32 mの隅丸方形を呈し、壁高は14cmを測る。底面から壁にかけてはなだらかに立ち上がっていいる。覆土はにぶい黄褐色土の単層で、10~20cm大の礫を少量含んでいる。また、壁際に炭化物が多量に見られた。

遺物の出土はなかった。

S K30

調査地中央 E-5に位置し、礫層に掘り込まれて構築されている。平面形は 1.95×1.18 mの長方形で、長軸方向はN-80°-Eを指す。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は40cmを測る。覆土は四層に分かれ、最下層に20cm大の礫が少量含まれていた。

遺物には須恵器壺、土師器甕がある。

S K31

調査地北東 B-4に位置する。褐色土中に掘り込まれ、平面形は 1.26×1.18 mの円形を呈す。壁高は21cmを測り、底面から壁にかけては緩やかに立ち上がっていいる。覆土はにぶい黄褐色土の単層で、小礫を少量含んでいる。

遺物には須恵器壺、土師器甕、黑色土器碗がある。

S K32

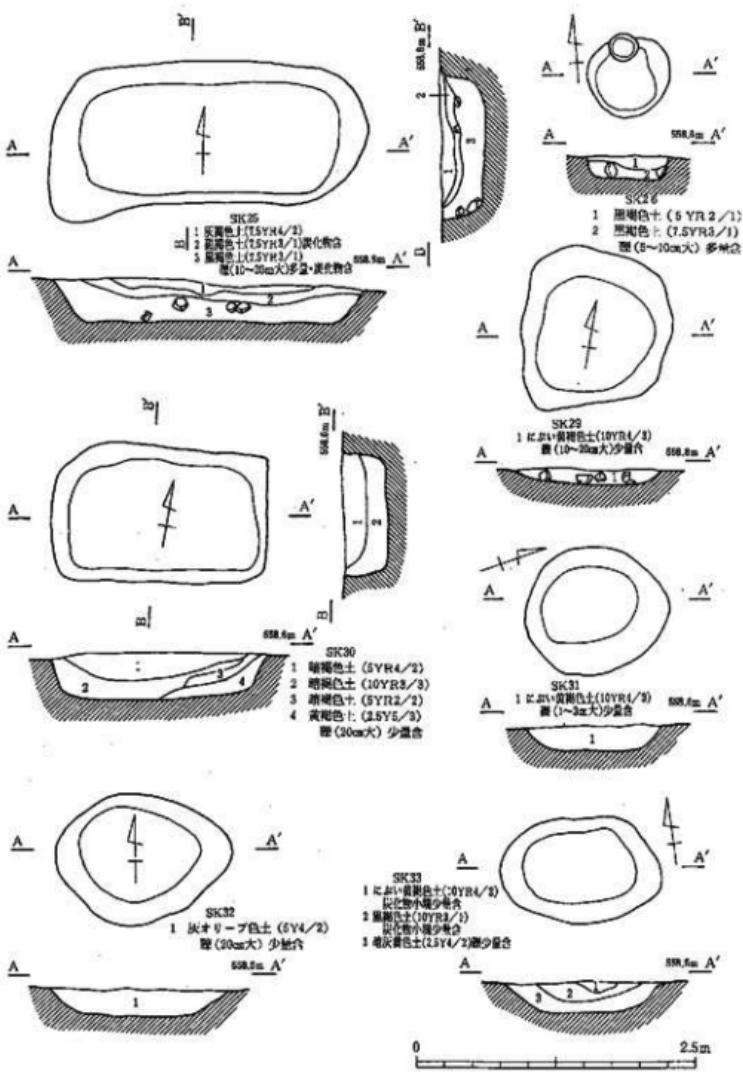
調査地北東 B-3に位置し、褐色土中に掘り込まれる。平面形は 1.57×1.18 mの梢円形を呈し、壁高は27cmを測る。底面から壁にかけては緩やかに立ち上がっていいる。覆土は灰オリーブ色土の単層で、底面と壁際に20cm大の礫が見られた。

遺物の出土はない。

S K33

調査地北東隅 A-3に位置する。褐色土中に掘り込まれ、平面形は 1.33×0.98 mの隅丸長方形を呈す。壁高は27cmを測り、底面から壁にかけて緩やかに立ち上がっていいる。覆土は三層に分かれれる。1・2層に炭化物の小塊、3層中に礫が含まれている。

遺物の出土はない。



擇図23 SK25・SK26・SK29・SK30・SK31・SK32・SK33 実測図

S K35

調査地北東隅 B-2に位置する。平面形は $1.45 \times 1.3m$ の方形を呈し、壁高は20cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は灰オリーブ色土の単層で、底面中央に20cm大の礫がまとまってあった。

遺物の出土はない。

S K38

調査地東端中央 D-2に位置する。平面形は $2.7 \times 1.4m$ の不整円形で、壁高は48cmを測る。底面から壁にかけて緩やかに立ち上がり、浅い摺り鉢状を呈している。覆土は二層に分かれる。2層中に10~20cm大の礫を少量含んでいる。

遺物には土師器壺、黒色土器碗、龍泉窯系の青磁碗（12世紀後半）、内耳鍋等がある。青磁は床面からの出土であった。

S K39

調査地東端中央 E-3に位置する。平面形は $1.29 \times 1.08m$ の梢円形で、壁高は30cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に掘り込まれている。覆土は三層に分かれる。1層中に5~10cm大の礫を多量に含み、2層は砂質の層であった。また、炭化物が少量含まれていた。

遺物には瀬戸美濃灰釉徳利、釘、鉄滓等がある。

S K40

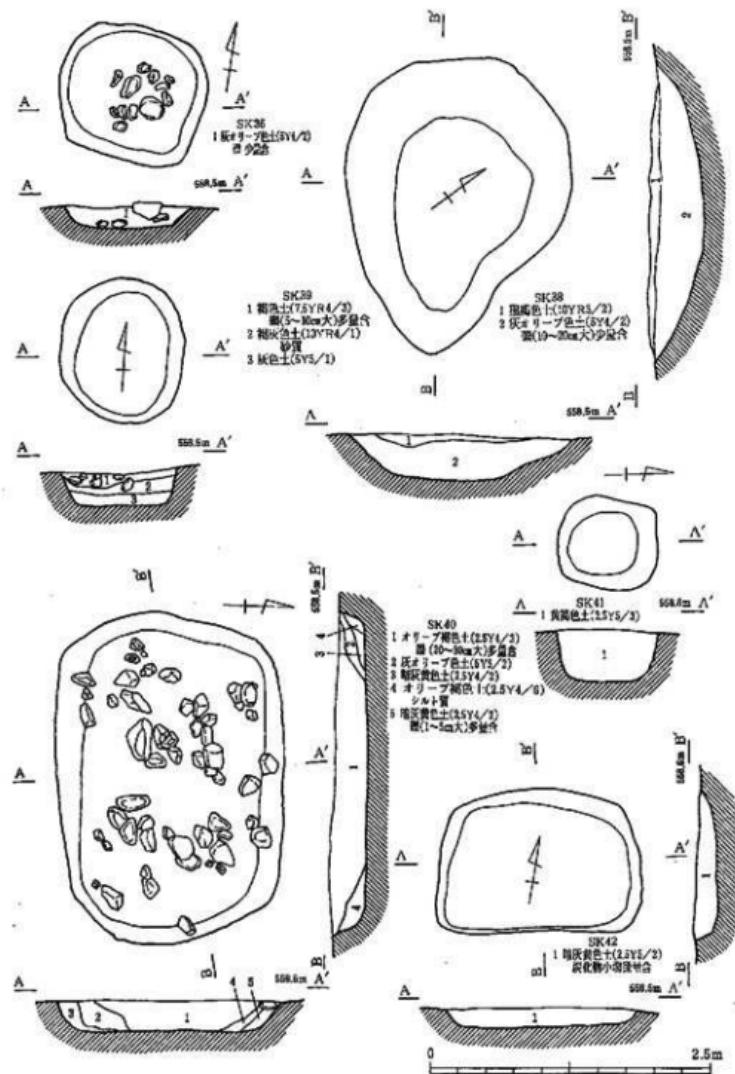
調査地東端中央 E-2に位置する。平面形は $2.9 \times 1.9m$ の隅丸方形で、長軸方向はN-85°-Eを指す。壁は崩落したとも考えられるが、斜めに掘り込まれている。底面は平坦である。覆土は五層に分かれ、20~30cm大の礫が多量に含まれている。

遺物には須恵器壺・甕、土師器壺、黒色土器壺がある。

S K41

調査地東側中央 E-3に位置する。平面形は $1.0 \times 0.83m$ の隅丸方形を呈す。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、深さは46cmを測る。底面は平坦、覆土は黄褐色土の単層であった。

遺物の出土はない。



挿図24 SK35・SK38・SK39・SK40・SK41・SK42 実測図

S K42

調査地北東 B-3に位置する。平面形は $1.9 \times 1.25\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-80°-Eを指す。壁は斜めに掘り込まれ、底面は平坦であった。壁高は18cmを測る。覆土は暗灰黄褐色土の単層で、炭化物の小塊を微量含んでいる。

遺物の出土はなかった。

S K215

調査地中央 E-4に位置し壁層に掘り込まれて構築されている。平面形は $1.46 \times 0.87\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-3°-Eを指す。底面は平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。壁高は12cmと浅い。覆土は暗オリーブ褐色土の単層で、小礫を少量含んでいる。

遺物の出土はなかった。

S K301

調査地南西隅 H-7に位置する。平面形は $1.23 \times 1.1\text{m}$ の円形で、深さは37cmを測る。底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。覆土は三層に分かれ。うち、1層の表面には、炭化物が薄い層になって見られた。

遺物の出土はなかった。

S K308

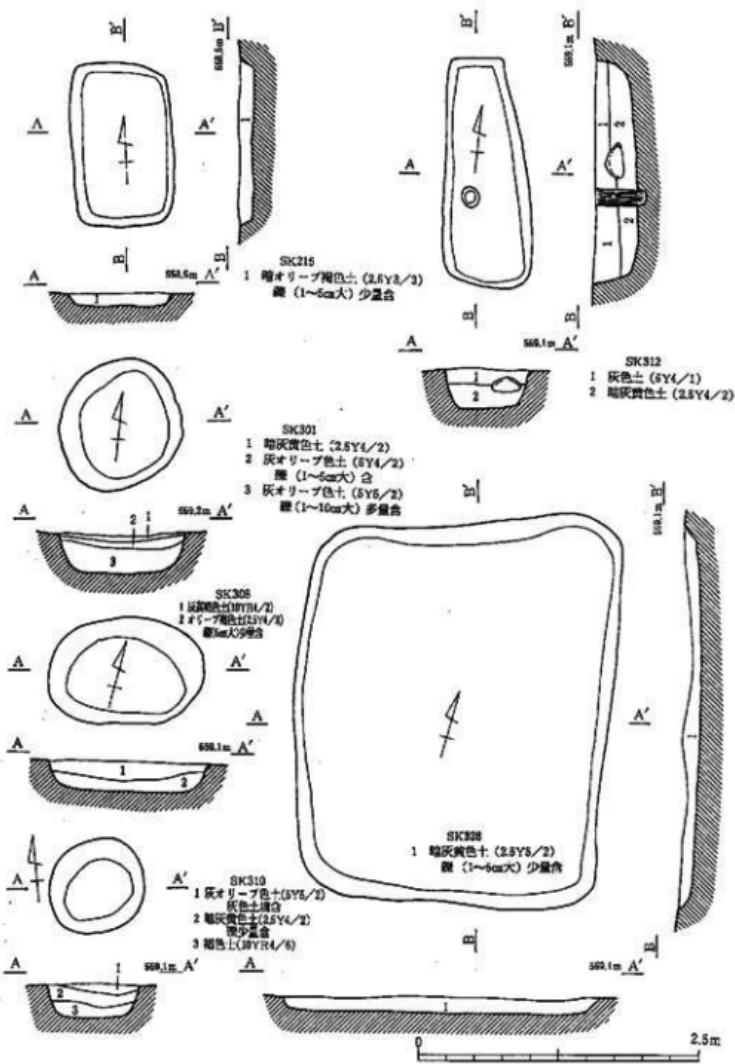
調査地南西隅 H-7に位置する。平面形は $1.36 \times 0.92\text{m}$ の橢円形を呈し、壁高は29cmを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は二層に分かれ、2層中に礫が少量含まれる。

遺物の出土はない。

S K310

調査地南西側 H-6に位置し平面形は $0.9 \times 0.82\text{m}$ の円形を呈す。底面は平坦で、基盤の礫層が露出している。壁はほぼ垂直に立ち上がり、その深さは30cmある。覆土は三層に分かれ。2層中に礫が少量含まれる。

遺物の出土はない。



挿図25 SK215・SK301・SK308・SK310・SK312・SK328 実測図

SK312

調査地南西側 F-7に位置し、礫混じりの黒褐色土中に掘り込まれている。平面形は2.1×0.7mの長方形を呈し、長軸方向はN-5°-Wを指す。壁は垂直に掘り込まれており、その深さは41cmを測る。底面は平坦で、その中央やや西寄りに20×15cmの柱穴が掘り込まれており、柱が残っていた。覆土中には柱の掘り方が確認できないので、遺構に伴うものか、後世に上面より打ち込まれたものと考えられる。覆土は二層に分かれ、その境に30cm大の扁平な石があった。また、2層の上面はマンガンを含み赤みがかっている。

遺物の出土はない。

SK328

調査地南西側 G-6に位置し、礫混じりの黒褐色土中に掘り込まれている。周囲を小土坑が取り囲む大形の土坑である。平面形は3.45×2.80mの長方形を呈し、長軸方向はN-15°-Wを指す。底面は基盤の小礫が顔を出しているものの平坦で、壁は斜めに立ち上がっており。覆土は暗褐色土の単層で、小礫を少量含んでいる。

遺物は須恵器甕、志野皿が出土している。

SK339

調査地南西側 F-6に位置し、中央をSK36に切られる。平面形は1.3×1.2mの円形で深さは22cmある。底面にはやや傾斜があり、壁は斜めに立ち上がっている。覆土は灰黄褐色土の単層で、小礫がやや多く含まれている。

遺物の出土はなかった。

SK355

調査地南西側 G-6に位置し、礫混じりの褐色土中に掘り込まれる。平面形は、2.14×1.7mの円形で、深さは45cmある。底面から壁にかけて摺り鉢状に斜めに立ち上がっている。覆土は五層に分かれる。うち、4層には炭化物が含まれ、5層は粘質の土であった。

遺物には黒色土器甕、龍泉窯系の青磁碗（13世紀）、東海系の捏鉢（13世紀）、瀬戸美濃天目茶碗（17世紀）等がある。

S K361

調査地南側中央 G-5に位置し、北西隅でSK363を切る。平面形は $4.05 \times 2.85\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-10°-Wを指す。底面はほぼ平坦で、東壁際中央に径35cmの穴が穿たれている。壁は斜めに立ち上がっており、壁高は44cmを測る。覆土は二層に分かれ。うち、2層には焼土・炭化物が微量含まれていた。また、中央南側の上位には20cm大の礫がまとまって見られた。

遺物は覆土上層から床面まで偏りなく出土している。土師器壺、東海系の捏鉢（13世紀）、内耳縞、志野皿（17世紀）、瀬戸美濃灰釉皿（17世紀）がある。

S K374

調査地中央 E-5に位置する。平面形は $0.82 \times 0.6\text{m}$ の円形で、深さは25cmある。底面には3個の扁平な石が敷ききつめられている。このような例は本遺跡のなかでは類例がない。覆土は二層に分かれ。

遺物の出土はなかった。

S K383

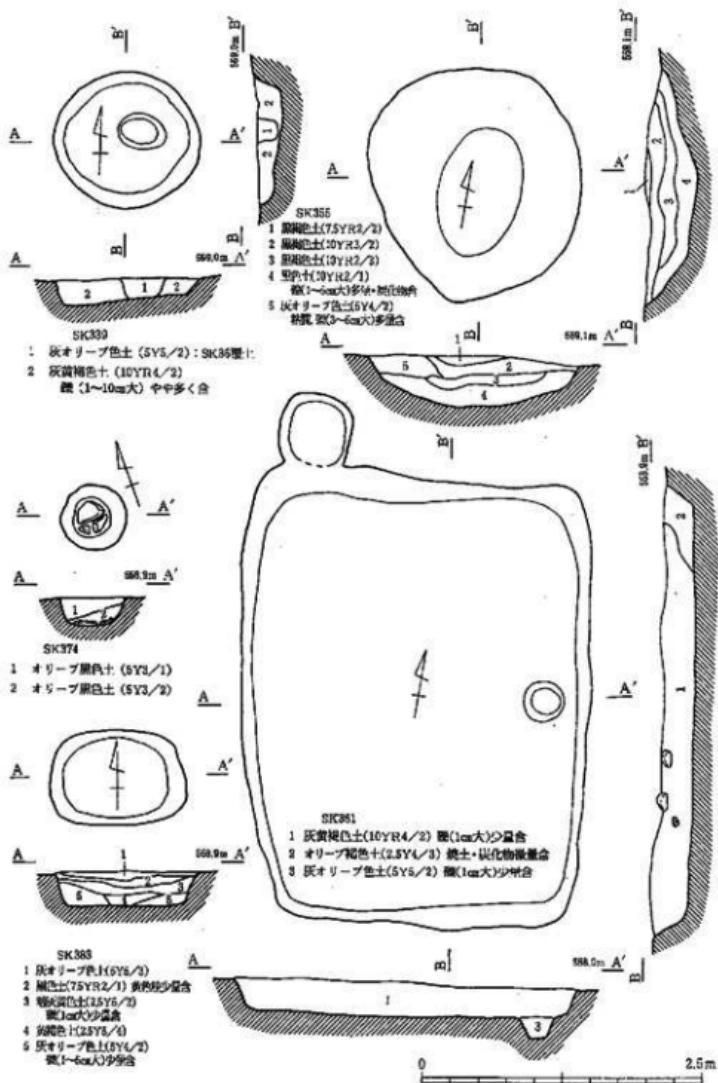
調査地南側中央 G-5に位置し、疊混じりの黒褐色土中に掘り込まれる。平面形は $1.22 \times 0.85\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-85°-Eを指す。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。壁高は30cmを測る。覆土は五層に分かれ、下層には礫が少量含まれていた。

遺物の出土はなかった。

S K385

調査地南側中央 G-5に位置する。平面形は $3.77 \times 2.75\text{m}$ の長方形を呈し、長軸方向はN-85°-Wを指す。底面は平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。壁高は29cmを測る。覆土は三層に分かれ。うち、1層には炭化物が微量含まれていた。また、中央上位には20cm大の礫がまとまっていた。

遺物は覆土上層から床面まで偏りなく出土している。龍泉窯系の青磁碗（13世紀）、内耳縞（16世紀）、かわらけ（17世紀）、志野皿（17世紀）、志野織部皿（17世紀）がある。



插図26 SK339・SK355・SK374・SK383 実測図

S K400

調査地南端東寄り H-4に位置する。平面形は $1.43 \times 1.1\text{m}$ の円形で、深さは15cmと浅い。底面は傾斜をもち、やや凹凸がある。また、基盤の礫が現われている。そこから壁にかけては緩やかに立ち上っている。覆土は二層に分かれる。1層中に小礫が多量に含まれている。

遺物には龍泉窯系の青磁碗がある。劃花文が施されたもので、12世紀後半に位置づけられよう。

S K401

調査地南端東寄り H-3に位置する。平面形は $2.0 \times 1.6\text{m}$ の円形で、深さは26cmある。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上っている。覆土はオリーブ黒色土の単層で、10~20cm大の礫が多量に見られた。

遺物には龍泉窯系の青磁碗（13世紀）、かわらけがある。

S K402

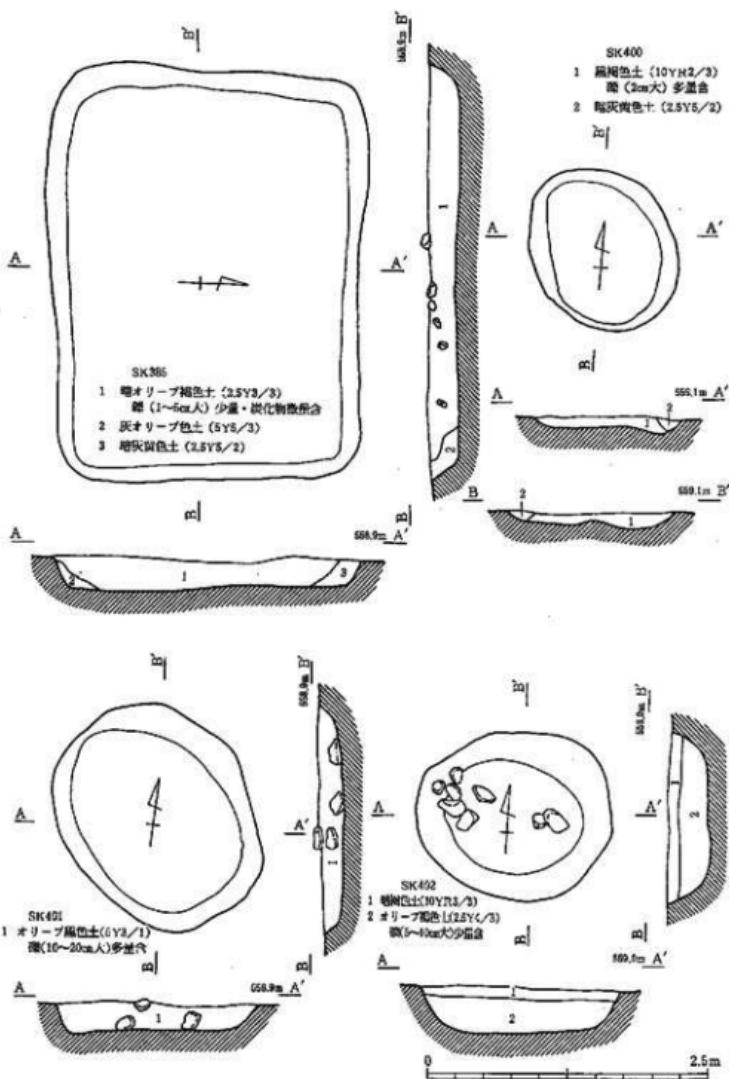
調査地南端東寄り H-3に位置する。平面形は $1.75 \times 1.45\text{m}$ の円形で、深さは41cmある。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上っている。覆土は二層に分かれる。下層に小礫が少量含まれている。

遺物の出土はなかった。

S K433

調査地南東隅 G-3に位置する。平面形は $3.2 \times 1.5\text{m}$ の不整円形で、最大壁高は63cmを測る。もともとは $2.0 \times 1.5\text{m}$ くらいの楕円形の造構で周囲が地表より一段と低く削られていたものと考えられる。底面は東側がやや低くなってしまっており傾斜をもっている。壁は垂直に近く掘り込まれている。覆土は三層に分かれる。特に3層は砂質の層であった。また、2層中に10~20cm大の礫が多量に含まれていた。蓋が異なるが、SK5・6と同様な造構であったと考えられる。

遺物は北西側より黑色土器坏が出土している。



挿図27 SK385・SK400・SK401・SK402 実測図

S K450

調査地南東隅 G-3に位置する。平面形は $1.5 \times 1.35\text{m}$ の円形で、深さは47cmと深い。底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がっている。覆土は暗灰黄色土の単層である。

遺物の出土はなかった。

S K452

調査地南東隅 G-3に位置する。平面形は $2.68 \times 0.9\text{m}$ の長楕円形で、深さは10cmと浅い。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土はオリーブ褐色土の単層で、小礫を少量含んでいる。

遺物の出土はなかった。

S K454

調査地南東隅 G-2に位置する。平面形は $2.3 \times 1.3\text{m}$ の不整円形で、深さは24cmある。南側に突出部がある $1.3 \times 1.1\text{m}$ くらいの楕円形の浅い遺構ととらえられよう。底面から壁にかけては緩やかに立ち上がっている。覆土は暗オリーブ褐色土の単層で、小礫を少量含んでいる。

遺物の出土はなかった。

S K500

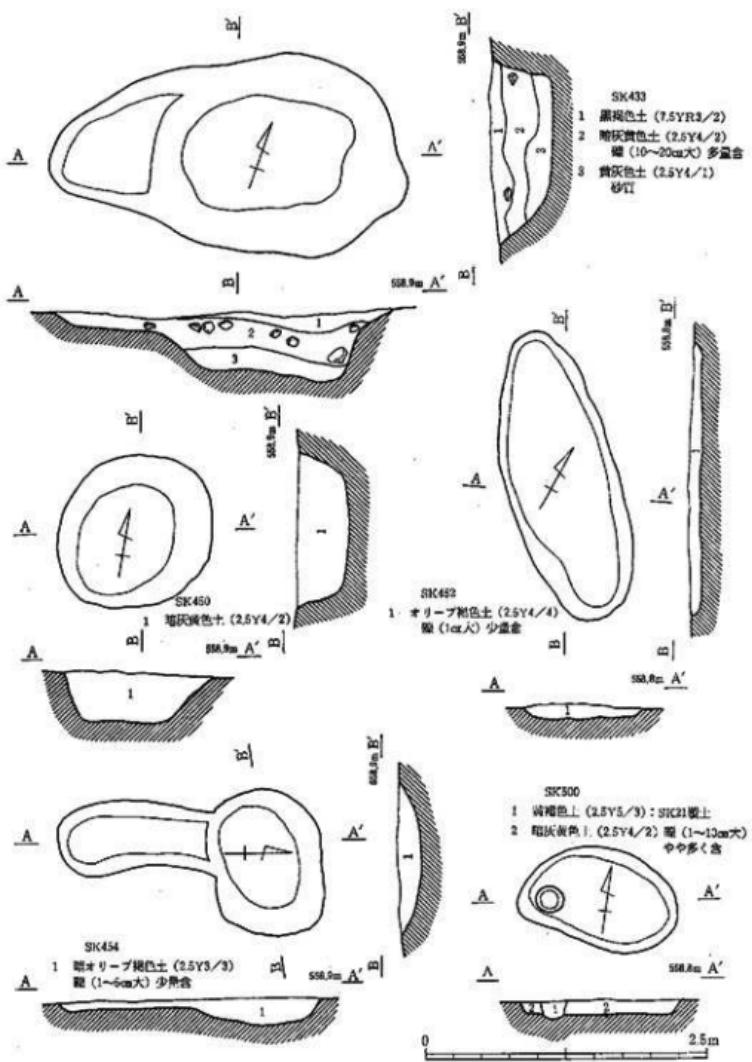
調査地南東隅 G-2に位置し、SK21に切られる。平面形は $1.45 \times 0.75\text{m}$ の楕円形で、深さは13cmある。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は暗灰黄色土の単層で、小礫をやや多く含んでいる。

遺物にはV類の白磁（12世紀）がある。

S K501

調査地南東隅 G-2に位置する。平面形は $1.92 \times 1.75\text{m}$ の円形で、深さは15cmと浅い。底面はやや傾斜をもち、壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は黒褐色土の単層で、南東側に礫がまとまって入り込んでいた。

遺物には須恵器甌がある。



插図28 SK433・SK450・SK452・SK454・SK500 實測圖

S K505

調査地南側中央 G-5に位置する。平面形は $2.16 \times 0.9m$ の長方形で、長軸方向はN-2°-Wを指す。底面は南北が浅く中央が深くなっている。東西はほぼ垂直に深く掘り込まれているが、南北は緩やかになっている。最大壁高は24cmを測る。覆土は四層に分かれ。うち、1層はマンガンが沈澱しており、また、4層には灰色土塊が少量含まれていた。

遺物の出土はなかった。

S K510

調査地東端中央 E-2に位置し、平面形は $1.13 \times 0.92m$ の円形を呈す。壁はほぼ垂直に深く掘り込まれていて、最大壁高は50cmを測る。底面は平坦である。覆土は二層に分かれ。2層中には5~15cm大の礫が少量含まれていた。また、1層は2層に被っただけの層である。

遺物の出土はなかった。

S K511

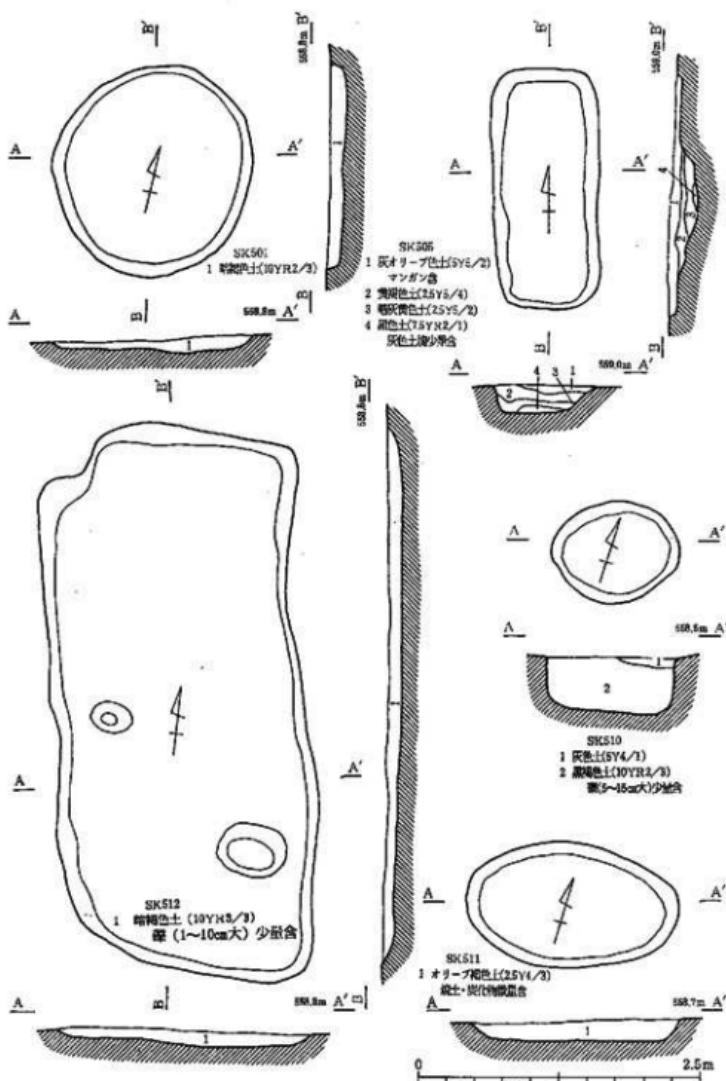
調査地東端中央 E-2に位置し、平面形は $1.88 \times 0.95m$ の橢円形を呈す。底面は平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。覆土はオリーブ褐色土の単層で、焼土・炭化物が微量含まれている。

遺物には土師器壺がある。

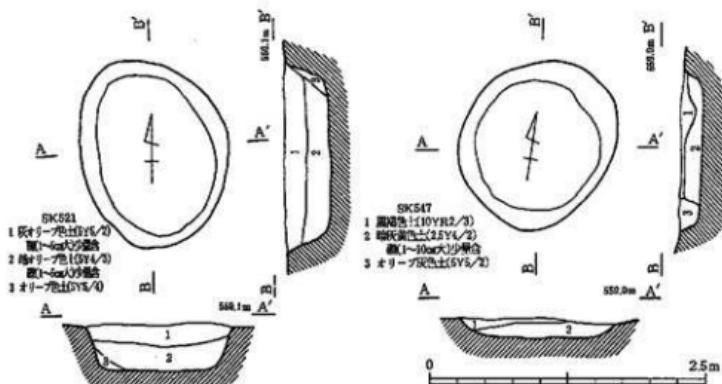
S K512

調査地南東隅 G-2に位置する。平面形は $4.84 \times 2.18m$ の長方形で、長軸方向はN-10°-Wを指す。底面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がっている。最大壁高は14cmと浅い。覆土は暗褐色土の単層で、小礫が少量含まれる。床面には2ヶのピットが穿たれている。一つは長径60cm、短径47cm、深さ10cm、もう一つは長径38cm、短径28cm、深さ28cmであった。いずれも覆土は礫を少量含む暗褐色土で、遺構覆土と変化はなかった。

遺物には土師器壺とかわらけがある。



挿図29 SK501・SK505・SK510・SK511・SK512 対測図



挿図30 SK521・SK547 実測図

S K521

調査地南西側 G-6に位置する。平面形は 1.52×1.3 mの椭円形で、深さは43cmある。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平坦である。覆土は三層に分かれ、1層の上面にはマンガンが沈澱していた。また、1・2層中には小礫が少量含まれる。

遺物の出土はない。

S K547

調査地南側中央 G-5に位置する。平面形は 1.53×1.26 mの円形で、深さは18cmと浅い。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。覆土は三層に分かれ、うち、3層中に小礫が少量含まれていた。

遺物の出土はなかった。

3 堀

調査地の北・東・南で堀を検出した。調査地端のためその内側のラインを確認し、一部を掘り下げただけの調査にとどましたが、北と東でそれぞれ1カ所トレンチ調査により、幅と深さを明らかにした。(挿図32)また、西側では地表に残る土壘及び堀とされる遺構について、断ち割りと表面高を記録した。(挿図33)

幅は北側で4.5m、東側で3.3m、深さは北側が1m、東側が0.75mを測り、東側より北側がやや規模が大きい。底は比較的平坦で、壁は約30°～40°と緩やかに立ち上がっている。

東側では埋土に灰色土の堆積がみられ、砂やマンガンが多く含まれていることから滲水していたことがうかがえる。滲水していた様子は南側でもうかがえるが、北側では明確でない。東側・南側は上位にもそれらの堆積があるので、ある程度埋没してからも水路として利用されていたのだろう。また、北側・東側とも、中位から上位にかけて礫が多量に含まれており、近世以降、人為的に埋められたことがうかがえた。

北側では、当初、考えられていた道路の内側、土星状に高まった土手の下から堀が検出された。おそらく、ここもその際に改変されてそのような地形になったのだと考えられる。調査地の土層が安定していないこと、遺構外から多量に遺物が出土していることもこの改変が大きかったためと考えられる。

遺物は古代から近世のものまで多く出土している。中世以降のものでは白磁、内耳鍋（16世紀他）、志野皿（17世紀）、瀬戸美濃の三足香炉（17世紀）・灰釉鉢（18世紀）・灰釉皿（18世紀）・鉄釉鉢（19世紀）・備前徳利（19世紀）・染付碗（19・20世紀）、搔鉢、染付碗等がある。いずれも検出面・上層からの出土で、最下層からは、資料が得られなかった。これからは18世紀から19世紀にかけて大きな改変が行われたものと考えられよう。

なお、東側で堀を検出した際、埋土中に幅20～30cmの灰色土の帯が約2m間隔でみられた。断ち割った結果、灰色土は下層から統くもので、灰色土を残して掘り下げたことが明らかになった。しかし、畑の耕作によるものとは考え難く、その性格は不明である。

4 土壘

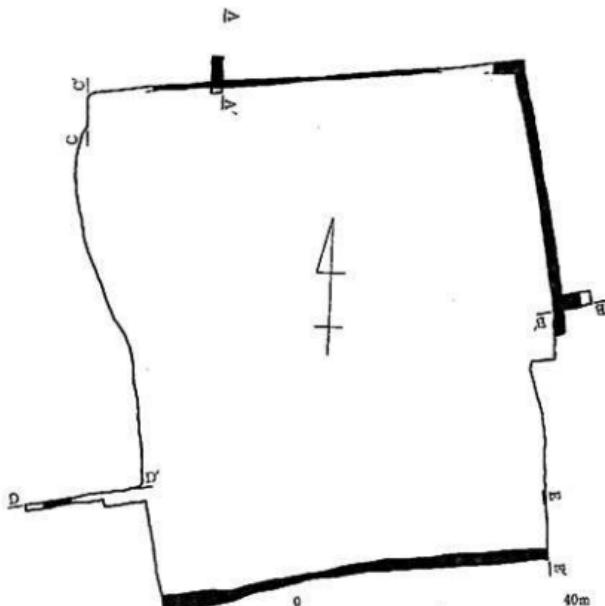
調査前には地盤や、一段と高くなった畑によりその位置が予想されていた。しかし、今回の調査ではその明確な痕跡は確認できず、とくに南側ではその存在が曖昧な結果となつた。

北側では北西隅で土層の確認を行なった（挿図32）。7層が土壘の旗と考えられ、その幅は3.4mを測る。また、堀に沿って遺構の空白部が存在し、その部位に土壘があったと考えられよう。

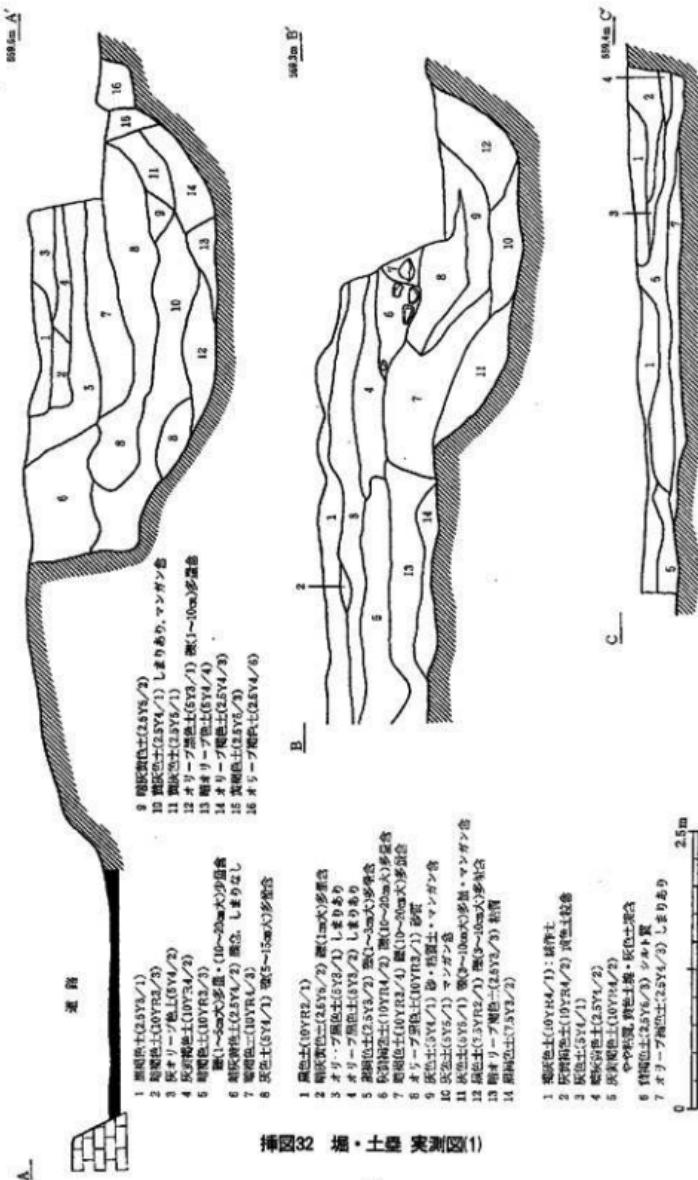
南側では南東隅で土層の確認を行なった（挿図33）。適切な場所でないため判然としないが、12層にその可能性がある。しかし、それに統くべき南側堀に沿っては遺構が並んでおり、仮にそれらが館の建物の一部とすれば土壘の存在は考え難い。同様に東側でも堀に近

い位置に造構が検出されており、規模が小さかったか、あるいはその存在が疑われる。

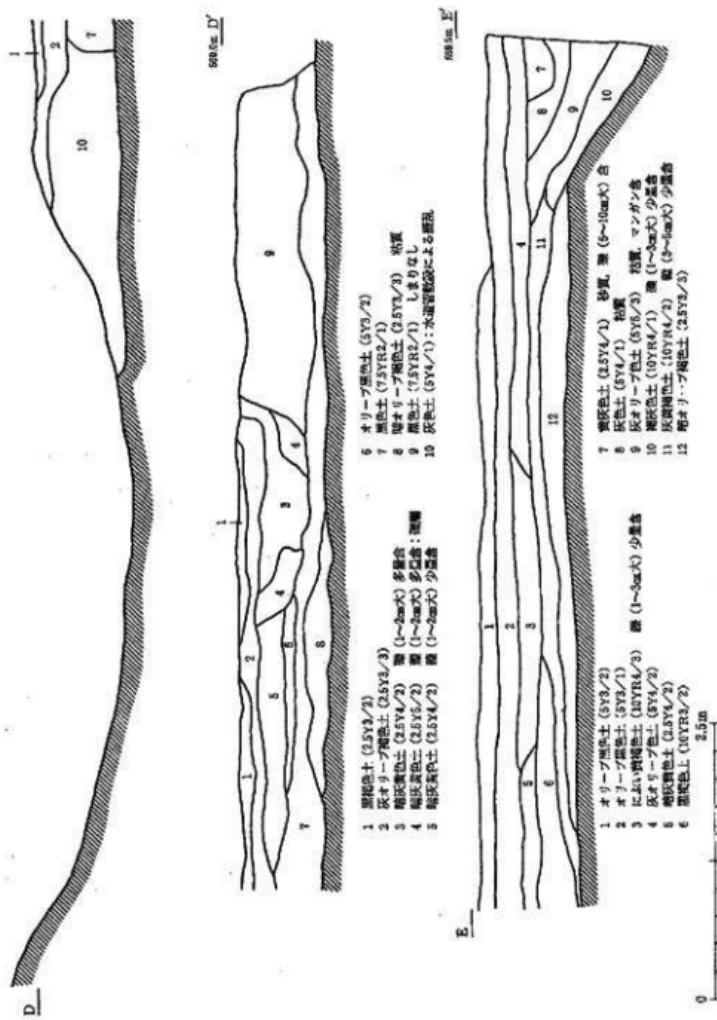
西側では土塁跡と推定されていた南北に続く一段と高くなった畠（幅 8.5m）を断ち割った。その結果、最下層（8層）に土塁の可能性が考えられた。全体にしまりのない層であること。中央に流路の痕（3、4層）が確認できることから、後世の改変によって周囲より一段と高い土塁状の畠ができあがったと理解できる。



挿図31 堀・土塁 実測地点



插図32 堀・土壠 実測図(1)



插図33 堀・土壠 実測図(2)

第3節 遺 物

1 土器・陶磁器

(1) 古代の土器

竪穴住居址を中心に多量に出土している。概ね平安時代（9世紀代）に属するものである。

土器の種類には須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・綠釉陶器がある。

須恵器

器形の種類には壺蓋・壺・椀・長頸壺・短頸壺・四耳壺・甕等がある。

壺蓋 SB1・SB2・SB7・SB8他で少量出土している。いずれも小片である。天井部に扁平な宝珠形のつまみがつき、端部を下方へ短く屈曲させる。口径が復元できるものは2点（64・75）あり、それぞれ、14.3cm、11.2cmを測る。天井部には回転ヘラ削り痕が観察できる。

壺 各住居址から出土している。無台のものが多く、有台のものは遺構外から出土した1点だけである。口径は12.6～14.0cm、器高は3.5～4.6cmに分布する。ほとんどが灰白色～黄褐色を呈す軟質のもので、黒斑が残る。

椀 1点のみ、SB2から出土した（36）。薄い体部が大きく外開し、底部端に断面三角形の高台が付く。

長頸壺 出土量は非常に少なく、器形が窺えるものはSB7出土の胴部（67）と、SB8出土の口頸部片（81）のみである。なお、SB2出土の口頸部（38）は四耳壺としてあるが大形の長頸壺の可能性もある。

短頸壺 出土量は非常に少なく、図示できたものはSB8出土の底部片（82）と遺構外出土の（204）だけである。

四耳壺 当地方で一般的に使われている呼称にしたがい、中形の甕の肩部に凸帯とそれを4分割する形で耳（突起）が付されたものをいう。図示できたものはSB2出土のもの（37・38・39）だけで、凸帯が2条巡る。

甕 各住居址から出土があるが、体部の破片が多く図示できるものは非常に少ない。SB2出土の40・41はともに大形の口頸部片でタタキ成形の痕が残る。40は端部を下方へ引き出し、41は上方へ折り返している。胴部片は外面に平行あるいは擬格子のタタキが施され、

内面にはナテ痕を残している。

その他 皿と思われる小片、鉢の出土がある。

土師器

器形の種類には壺・盤・甕・小形甕・鍋がある。また、甕のなかには脚の付くものが存在している。

壺 小片が數点出土しているのみで図示できるものはない。

盤 出土量は少ない。小形で盤部が平らなもの（42）と大形で体部が斜めに立ち上がるもの（14）がある。

甕 2種ある。主体は長嗣形で胴部外面にハケ目調整を施し、「く」字状に外反する口縁部内面にカキ目調整を施すもので、すべての住居址から多量に出土している。全形を知り得るもので、口径20.2～24.8cm、器高は28.1～36.0cmを測る。もう1種は胴部外面にヘラ削りを施して非常に器壁が薄く、口縁部が「コ」字状または「く」字状を呈す。一般的に武藏型の甕と呼称されているものである。

小形甕 ロクロを使用し、胴部外面をカキ目で調整するもの。「く」字状に外反する口縁部内面にもカキ目を施すものがある。出土量は多い。また、甕同様、武藏型と呼称されるものの出土もあり、SB2出土の50はその脚部と考えられる。

鍋 器形を窺えるのは1点のみ、SB11から出土した。丸い底部から体部が大きく外反し、口縁部がさらに「く」字状に弱く外反するもので、底部には手持ちヘラ削りが施される。

黒色土器

器形の種類には壺・碗・鉢・皿がある。内面をヘラ磨き・黒色処理するもののみで、外面を黒色処理するものはなかった。

壺 体部は膨らみをもしながら立ち上がり底部内面に明瞭な境を作らないもので、底部外面には回転糸切り痕を残す。口径13cm、器高4cm前後のものと口径15cm以上の大形のものの2法量がある。

碗 壺に高台を付した形態で、法量は口径15cm、器高は5.5cm前後を測る。

鉢 壺を大形にした形態をとり、口径は20cmをこえる。口縁の形態には丸くおさめるものと、面取りをするものとがある。

皿 断面三角形の高台が付されるもので、口径12～13cm、器高2.5～3cm前後の法量をも

つ。

灰釉陶器

器形の種類には皿・椀・瓶がある。

皿 体部に段をもつものともたないものとがある。法量には大小がある。

椀 体部にわずかに丸みをもち直線的に開く形態で、台形あるいは三日月様の高台が付される。

瓶 広口瓶あるいは短頸壺と考えられるものの胴部下半(28)、小瓶の小片がある。

綠釉陶器

SR6から小片が出土した。豊科町内では上ノ山窯跡群中から出土したものに次いで2例目である。器形の種類は皿で、体部に稜があり、口縁端部は外反する。胎土は淡黄褐色で軟質、釉は透明に近い淡黄緑色を呈す。

(2) 中世以降の土器・陶磁器

土坑及び堀、その他に遺構外からも多く出土している。総破片数で388点あり、うち、中世に属すると考えられるものが29点ある。残りは16世紀以降、近世から近代にかけてと考えられるものである。

中世の陶器には東海系の捏鉢・山茶碗・山皿があり、それぞれ2点・1点・7点出土している。磁器には中国産の白磁6点と青磁13点がある。

16世紀以降には焼き物の種類・器形とも増える。土器にはかわらけ(皿)・内耳鍋・ほうろく・火鉢がある。いずれも在地産と考えられるものである。陶器には常滑・瀬戸美濃・肥前系のものがある。さらに量は少ないが鉢等の中に在地産と考えられるものがある。主体を占めるのは瀬戸美濃で大窯・志野・志野織部の他、灰釉を施釉するもの、鉄釉を施釉するもの等がある。磁器は肥前系(伊万里)の染付を主体に、瀬戸美濃のものが若干見られる。16世紀以降と考えられる359点のうち、用途別の割合では食器が188点で52%、調理具が157点で44%、貯蔵具が4点で1%、その他・不明が10点で3%という結果が得られた。また、窯別別の割合では常滑産が2点で1%、瀬戸美濃産が147点で41%、肥前系が37点で10%、在地産が、160点で45%を占めている。時期は16世紀から20世紀まで継続して見られ、17・18世紀のものが最も多い。16世紀と考えられるものは瀬戸美濃大窯の製品3点(SK12・

遺構外出土）と、内耳鍋2点（SK358・東側掘出土）だけである。

埋鉢

灰白色の緻密な胎土をもつもので、SK355・SK361と遺構外から出土している。SK355出土のものは、断面三角形の高台を付し、体部下半は手持ちヘラ削りが施されている。口縁端部は肥厚し面を作り、そこに弱い沈線が観察できた。13世紀に位置付けられる。

山茶碗

SK268と遺構外からの2点出土しており、灰白色の緻密な胎土をもつ。底部は回転糸切り後、断面三角形の高台を貼りつける。その高台にはもみがら痕がみられる。13世紀後半～14世紀に位置付けられよう。

山皿

灰白色の緻密な胎土をもつもので、1点のみ、SK456から出土している（179）。口縁端部は丸くおさめられ、内面は滑らかになっている。13世紀に位置付けられる。

白磁

総数6点出土している。いずれもV類に分類される碗である。口縁部は大きく外反し、体部外面には櫛目文が施されている。12世紀に位置付けられる。

青磁

総数13点出土している。いずれも龍泉窯系の碗で、錦蓮弁文と劃花文を施すものが多い。145・159は13世紀後半～14世紀前半、167・176は13世紀後半、178・210は12世紀後半に位置付けられる。

かわらけ（皿）

図示できたものは4点ある。いずれも底部は回転糸切りで切り離し、体部内面は斜めにナデをいれるものが多い。体部は大きく開くが、181のようにいったん開いてから急に立ち上がるものもある。また、209のように器高の低いものもある。172は灯明皿として利用されている。

内耳鍋・ほうろく

小片では識別が困難なためあわせて扱う。出土量は多い。全体を復元できるものは少ないが、口径は25~30cm前後に集中しそうである。口縁部は外に開くもの(194)と、外傾する体部からやや内側に折れて立ち上がるものがある。ほうろくでは体部が丸みをもって立ち上がるもの(196)と直線的に立ち上がるもの(211)とがある。底部外面には砂粒が付いており、成形の際、離れ材としてそれが利用されていたことを窺わせる。

火鉢

1点のみ遺構外(調査地東端)より出土した。体部から口縁部にかけては内外に稜を持ちながら内傾し、端部を外に折り返している。口縁より1cm以下の内面に煤の付着が見られる。

常滑

壺が1点、SK97から出土した。小片で時期は不明である。

瀬戸美濃製品

多量に出土している。志野及び志野織部製品は別に扱う。

鉄軸を施釉するものと灰釉を施釉するものがある。前者には碗・拳骨茶碗・鉢・擂鉢等があり、後者には皿・菊皿・碗・鉢・三足香炉がある。また、この他に量は少ないが上絵付の皿(152)・染付(228)等もみられる。

鉄軸の碗は高台を削り出し、体部は多くが下半で丸みをもって立ち上がる。18世紀に位置付けられるものが多い。また、図示できたものはないが天目茶碗の出土もある。拳骨茶碗は体部と底部それぞれ1点ずつが図示できた。体部下半が大きく張り、口縁部へとまっすぐに立ち上がっている。18世紀に位置付けられる。193の鉢は19世紀に、199の擂鉢は17世紀後半以降に位置付けられよう。

灰釉の菊皿は1点のみ図示できた(218)。断面台形のしっかりした高台が付されるもので、その径は8.1cmを測る。17世紀に位置付けられる。鉢は口縁端部を丸く折り返すもので、口径は23cm前後に集中している。154は18世紀に、191・234は19世紀に位置付けられよう。三足香炉は1点出土している(195)。口径5.6cm、器高4.1cmを測り、17世紀に位置付けられる。

志野

長石釉を施すもので、丸皿がある。底部に小さい高台を削り出し、口径は11cm前後、器高は2.5cm前後に集中する。

志野縦部

長石釉を施す丸皿の内面に鉄絵を描く。法量は志野と変わらない。また、足を3ヶ付す向付が少量出土している。

染付

碗と皿がある。碗には体部下半が張るものと丸くなつて立ち上がるものとがある。碗・皿とも18世紀に位置付けられるものが多い。

(8) 遺構出土の土器

まとまつた量の遺物が出土した堅穴住居址について取り上げてふれる。

SB1

須恵器壺蓋・壺・皿・壺・四耳壺・甕、土師器壺・盤・小形甕・甕、黒色土器壺・椀・鉢がある。灰釉陶器の出土はなかつた。それぞれの重量比は甕のとおりである。食器の主体は軟質の須恵器と黒色土器である。図示できなかつたが、甕の中には武藏型のものも含まれる。盤(14)は大形のもので、内面にはススが付いていた。4の体部には墨書きが見られる。また、須恵器壺のなかにヘラ記号を持つものが1点見られた(挿図34)。

土器の種類	器形の種類	重量(g)	比率(%)	食器の比率(%)
須恵器	蓋	5	0.1	0.2
	壺	85	1.9	3.9
	壺(軟質)	520	11.4	23.7
	皿	5	0.1	0.2
	壺	15	0.3	—
	四耳壺	95	2.1	—
土師器	甕	485	10.7	28.0
	壺	5	0.1	0.2
	盤	170	3.7	7.7
	小形甕	695	15.2	—
	甕	1,000	21.9	7.9
黒色土器	甕(武藏)	80	1.8	—
	壺	350	7.7	16.0
	椀	395	8.6	18.0
	鉢	110	2.4	5.0
	不明	550	12.0	25.1

表2 SB1出土土器構成表



挿図34 SB 1出土須恵器壊ヘラ記号

S B 2

須恵器壊蓋・壊・椀・長頸壺・短頸壺・四耳壺・甕、土師器壊・盤・小形甕・甕、黒色土器壊・椀・皿・鉢、灰釉陶器皿・椀・瓶が出土している。それぞれの重量比は表のとおりである。食器は黒色土器の壊が最も多く、次いで黒色土器の椀、軟質の須恵器壊が続く。

黒色土器の壊には大小の2方量が認められる。灰釉陶器は4点出土した。K-14号窯式・光ヶ丘1号窯式に比定できるものである。42の土師器盤は小形のもので、内面はヘラ磨きされる。短い高台が付くと考えられる。47~49は武藏型の甕の口縁部で、50はその(小形甕)脚部である。また、22をはじめ、墨書き土器も数点出土している(挿図35)。39の須恵器四耳壺はSB9から出土したものと接合している。

S B 6

須恵器の軟質の壊・甕、黒色土器壊・椀・皿・鉢、土師器小形甕・甕、灰釉陶器皿・椀、綠釉陶器がある。それぞれの重量比は表のとおりで、全体としては土師器甕の出土量が多い。食器に限れば黒色土器が際立って多く、須恵器壊の占める割合は小さい。灰釉陶器はK-14号窯式から光ヶ丘1号窯式に比定できるものである。図示できなかったが甕の中に武藏型のものも含まれる。

土器の種類	器形の種類	重量(g)	比率(%)	食器の比率(%)	
須 恵 器	蓋	10	0.1	0.1	21.7
	壊	125	0.8	1.7	
	环(軟質)	1,395	8.8	19.3	
	碗	40	0.2	0.6	
	長頸壺	230	1.4	—	
	短頸壺	115	0.7	—	
	四耳壺	1,060	6.7	—	
土 師 器	甕	2,440	15.3	—	0.2
	壊	10	0.1	0.1	
	盤	5	—	0.1	
	小形甕	720	4.5	—	
	甕	3,640	22.9	—	
灰釉陶器	甕(武藏)	495	3.1	—	1.2
	皿	35	0.2	0.5	
	碗	45	0.3	0.6	
	瓶	10	0.1	0.1	
黒色土器	皿	220	1.4	3.0	76.9
	壊	2,565	16.1	35.6	
	甕	1,720	10.8	23.8	
	鉢	770	4.8	10.7	
	不明	275	1.7	3.8	

表3 SB2出土土器構成表

土器の種類	器形の種類	重量(g)	比率(%)	食器の比率(%)	
須 恵 器	环(軟質)	50	1.5	6.7	6.7
	甕	15	0.3	—	
土 師 器	小形甕	395	11.5	—	—
	甕	2,275	66.3	—	
	甕(武藏)	10	0.3	—	
黒色土器	壊	150	4.4	20.1	75.2
	甕	170	5.0	22.9	
	鉢	225	6.6	30.2	
	皿	15	0.4	2.0	
灰釉陶器	皿	100	2.9	13.4	17.4
	碗	30	0.9	4.0	
	甕	5	0.1	0.7	

表4 SB6出土土器構成表

SB7

須恵器坏蓋・坏・長頸壺・短頸壺・四耳壺・壺、黒色土器坏・皿、土師器小形壺・壺、灰釉陶器碗が出土している。それぞれの重量比は表のとおりで、食器では須恵器坏と黒色土器坏が主体をなす。須恵器の坏はいずれも硬質で、軟質のものは1片確認できただけであった。軟質のものが主体を占める他の住居址とは様相が異なる。また、黒色土器では碗が確認できなかった。

63の須恵器蓋は転用して覗として使われたものである（挿図35）。

SB8

須恵器坏蓋・坏・長頸壺・短頸壺・壺、黒色土器坏・碗・皿・鉢、土師器小形壺・壺・鍋、灰釉陶器碗・瓶がある。それぞれの重量比は表のとおりで、全体としては土師器壺の出土量が多く、食器のなかでは軟質な須恵器坏と黒色土器坏が主体を占める。須恵器四耳壺、土師器の武藏型壺の出土はなかった。

83の灰釉陶器碗は合形の高台をもつものでK-14号窓式に比定される。SB2出土片とも接合している。92には墨書がある（挿図35）。

SB9

造構が約半分しか残存していないこともあり、出土量は多くない。須恵器坏・黒色土器坏・碗・土師器小形壺・壺があり、うち須恵器坏には軟質のものと硬質のものがある。土師器壺のなかでは武藏型の壺の出土がなかった。

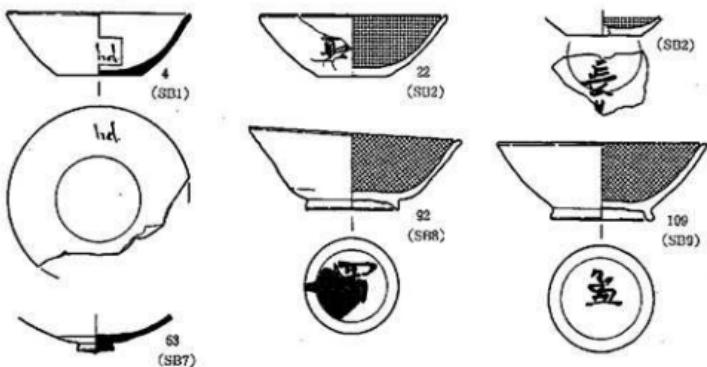
106・109・110の三枚が重なって出土し、109の底部には墨書がある（挿図35）。

上部の種類	器形の種類	重量(g)	比率(%)	食器の比率(%)
須恵器	蓋	20	0.3	4.1
	坏	160	2.7	32.7
	坏(軟質)	5	0.1	1.0
	長頸壺	800	13.3	37.8
土師器	短頸壺	120	2.0	
	四耳壺	45	0.7	
	壺	3,385	56.3	
	小形壺	240	4.0	62.2
黒色土器	盤	690	11.5	
	甌(武藏)	240	4.0	
皿	坏	220	3.7	44.9
	皿	85	1.4	17.3

表5 SB7出土土器構成表

上部の種類	器形の種類	重量(g)	比率(%)	食器の比率(%)
須恵器	蓋	20	0.2	0.9
	坏	30	0.3	1.4
	坏(軟質)	630	5.9	28.4
	長頸壺	160	1.5	30.7
土師器	短頸壺	50	0.5	
	壺	410	3.8	
	小形壺	470	4.4	
	甌	7,275	68.0	69.1
黒色土器	鉢	120	1.1	
	坏	1,065	9.9	
	碗	170	1.6	
	皿	150	1.4	
灰釉陶器	鉢	55	0.5	0.2
	不明	95	0.9	
	碗	5	0.1	
	瓶	5	0.2	

表6 SB8出土土器構成表



挿図35 文字関係資料

S B10

須恵器の壺・鉢・甕・四耳甕、黒色土器皿・壺・碗・鉢、灰釉陶器皿・壺・瓶、土師器小形甕・甕の出土がある。小片が非常に多く、また磨耗していたり、黒色土器には脱色しているものも多い。本址廃絶の特徴を示しているようである。食器では黒色土器壺・碗と軟質の須恵器壺が主体を占める。須恵器壺では硬質のものはなかった。また、灰釉陶器の量の多さも目につく。灰釉陶器は光ヶ丘1号窯式に比定できるものがある。土師器甕のなかでは武藏型の甕はなかった。

S B11

須恵器壺、黒色土器壺・鉢、灰釉陶器皿、土師器小形甕・甕・鍋がある。出土量は多くない。個体識別の結果、それぞれ2個体、1個体、2個体、1個体、2個体、3個体、1個体という結果が得られた。須恵器の壺は軟質のものである。

2 鉄器・金属製品

遺構内外から13点出土した。内訳は鎌1点、刀子1点、釘8点、煙管（吸口）1点、不明・その他2点である。また、この他に鉄滓5点が出土している。いずれも調査地北半の大形の遺構からの出土である。鎌（240）が平安時代の豊穴住居址（SB2）から、他は土坑及び検出面から出土したもので中世以降のものとみてよいだろう。

3 銭貨

9点出土した。遺構内からは、SB3とSK8、SK65、SK457の4点だけで、他は何れも検出面からの採集であった。

銭種は5点が判別でき、3種あった。237の元祐通宝、236の紹聖元宝、欠損して不明だが235の3点が渡来銭（銅銭）で、他は寛永通宝（鉄銭）である。銭種不明のうち、3点は鉄製で鑄が著しく判別できなかったものである。渡来銭3点はいずれも遺構内から出土している。

4 石器・石製品

石鐵4点、凹石3点、石臼4点、砥石1点等がある。うち、石鐵1点は整理作業の過程で紛失し、提示することができない。

石鐵はいずれも検出面で採集されたもので、黒耀石製である。豊科町内の平地部では初めての出土である。

凹石は252と253が安山岩製で、小形の丸い形態のものである。砂岩製の256は大形で座りがよくない。埋め込んで固定して使われたものと考えられる。また、3面が磨かれている。多用途に利用されたようである。

石臼の内訳は上臼3点、下臼1点である。うち、257は茶臼である。石質は254が玢岩、255が花崗岩、257・258が安山岩である。257が接合して完形に近くなるものの、他は1/3~1/4ほどしか残存しない。また、258は凹石に転用されている。

砥石は珪長岩製のものである。また、250は砂岩製のものである。薄く、側面が頸をなし、そこに細い溝が刻まれている。

註 (1) 中・近世陶磁器については、岐阜県埋蔵文化財センター 市川謙之氏・野村一寿氏にご教示、検定していただいた。

担当者の力量不足により、それらを十分に生かしきれなかったこと、分類及び呼称等についてやや混亂が生じていることをお詫びしておきたい。

参考文献 小平和夫「古代の土器」(『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4 -松本市内その1-』長野県教育委員会、1990年)

横田賛次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について -型式分類と編年を中心として-」(『九州歴史資料館研究論集』4、1978年)

第4章 調査のまとめ

今回の調査は町内に数多く残る城館跡に対する初めての、また平地部においても上手木戸遺跡（1987年）に次いで2例目の発掘調査として多くの成果をあげることができた。今まで不明確であった館跡の遺構を確認し、本郭の様相を知るがかりを得たこと。さらには石鎧の出土、古代集落の検出といった新たな知見も得られた。以下、時代を追って成果と課題を明らかにし、まとめとしたい。

石鎧は4点出土した。町内では東山手中及び山麓からの出土はあるが、平地部では初めての発見となった。居住の痕を示すものではないが、平地部における縄文人の活動に対して再考を要する結果となった。

平安時代の竪穴住居址は8軒検出された。これも豊科町の平地部では初めての発見である。出土土器よりいずれも9世紀後半に位置づけられる。『南安郡誌』によると荒井遺跡に竪穴住居址らしい遺構があったとの記述があり、また、平成3年度調査の梶海渡遺跡でもほぼ同じ時期のものが1軒検出されている。吉野がこの時期、集落遺跡であったことが窺えよう。竪穴住居址が掘り込まれているのは基盤となる礫混じり土で、それも60cm前後と深く掘り込まれている。微高地に住居を設け、SB2から出土した鎧が示すように、おそらく東側の低地で水田経営を行っていたと考えられる。しかし、いまだ安定した生活域とはなっていないかたようで、集落は継続していない。住居址覆土中にも流れ込んだ土砂の堆積が観察できる例（SB7）もある。このように集落が9世紀後半の1時期にみられるという様相は、梓川右岸の松本市島内北方遺跡と共通している。⁽¹⁾

遺物には「長□」の墨書き器や縁釉陶器の出土があり注目される。

古代の集落は10世紀には姿を消すが、13世紀ころには再び生活の痕跡がみられる。東海系の捏鉢、山茶碗、山皿、さらに白磁、青磁等が出土している。しかし、館が築かれるまで継続して集落が営まれた様子は窺えない。

館跡については堀の位置を確認し、その内側から580もの土坑（あな）を検出した。既に触れてきたようにこれらは本来建物の柱穴等として把握されるべきものである。実際いくつか組んでみたのが（挿図36）、確実に捉えることはできず建物として提示することは控えた。東側と西側でよく通っており、中央部分と北西側で疎となっていることがわかる。

不明であった築造時期については、16世紀に位置付けられる遺物が少量みられることから、16世紀代には築かれていたと考えられよう。調査地は慶安4年（1651年）の検知帳で

は既に元屋敷となっており、伝承では火事によって居を移したとされている。しかし遺物でみるとかぎり、17・18世紀の遺物が卓越しており、検出された遺構の多くはこの時期のものと考えられる。また、北側の表土中にわずかな炭の層があつただけで火事に結び付くような痕は確認できなかった。廃絶の時期についてはさらに検討が必要であろう。いずれにしても近世にはそのまま屋敷地として、またその後には生産域として確実に生活の中にあったと理解できる。

また、現地表に残る掘・土器とされる遺構と違う位置にそれが検出されたこと。土器があるべき位置に他の遺構が検出されたこと等、新たな課題も残した。このように調査の目標とした館の様相については、十分に明らかにできたとはいえない。さらに、土層より調査地が近世にかなり改変（攢乱）を受けていたことも窺え、館がどのような経緯で現在の姿に変わってきたのかを検討する必要もあるう。

調査の成果と課題を簡単にあげてきた。今まで知られていなかった全く新しい郷土の姿が明らかになり、これらについては各方面で活用されることを期待したい。しかし、それ以上に新たな課題が残されたといえる。これらについては擬海渡遺跡・平成4年度調査予定の鳥羽館跡遺跡の調査結果をふまえ、稿を改めて検討したい。

最後に、多くの方々から貴重なご教示をいただきながら担当者の力量不足で十分に生かせなかつたことを深くおわび申し上げます。

註 (1) 長野県教育委員会「北方遺跡」(『中央自動車道長野線埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 10-松本市内その7-』1989年)



擇図36 柱列組図

付 表

- 1 土坑一覽表
- 2 出土土器・陶磁器観察表
- 3 鉄器・金属製品一覽表
- 4 錢貨一覽表
- 5 石器・石製品一覽表

番号	位置	標高 m	地盤 深さ m	平面形	断面形	土層	出土遺物	備考
SB 3	D-3	420	310	32	不整形	輪圓 17	居間文質(灰)、灰陶器底輪印(灰)	>SKS26
SB 4	E-7	345	270	33	長方形	輪圓 18	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SB 5	E-6	330	330	26	不整形	輪圓 19	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SK 12	E-2	360	310	20	長方形	輪圓 19	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SK 1	C-8	180	110	17	不整形	輪圓 20	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SK 2	C-7	202	63	23	長方形	輪圓 20	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SK 3	D-6	378	130	14	長方形	輪圓 20	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SK 4	C-6	330	165	13	不整形	輪圓 20	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	<SKS26>
SK 5	D-3	142	132	50	円形	輪圓 20	灰陶器底輪印(灰)、灰陶器底輪印(灰)	
SK 6	D-7	162	140	63	円形	輪圓 21	輪圓 21	
SK 7	D-6	270	180	45	腰鼓狀方形	輪圓 21	輪圓 21	
SK 8	E-7	225	158	70	中央突起方孔	輪圓 21	輪圓 21	
SK 9	E-6	238	205	77	円形	輪圓 21	輪圓 21	
SK 10	E-7	-	70	13	不整形	輪圓 21	輪圓 21	
SK 11	E-7	330	215	25	不整形	輪圓 21	輪圓 21	
SK 12	E-6	380	185	25	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 13	C-7	88	66	19	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 14	D-7	100	63	14	円形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 15	C-3	28	25	20	円形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 16	C-6	65	57	13	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 17	C-6	60	47	30	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 18	D-7	85	48	22	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 19	E-6	136	75	21	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 20	D-5	122	105	10	不整形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 21	G-2	25	20	16	円形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 22	B-5	82	72	25	腰鼓狀方形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 23	B-6	68	50	30	輪圓形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 24	C-5	137	130	30	輪圓形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 25	C-5	285	125	44	長方形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 26	C-4	72	70	21	円形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 27	A-4	66	64	11	円形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 28	C-5	53	40	20	円形	輪圓 22	輪圓 22	
SK 29	E-5	158	132	14	隅丸方形	輪圓 22	輪圓 22	

番号	位置	縦 横 (cm)	断面形	土 层		備考
				長 座	短 座	
30	E-5	196	118 40	長方形	舟底形	掘岡 23
31	B-4	126	118 21	I形	舟底形	掘岡 23
32	B-3	157	118 27	舟底形	舟底形	掘岡 23
33	A-3	133	98 27	舟底長方形	舟底形	掘岡 23
34	B-3	78	62 17	円形	半円形	オリーブ色(6.1. (SY 3/1))
35	B-2	145	130 20	方形	舟底形	掘岡 24
36	F-6	36	26 14	舟底形	舟底形	オリーブ色(5.1. (SY 5/2))
37	C-2	114	76 29	舟底形	舟底形	1.黒褐色(5.3.2) 2.灰褐色(5.6.2)
38	D-2	270	140 48	不規則形	舟底形	掘岡 24
39	E-3	129	108 30	舟底形	舟底形	掘岡 24
40	E-2	290	190 28	舟底形	舟底形	掘岡 24
41	E-3	100	83 46	舟底方形	舟底形	掘岡 24
42	B-3	190	125 18	長方形	舟底形	掘岡 24
43	B-8	50	49 14	I形	舟底色(5.5Y3/1)	
44	B-8	54	47 27	I形	V形	
45	C-8	41	37 18	舟底形	半圓形	鵝黃色土(2.5Y4/2)
46	B-8	78	68 18	I形	舟底形	鵝黃色土(2.5Y4/2)
47	B-7	23	20 12	I形	U形	U形色土(3YR3.1)
48	C-8	20	18 13	I形	U形	鵝黃色土(2.5Y3/2)
49	C-8	33	26 16	舟底形	舟底形	鵝黃色土(2.5Y4/2)
50	B-7	53	24 10	舟底形	舟底形	鵝黃色土(2.5Y4/2)
51	C-7	25	18 10	舟底形	半圓形	鵝黃色土(2.5Y4/2)
52	C-7	25	23 20	I形	U形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
53	C-7	44	36 15	舟底形	舟底形	鵝黃色土(2.5Y4/2)
54	C-7	35	34 23	I形	U形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
55	C-7	49	36 8	舟底形	舟底形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
56	C-6	50	32 7	舟底形	舟底形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
57	C-6	62	48 25	舟底形	舟底形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
58	C-7	72	40 27	舟底形	舟底形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
59	C-7	34	31 30	I形	U形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
60	D-7	40	37 21	舟底形	舟底形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3))
61	D-7	52	40 20	舟底形	U字形	オリーブ色(6.1. (SY 4/3)) 2.鵝黃色土(2.5Y4/2)
62	D-7	28	20 14	舟底形	U字形	鵝黃色土(2.5Y4/2))

番号	位置	標 高 (cm)	長 径 (cm)	短 径 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	七 層	出 土 遺 物	備 考
63 C-6	25	22	12	円形	中円形	圓錐色土 (10YR3/3)	深 (~3cm) 多量含			
64 C-6	44	36	21	橢円形	半円形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
65 C-6	60	50	22	円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
66 C-6	40	35	15	円形	U字形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
67 D-6	40	25	10	不規則形	舟底形	オリーブ褐色土 (2.5Y4/3)	直角V型削 (12c)			
68 D-6	45	30	10	不規則形	U字形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y3/2)				
69 P-2	35	30	22	橢円形	半円形	鷺灰黄赤色土 (10YR3/4)				
70 D-6	40	38	14	円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
71 B-7	40	38	24	円形	U字形	鷺灰黄赤色土 (10YR3/4)				
72 B-7	24	20	23	円形	U字形	鷺灰黄赤色土 (7.5YR2/2)				
73 B-6	30	28	15	円形	舟形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y3/2)				
74 B-6	55	40	13	橢円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (7.5Y4/2)				
75 D-6	67	22	20	不規則形	油壓千斤形	鷺灰黄赤色土 (5Y5/4/1)	2段階削 (WTR2/2)			
76 A-4	28	25	26	円形	U字形	鷺灰オリーブ褐色土 (2.5Y1/4)				
77 C-6	43	40	8	円形	舟底形	オリーブ褐色土 (5Y 2/2)				
78 C-6	137	100	13	E字形	舟底形	黒褐色土 (7.5YR3/2)				
79 P-5	22	10	10	円形	半円形	オリーブ褐色土 (5Y 2/2)				
80 D-6	40	33	22	円形	U字形	黒褐色土 (3.5Y3/2)				
81 D-6	30	29	13	円形	U字形	黒褐色土 (3.5Y3/2)				
82 D-6	60	52	20	円形	舟底形	オリーブ黒褐色土 (5Y 2/2)				
83 D-6	30	27	7	円形	舟底形	黒褐色土 (3.5Y3/2)				
84 C-7	45	31	6	橢円形	舟底形	黒褐色土 (3.5Y4/1)	2段階削 (7.5YR3/2)			
85 C-7	76	54	20	橢円形	舟底形	黒褐色土 (3.5YR2/2)	2.4 9-7削 (10Y2/2)			
86 D-7	22	20	20	円形	U字形	黒褐色土 (2.5Y3/2)				
87 D-8	40	33	18	橢円形	舟底形	黒褐色土 (3.5Y4/2)	1段階削 9-7削 (5Y4/2)			
88 D-8	34	30	10	円形	舟底形	オリーブ黒褐色土 (5Y 3/1)				
89 B-8	50	48	13	円形	舟底形	黒褐色土 (7.5Y4/2)				
90 E-7	50	42	14	橢円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
91 E-7	40	26	12	橢円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
92 E-6	50	40	11	橢円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (10YR3/2)				
93 E-6	37	30	9	橢円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y4/2)				
94 E-6	66	58	22	円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (10YR3/3)				
95 E-6	68	50	21	円形	舟底形	鷺灰黄赤色土 (2.5Y3/1)				

番号	位置	規 格	長 径 (cm)	短 径 (cm)	厚 さ (cm)	平面形	断面形	土	層		出 土 遺 物	備 考
									上	下		
96	E-6	60	50	16	1.75形	舟形	U字形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.黒褐色土(2.5Y3/2)				
97	E-6	45	30	28	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.黒褐色土(3-5cm多孔性 地盤)				
98	E-5	50	48	18	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(10YR3/4)				
99	F-5	35	30	21	1.75形	半円形	半円形	1.黒褐色土(10YR3/1) 2.黒褐色土(10YR2/2)				
100	F-5	32	28	12	1.75形	半円形	半円形	1.黒褐色土(5Y4/3)				
101	E-5	48	35	15	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(5Y4/2)				
102	F-5	53	33	15	1.75形	V字形	V字形	1.黒褐色土(5.5Y4/2)				
103	E-6	60	31	13	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.黒褐色土(10YR3/2)				
104	F-6	57	37	17	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
105	F-6	36	27	23	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
106	F-6	58	48	28	1.75形	半円形	半円形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
107	F-6	52	38	14	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.黒褐色土(10YR4/1)				
108	F-6	43	38	16	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
109	F-6	52	45	14	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/1)				
110	E-5	48	35	14	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
111	E-5	28	22	12	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(2.5Y3/2)				
112	E-5	27	23	5	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
113	E-6	22	20	12	1.75形	U字形	U字形	1.黒オリーブ色土(5Y4/2)				
114	E-6	39	38	10	1.75形	舟形	舟形	1.黒オリーブ色土(5Y3/1)				
115	F-6	25	23	20	1.75形	半円形	半円形	1.黒オリーブ色土(5Y4/2)				
116	F-6	30	24	13	1.75形	U字形	U字形	1.黒オリーブ色土(5.5Y4/2)				
117	F-6	25	23	8	1.75形	舟形	舟形	1.黒オリーブ色土(2.5Y4/3)深(1-3cm多量含 土種類質)				
118	D-5	70	53	16	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR4/1)				
119	D-5	46	36	10	1.75形	舟形	舟形	1.黒オリーブ色土(5Y4/2)				
120	D-5	43	38	15	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(10YR4/3) 2.黒褐色土(10YR2/1)				
121	B-6	50	36	22	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(10YR3/2)				
122	B-6	32	25	22	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(2.5Y3/1)				
123	B-6	52	40	10	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(2.5Y3/1)				
124	B-6	25	18	15	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(2.5Y3/1)				
125	B-6	40	28	11	1.75形	舟形	舟形	1.黒褐色土(2.5Y3/1)				
126	B-6	37	29	16	1.75形	U字形	U字形	1.黒褐色土(2.5Y3/4)				
127	C-6	35	20	20	1.75形	半円形	半円形	1.黒褐色土(10YR3/3)				
128	B-6	40	30	10	1.75形	半円形	半円形	1.黒褐色土(10YR3/3)				

番号	位置	規 模 長さ 幅	規 模 短径 深さ	平面形	断面形	土	層	出 土 遺 物	備 考
129	D-6	30	25	円形	舟底形	黒褐色土(25Y4/2)	2.6m厚±(2.6Y4/2)		
130	D-6	43	40	7	不規則形	黒褐色土(25Y5/2)	3.5m厚±(3.5Y4/2)		
131	D-6	20	13	8	桶形	半円形	黒褐色土(35Y4/2)	1.3m厚±(1.3Y4/2)	
132	F-7	37	32	7	円形	舟底形	1.8m厚±(1.8Y5/2)	1.8m厚±(1.8Y4/2)	
133	C-7	20	18	13	円形	半円形	黒褐色土(0.1Y2/1)	2.8m厚±(2.8Y2/2)	
134	D-5	47	44	24	円形	半円形	黒褐色土(2.5Y3/2)		
135	C-5	35	33	20	円形	U字形	黒褐色土(2.5Y3/2)		
136	D-5	45	43	21	円形	半円形	黒褐色土(2.5Y3/2)	1.8m厚±(1.8Y4/2)	
137	D-5	33	26	8	不規則形	舟底形	灰オリーブ色土(6Y4/2)	1.8m厚±(1.8Y4/2)	
138	D-5	40	30	15	桶形	舟底形	暗灰褐色土(5Y4/2)		
139	D-5	50	36	16	桶形	舟底形	暗灰褐色土(5.5Y4/2)		
140	C-5	34	30	14	円形	半円形	黒褐色土(2.5YR8/1)		
141	C-5	50	27	20	桶形	U字形	オリーブ褐色土(5Y3/1)		
142	C-5	30	25	18	桶形	U字形	オリーブ褐色土(5Y3/1)		
143	C-5	34	31	10	円形	舟底形	オリーブ褐色土(5Y3/1)		
144	B-5	28	25	6	円形	舟底形	灰オリーブ色土(5Y4/2)		
145	C-5	60	50	15	桶形	舟底形	灰褐色土(10Y1R2/2)		
146	D-5	28	25	14	円形	合形	灰オリーブ色土(5Y4/2)		
147	C-5	40	36	12	桶形	舟底形	灰オリーブ色土(6Y4/2)		
148	D-5	68	60	10	円形	舟底形	オリーブ褐色土(5Y3/1)		
149	E-6	34	32	38	円形	U字形	オリーブ褐色土(5Y3/1)		
150	C-5	46	42	15	円形	舟底形	1.8m厚±(1.8Y4/2)		
151	C-5	54	51	19	円形	舟底形	黒褐色土(10Y1R2/3)		
152	C-5	28	22	10	円形	U字形	暗灰褐色土(2.5Y4/2)		
153	C-5	45	25	24	桶形	U字形	暗灰褐色土(2.5Y4/2)		
154	O-5	30	20	10	桶形	舟底形	暗灰褐色土(2.5Y4/2)		
155	C-5	55	45	25	桶形	U字形	暗褐色土(10Y1R2/3)		
156	C-5	30	28	15	桶形	舟底形	1.8m厚±(2.5Y4/2)		
157	C-5	50	45	41	円形	U字形	灰オリーブ色土(5Y4/2)		
158	C-5	37	32	15	円形	U字形	灰オリーブ色土(5Y4/2)		
159	C-5	71	38	22	桶形	合形	灰オリーブ色土(5Y4/2)		
160	C-5	40	36	10	円形	舟底形	1.8m厚±(1.8Y4/2)		
161	C-5	31	26	12	円形	舟底形	1.8m厚±(1.8Y4/2)		

番号	位置	標高 (cm)	底層	深さ	平面形	断面形	土	層	出土遺物	備考
162	C-5	23	20	円形	U字形	15ヤリーブ(5Y4/2) 2ヨリーブ色土(25Y4/3) 少量				
163	C-5	55	45	12	楕円形	U字形	黒褐色土(10YR2/3)			
164	C-5	37	34	23	円形	U字形	褐色土(25Y4/2)			
165	C-5	35	28	13	楕円形	半円形	灰ナリーブ色土(5Y4/2)			
166	C-5	34	32	14	楕円形	半円形	15ヤリーブ色土(5Y4/2) 2ヨリーブ色土(10YR2/3)			
167	C-5	46	43	18	円形	U字形	褐色土(25Y4/2)			
168	B-3	35	28	14	円形	U字形	褐色土(25Y4/2)			
169	B-3	42	36	15	円形	半円形	黑色土(25Y2/1)			
170	B-3	32	30	14	円形	U字形	灰ナリーブ色土(5Y4/2)			
171	C-4	26	24	12	円形	U字形	ナリーブ黑色土(5Y3/1)			
172	C-4	50	36	10	楕円形	U字形	ナリーブ黑色土(5Y3/1)			
173	C-4	42	40	14	円形	U字形	ナリーブ色土(5Y4/2)			
175	C-4	40	30	15	楕円形	半円形	灰ナリーブ色土(5Y4/2) 黒(1~2mm) 少量			
176	B-5	30	25	9	円形	半円形	ナリーブ黑色土(5Y4/2)			
177	F-5	28	26	7	円形	半円形	ナリーブ黑色土(5Y4/2)			
178	B-4	43	33	10	楕円形	半円形	ナリーブ黑色土(5Y4/2)			
179	B-4	40	25	7	楕円形	半円形	褐色黃色土(25Y4/2)			
180	F-5	30	28	7	楕円形	半円形	灰ナリーブ色土(5Y4/2)			
181	F-4	45	33	10	楕円形	半円形	灰ナリーブ色土(5Y4/2)			
182	B-6	75	40	21	楕円形	半円形	15ヤリーブ色土(5Y4/2) 2ヨリーブ色土(10YR2/3)			
183	B-3	70	43	15	不规则形	半円形	褐色黃色土(25Y4/2)			
184	C-3	35	30	16	円形	半円形	褐色黃色土(25Y4/2)			
185	B-3	81	41	10	楕円形	半円形	灰ナリーブ色土(5Y5/2) 黑(1~2mm) 少量			
186	B-2	33	30	25	円形	U字形	褐色土(10YR4/3)			
187	B-3	45	36	16	楕円形	半円形	褐色土(7.5Y4/1)			
188	B-3	45	37	10	円形	半円形	灰褐色土(5Y4/1)			
189	C-3	46	45	18	円形	半円形	黑褐色土(10YR2/3)			
190	C-3	43	37	12	円形	U字形	褐色黃色土(25Y4/2)			
191	C-3	70	55	22	円形	U字形	褐色土(10YR2/1)			
192	C-3	37	34	12	円形	U字形	褐色土(10YR3/3)			
193	C-4	26	25	16	円形	U字形	灰ナリーブ色土(5Y5/2) 黑(3~5mm) 少量			
194	C-2	45	43	17	円形	半円形	黑色土(10YR2/1)			

番号	位臯	規 様 (cm)	長径	短径	深さ	平面形	断面形	土	層	出 土 遺 物	備 考
195	C-3	33	24	8	桶円形	半円形	長オーブ色土 (574/2)	土壌層			
196	C-3	31	29	9	円形	舟形	長オーブ色土 (574/2)	土壌層			
197	C-3	34	34	10	桶円形	船形	長オーブ色土 (574/2)	土壌層			
198	C-3	40	34	40	桶円形	船形	長オーブ色土 (574/2)	土壌層			
199	C-4	36	35	12	円形	舟形	長オーブ色土 (575/2)	土壌層			>88.8
200	C-4	30	25	10	円形	舟形	灰色土 (674/1)	土壌層			>88.8
201	C-4	35	30	10	円形	舟形	長オーブ色土 (575/2)	土壌層			
202	C-4	37	35	15	円形	舟形	輪状黄赤土 (2574/2)	土壌層			
203	C-3	48	41	11	円形	舟形	灰色土 (674/1)	土壌層			
204	C-3	43	41	24	円形	U字形	オーブ褐色土 (2574/3)	土壌層			
205	C-3	33	30	10	円形	舟形	灰色土 (1074R/1)	土壌層			
206	C-3	31	30	24	円形	舟形	長オーブ色土 (575/2)	土壌層			
207	C-3	37	34	15	円形	舟形	輪状色土 (2573/2)	土壌層			
208	C-3	24	23	10	円形	舟形	輪状黄赤土 (2574/2)	土壌層			
209	C-3	34	28	17	円形	舟形	輪状黄土 (2574/2)	土壌層			
210	D-4	54	50	12	円形	舟形	オーブ褐色土 (2574/3)	土壌層			
211	D-5	35	32	11	円形	舟形	灰オーブ色土 (575/2)	土壌層			
212	D-4	25	23	15	円形	舟形	輪状黄赤土 (2574/2)	土壌層			
213	D-4	29	26	15	円形	舟形	輪状黄土 (2574/2)	土壌層			
214	E-4	43	33	8	桶円形	半円形	輪状褐色土 (2574/2)	土壌層			
215	E-4	146	67	12	長方形	舟形	舟形	舟形	25		
216	E-4	42	41	16	円形	舟形	輪状色土 (2573/1)	土壌層			
217	D-4	33	25	12	桶円形	舟形	輪状色土 (2573/2)	土壌層			
218	D-4	36	34	23	円形	U字形	オーブ褐色土 (2574/3)	土壌層			
219	E-5	43	40	9	円形	舟形	オーブ褐色土 (2574/3)	土壌層			
220	C-4	45	34	13	桶円形	U字形	輪状色土 (574/3)	土壌層			
221	C-5	27	26	7	桶円形	半円形	オーブ褐色土 (2574/3)	土壌層			
222	C-3	28	23	15	円形	舟形	長オーブ色土 (575/2)	土壌層			
223	C-3	51	20	9	桶円形	舟形	長オーブ色土 (574/2)	土壌層			
224	C-3	32	28	10	桶円形	U字形	輪状色土 (575/2)	土壌層			
225	C-3	34	29	10	桶円形	舟形	輪状色土 (575/3)	土壌層			
226	C-3	40	39	10	円形	舟形	輪状色土 (574/2)	土壌層			
227	C-3	35	24	9	桶円形	舟形	輪状色土 (574/2)	土壌層			

番号	位置	地 埼 (cm)		平面形	断面形	土	層	出 土 遺 物		備 考
		長径	短径			船底形	船底色土 (0YR3/3)	鐵 (1m) 少量含		
228	C-3	40	30	15	梯形	船底形	船底色土 (0YR3/3)	鐵 (1m) 少量含		
229	C-3	24	19	12	円形	台形	船底色土 (2.5Y4/2)	鐵 (1m) 少量含		
230	C-3	30	26	22	円形	台形	船底色土 (2.5Y4/2)	鐵 (1m) 少量含		
231	C-2	53	50	6	円形	舟底形	灰色土 (5Y5/1)	鐵 (5m) 少量含		
232	C-3	47	34	25	梯形	U字形	船底土 (0YR3/3)		土器底盤	
233	C-3	31	29	30	円形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)			
234	C-3	32	30	20	円形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)			
235	C-3	31	30	17	円形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)			
236	C-3	27	26	10	円形	台形	灰土 (2.5Y4/2)			
237	C-3	30	26	16	円形	U字形	オリーブ色土 (2.5Y4/2)			
238	C-3	37	32	12	円形	U字形	オリーブ色土 (2.5Y4/2)	鐵 (1~3m) 少量含		
239	C-3	28	25	25	円形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)			
240	C-3	45	41	23	円形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)	鐵 (1~3m) 少量含		
241	C-3	38	30	17	円形	台形	灰土 (2.5Y4/2)	鐵 (1~3m) 少量含		
242	C-3	28	26	12	円形	半円形	灰土 (2.5Y4/2)			
243	C-3	43	33	11	梯形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)			
244	D-3	47	35	11	梯形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
245	D-3	37	36	17	円形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
246	D-3	37	34	11	円形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
247	C-2	50	44	14	円形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
248	C-2	30	28	20	円形	U字形	灰土 (2.5Y4/2)			
249	C-2	32	27	12	円形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
250	C-2	112	38	11	梯形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
251	D-3	33	23	11	梯形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
252	D-3	36	32	11	円形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)			
253	D-2	27	23	10	円形	U字形	船底色土 (2.5Y4/2)			
254	D-2	25	22	12	円形	U字形	船底色土 (2.5Y4/2)			
255	D-2	34	24	10	梯形	舟底形	船底色土 (0YR3/3)			
256	D-2	25	22	12	円形	U字形	船底色土 (2.5Y4/1)			
257	D-2	38	31	15	円形	舟底形	船底色土 (2.5Y4/1)			
258	D-2	39	29	9	梯形	舟底形	船底色土 (10YR3/3)			
259	D-2	69	26	10	梯形	舟底形	灰土 (2.5Y4/2)	2輪轍印 (2.5Y4/2)		
260	D-2	30	25	11	円形	舟底形	灰土 (5Y5/3)			

番号	位置	基盤 高さ (cm)	縫隙 高さ	平面形	断面形	土 层		出 土 遺 物	備考
						台形	角形		
261	D-2	25	20	12 □形	角形	灰オリーブ色土 (5Y6/3)			
262	D-2	40	35	13 □形	角形	灰+4-色土 (5Y5/2)	2.5Y9-7-褐色土 (2.5Y4/2)		
263	D-2	37	33	25 □形	台形	オリーブ色土 (2.5Y4/2)			
264	D-2	55	45	27 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
265	B-3	34	28	7 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
266	E-3	29	26	14 □形	角形	灰+1-黄色土 (10YR4/3)			
267	B-3	28	26	12 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
268	E-3	27	24	15 □形	台形	黄灰色土 (2.5Y4/1)			
269	E-3	48	40	17 極円形	半円形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)			
270	E-3	47	44	16 □形	角形	1段階地土 (2.5Y5/2)	2.段階地土 (10YR3/3)		
271	B-3	41	39	12 □形	角形	灰オリーブ色土 (5Y5/3)			
272	E-3	43	41	10 □形	角形	灰オリーブ色土 (5Y5/3)			
273	B-3	60	45	13 極円形	角形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)			
274	D-3	38	36	14 □形	半円形	★リーフ地土 (2.5Y4/3)			
275	D-3	33	30	21 □形	U字形	黄褐色土 (2.5Y5/3)			
276	D-3	42	38	12 □形	角形	灰+1-黄色土 (10YR4/3)			
277	D-4	50	48	18 □形	角形	褐色土 (10YR4/4)			
278	D-1	45	35	11 極円形	角形	灰+1-褐色土 (10YR4/3)	■(1-mm) 少量含		
279	D-3	30	28	10 □形	角形	灰+1-黄色土 (10YR4/3)			
280	E-3	28	23	10 □形	角形	黄褐色土 (2.5Y5/3)			
281	D-3	28	22	7 □形	角形	黄褐色土 (2.5Y5/3)			
282	D-3	35	29	10 □形	角形	黄褐色土 (2.5Y5/3)			
283	D-3	37	30	8 □形	角形	黄褐色土 (2.5Y5/3)			
284	B-5	57	40	12 極円形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
285	B-5	55	47	8 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/1)			
286	B-5	37	32	14 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
287	B-5	35	30	13 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
288	B-5	26	23	11 □形	半円形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
289	B-5	44	40	24 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
290	B-5	42	40	20 □形	角形	褐灰色土 (2.5Y5/2)	■(1mm) 多量含		
291	B-5	29	18	25 極円形	立形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
292	B-3	36	27	20 極円形	半円形	褐灰色土 (2.5Y4/2)			
293	C-3	70	55	20 極円形	角形	上部地土 (10YR3/1)	2.5Y9-7-褐色土 (2.5Y4/2)	褐色地帶、竹葉根 発達弱く、土壌肥沃	

番号	位置	規格 (cm)	断面形 形状	土 質	層 層	出土遺物		備考
						種類	量	
294	C-3	96 75	27 棚形	舟形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
295	C-3	105 72	20 棚円形	U字形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪	<953	
296	C-8	- 100	22 棚円形	舟形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
297	B-4	65 58	25 円形	舟形	黄褐色土 (10YR5/3)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
298	B-4	93 70	20 棚円形	舟形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
299	C-6	28 25	12 棚円形	半円形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
300	C-6	20 18	14 棚円形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
301	H-7	123 110	37 棚形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
302	H-7	55 40	27 棚形	U字形	灰褐色土 (10YR4/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
303	H-7	60 52	21 円形	舟形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2) 3段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
304	H-7	73 68	32 円形	舟形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2) 3段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
305	H-7	47 41	18 円形	半円形	灰褐色土 (5Y4/1)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
306	H-7	25 22	22 円形	舟形	黄褐色土 (5,5Y5/3)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
307	H-6	93 46	9 棚形	舟形	灰褐色土 (2,5Y5/3)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
308	H-7	136 92	29 棚円形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
309	H-6	36 27	25 円形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
310	H-6	90 82	30 円形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
311	P-7	52 50	26 円形	舟形	1段+リード色±(10YR5/3)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
312	P-7	210 70	41 矩形	舟形	輪灰褐色土 (5Y4/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
313	G-6	30 28	20 円形	U字形	灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
314	F-7	40 38	41 円形	U字形	灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
315	P-7	45 35	30 棚円形	U字形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
316	H-6	35 30	10 円形	半円形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
317	H-6	25 19	9 円形	舟形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
318	H-6	32 30	20 円形	U字形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
319	H-6	25 20	10 円形	U字形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
320	H-6	48 42	10 円形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
321	H-6	38 32	31 円形	U字形	1段+リード色±(5Y5/2) 2段褐色±(2,5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
322	H-6	37 35	10 円形	舟形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
323	H-6	27 22	7 円形	舟形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
324	H-6	77 76	20 円形	舟形	輪灰褐色土 (2,5Y5/3)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
325	H-6	36 30	15 円形	U字形	灰オーリープ色土 (5Y5/2)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		
326	G-6	53 40	6 楊円形	舟形	灰色土 (5Y5/1)	輪廻器灰・黒・土師器灰・内丸輪		

番号	位置	標高(m)	底層	断面形	土	層	出土遺物		備考
							長径	短径	
327	C-6	55	47	35	椭円形	輪状黃色土 (2.5Y5/2)	鉢 (5cm) 少量含		
328	G-6	345	280	15	長方形	輪状黃色土 (2.5Y5/2)	漆器 25		
329	G-6	40	23	29	椭円形	U字形	漆付「世」字 (2.5Y5/2) 1個	漆付「世」字 (2.5Y5/2) 1個	漆付「世」字 (2.5Y5/2) 1個
330	G-6	34	25	15	椭円形	U字形	輪状黃色土 (2.5Y5/2)		
331	F-6	45	35	20	椭円形	角形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)	角形	角形
332	F-6	20	16	15	椭円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)		
333	F-6	40	35	14	椭円形	U字形	輪状黃色土 (2.5Y5/2)		
334	F-6	37	35	24	円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)		
335	F-6	35	30	10	円形	角形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)		
336	F-6	37	34	12	円形	角形	灰オリーブ色土 (5Y3/1)		
337	F-6	25	20	16	円形	U字形	黑褐色土 (10YR8/2)		
338	F-6	32	25	18	円形	U字形	黑褐色土 (10YR3/3)		
339	F-6	130	120	22	円形	角形	漆褐色土 (10YR8/3)		
340	F-6	45	37	14	円形	半円形	1.5倍灰土 (10YR2/2) 2倍輪状黃色土 (10YR4/2)		
341	F-6	25	23	11	円形	U字形	輪状黃色土 (2.5Y4/1)		
342	G-6	33	29	12	円形	角形	輪状黃色土 (2.5Y4/1)		
343	G-6	28	23	17	円形	U字形	輪状黃色土 (2.5Y4/1)		
344	G-6	31	23	11	円形	半円形	輪状黃色土 (2.5Y4/2)		
345	G-6	33	31	11	円形	U字形	1.5倍 (5Y4/1) 2倍灰土 (5Y4/3)		
346	G-6	26	22	8	円形	輪状黃色土 (2.5Y4/2)			
347	C-6	43	33	20	円形	半円形	輪状黃色土 (2.5Y4/2)		
348	F-6	55	45	20	椭円形	半円形	1.5倍 (5Y4/1) 2倍輪状黃色土 (2.5Y3/2)		
349	H-6	31	30	29	円形	U字形	輪状黃色土 (2.5Y4/1)		
350	H-6	34	31	12	円形	角形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)		
351	H-6	32	28	34	円形	U字形	灰色土 (5Y4/1)		
352	H-6	50	46	11	円形	角形	1.5倍 (5Y4/1) 2倍輪状黃色土 (2.5Y3/1)		
353	H-6	32	30	11	円形	半円形	輪状黃色土 (2.5Y4/2)		
354	G-5	45	43	9	円形	角形	輪状黃色土 (10YR2/2)		
355	G-6	214	170	45	円形	角形	漆褐色土 (10YR2/2)		
356	F-6	29	28	11	円形	半円形	輪状黃色土 (2.5Y4/1)		
357	F-6	27	25	13	円形	半円形	1.5倍 (5Y4/1) 2倍輪状黃色土 (2.5Y4/1)		
358	F-6	43	40	18	椭円形	半円形	オリーブ色土 (5Y3/1)		
359	G-5	50	38	12	不整形	角形	輪状黃色土 (10YR8/3)		

番号	位置	規格 (cm)	平面形	断面形	土層		出土遺物	備考
					長径	短径		
360	G-5	27	24	円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)		
361	G-5	405	285	44	円形	角底形合掌	2.黒褐色土 (2.5Y3/1)	>65369
362	C-6	56	48	13	円形	角底形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	>654
363	G-5	75	57	15	円形	舟底形	灰褐色土 (5Y4/1)	<654
364	F-5	46	32	16	船円形	舟底形	黒褐色土 (2.5Y3/1)	2.黒褐色土 (2.5Y3/2)
365	P-5	62	48	15	円形	舟底形	灰褐色土 (5Y4/1)	2.黒褐色土 (2.5Y3/1)
366	F-5	25	23	14	円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	2.黒褐色土 (2.5Y3/1)
367	F-5	40	33	18	円形	舟底形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	
368	F-5	44	40	39	円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	
369	P-5	40	32	12	円形	舟底形	灰褐色土 (5Y4/1)	2.黒褐色土 (2.5Y2/1)
370	P-5	20	15	22	円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	
371	P-5	39	32	34	円形	V字形	黒褐色土 (0YR2/2)	2.黒褐色土 (2.5Y2/2)
372	F-5	40	38	20	円形	半円形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	2.黒褐色土 (2.5Y2/2)
373	F-5	72	32	20	船円形	舟底形	灰オリーブ色土 (5Y3/1)	2.黒褐色土 (2.5Y2/2)
374	E-5	82	60	55	円形	船形	26	
375	B-4	20	17	20	円形	U字形	灰褐色土 (5Y4/1)	
376	F-5	28	24	10	円形	半円形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	
377	E-5	50	41	29	船円形	U字形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	
378	H-5	42	40	19	円形	半円形	灰オリーブ色土 (5Y4/2)	
379	H-5	41	39	24	円形	半円形	灰褐色土 (2.5Y4/2)	
380	G-5	52	42	28	円形	半円形	灰オリーブ色土 (2.5Y3/4)	
381	G-5	43	41	22	円形	半円形	黒褐色土 (10YR2/3)	
382	G-5	53	34	7	船円形	舟底形	海灰色黃色土 (2.5Y4/2)	
383	G-5	122	85	30	長方形	舟底形	26	
384	G-5	61	73	23	円形	半円形	1.黒褐色土 (10YR2/2)	2.黒褐色土 (10YR2/3)
385	G-5	377	275	29	長方形	舟底形	27	
386	G-5	30	27	16	円形	U字形	1.黒褐色土 (2.5Y3/1)	2.黒褐色土 (2.5Y3/2)
387	G-5	38	35	20	円形	U字形	黑色土 (10YR2/1)	
388	F-5	33	29	18	円形	半円形	灰色土 (5Y4/1)	
389	F-5	31	30	12	円形	半円形	1.灰オリーブ色土 (5Y4/2)	2.黒褐色土 (2.5Y3/1)
390	H-4	36	27	25	円形	合形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)	
391	H-4	77	68	20	円形	舟底形	1.黒褐色土 (5Y4/1)	2.黒褐色土 (0YR2/4)
392	G-5	50	34	27	船円形	半円形	黒褐色土 (2.5Y3/2)	

番号	位置	規 模 (cm)	長径	短径	厚さ	平面形	断面形	土	層		出土遺物	備考
									台毛	長オリーブ色土 (SY4/2)		
393	G-5	38	33	29	7	円形	角底形	褐色土 (SYR2/3)				
394	G-5	38	33	11	7	円形	角底形	褐色土 (SYR2/3)				
395	F-4	45	39	8	7	円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY3/3)				
396	F-4	25	20	9	7	円形	半円形	褐色土 (SY3/3)				
397	F-4	22	21	7	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/3)				
398	F-4	35	25	6	6	橢円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
399	H-4	31	29	11	7	円形	半円形	黄褐色土 (SY5/4)				
400	H-4	143	110	15	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
401	H-3	200	160	26	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
402	H-3	175	145	41	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
403	G-4	60	42	14	7	橢円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY3/2)				
404	G-4	30	26	6	6	円形	角底形	褐色土 (SYR2/3)	2.4リート盤土 (2SYL/3)			
405	G-4	30	28	11	7	円形	U字形	オリーブ褐色土 (SYR2/3)	2.5リート盤土 (2SYL/3)			
406	G-4	47	30	8	7	円形	角底形	褐色土 (SY4/2)				
407	G-4	63	32	15	7	橢円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
408	G-4	25	23	6	7	円形	角底形	褐色土 (SY4/2)				
409	G-4	27	26	11	7	円形	半円形	褐色土 (SY4/2)				
410	G-4	42	35	12	7	円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY3/2)				
411	G-3	43	40	12	7	円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY3/2)				
412	G-4	35	30	12	7	円形	角底形	褐色土 (SY4/2)				
413	G-4	59	49	7	7	橢円形	角底形	褐色土 (SY4/2)	2.5リート盤土 (2SYL/2)			
414	G-4	25	22	8	7	円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY4/2)	2.5リート盤土 (2SYL/2)			
415	P-4	43	30	5	7	橢円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY4/2)	2.5リート盤土 (2SYL/2)			
416	P-4	25	24	7	7	円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY4/4)				
417	P-3	44	40	18	7	円形	U字形	褐色土 (SY3/1)				
418	P-3	37	32	20	7	円形	半円形	褐色土 (SY3/1)				
419	C-5	42	40	24	7	円形	U字形	褐色土 (SYR2/2)				
420	P-3	33	30	7	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
421	P-4	38	29	10	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
422	F-4	28	25	10	7	円形	角底形	褐色土 (SY3/2)				
423	F-7	40	35	25	7	円形	U字形	褐色土 (SY5/2)	壺 (1cm) 多量	壺内陶器		
424	G-6	70	40	15	7	橢円形	角底形	褐色土 (SY5/2)	壺 (1~2cm) 少量			
425	G-3	32	28	14	7	円形	角底形	オリーブ褐色土 (SY4/4)				

番号	位置	塊 線 (cm)		平面形	断面形	土	層	出 土 遺 物	備 考
		長径	短径						
426	P-3	50	44	18	円形	1.ミリープ褐色土 (2.5Y4/3)	上層部小形甕		
427	P-3	40	36	19	円形	1.輪オーブ褐色土 (2.5Y3/3)			
428	P-3	36	30	13	円形	オーブ褐色土 (2.5Y4/4)			
429	P-3	45	38	23	円形	オーブ褐色土 (2.5Y4/3)			
430	P-3	38	32	12	円形	オーブ褐色土 (2.5Y4/3)			
431	P-3	51	35	9	橢円形	角部形 黑褐色土 (10YR2/2)			
432	P-3	36	31	9	橢円形	角部形 黑褐色土 (10YR2/2)			
433	G-3	320	150	63	不整円形	角部形 棒圖 28			
434	G-3	48	42	9	橢円形	輪ナーブ褐色土 (2.5Y3/4)			
435	G-3	43	41	16	円形	オーブ褐色土 (2.5Y4/3)			
436	G-3	43	33	10	円形	オーブ褐色土 (2.5Y4/3)			
437	G-3	30	23	10	円形	U字形 残オーブ褐色土 (5Y4/2)			
438	G-3	25	23	7	円形	U字形 黑褐色土 (10YR3/3)			
439	G-3	28	26	10	円形	角部形 オーブ褐色土 (2.5Y4/3)			
440	G-3	44	30	8	円形	輪褐色土 (10YR3/4)			
441	P-3	43	35	11	円形	半円形 オーブ黒褐色土 (5Y2/2)			
442	P-3	40	31	13	円形	U字形 オーブ黒褐色土 (5Y3/2)			
443	P-3	33	29	16	円形	U字形 黑褐色土 (10YR2/1)			
444	P-3	43	38	17	円形	U字形 黑褐色土 (10YR3/2)			
445	P-3	43	36	7	橢円形	角部形 黑褐色土 (10YR3/2)			
446	P-3	37	26	11	橢円形	半円形 黑褐色土 (10YR3/2)			
447	P-3	70	40	10	橢円形	U字形 (10YR2/1) 2.黒褐色土 (10YR2/3)			
448	H-3	30	28	12	円形	角部形 黑褐色土 (10YR3/3)			
449	H-3	30	21	6	円形	半円形 黑褐色土 (2.5Y3/2)			
450	G-3	150	135	47	円形	角部形 棒圖 28			
451	G-3	42	38	16	円形	オーブ褐色土 (5Y3/2)			
452	G-3	268	90	10	橢円形	角部形 オーブ褐色土 (2.5Y4/4) 2.黒褐色土 (10YR3/2)			
453	G-3	105	54	12	橢円形	角部形 棒圖 28			
454	G-2	230	130	24	不整円形	角部形 棒圖 28			
455	G-2	66	60	22	円形	オーブ褐色土 (2.5Y4/4) 2.黒褐色土 (10YR3/2)			
456	G-3	45	28	27	円形	オーブ褐色土 (2.5Y3/3)	山形 (13C)		
457	P-3	47	42	37	円形	U字形 1.黒褐色土 (10YR2/3) 2.黒褐色土 (10YR2/2)	28		
458	G-3	45	28	16	円形	U字形 黑褐色土 (10YR2/2)			

番号	位置	規 模 (m)	矩 形 底 径 深さ	平面形	断面形	土		層	出 土 遺 物	備 考
						横	高			
459	F-2	35	26	16	円形	半円形	黒褐色土 (10YR2/2)			
460	F-2	58	32	21	円形	半円形	オーラーク色土 (25Y4/3) 2×1-7褐色土 (5Y5/1)			>SR462
461	F-2	42	40	17	円形	舟底形	オーラーク色土 (25Y4/3) 1×1-7褐色土 (5Y5/1)			<SR461
462	F-2	78	36	11	梯形	舟底形	オーラーク色土 (25Y4/3) 1×1-7褐色土 (5Y5/1)			
463	F-3	51	28	20	不規形	舟底形	黒褐色土 (10YR3/2)			
464	F-3	25	24	10	円形	舟底形	オーラーク色土 (25Y3/2)			
465	F-3	30	25	20	円形	U字形	黒褐色土 (10YR3/2)			
466	F-2	28	26	10	円形	半円形	黒褐色土 (10YR2/3)			
467	F-3	40	31	18	円形	U字形	黒褐色土 (10YR3/3)			
468	F-3	30	26	9	円形	舟底形	黒褐色土 (10YR2/3)			
469	F-3	36	30	16	円形	半円形	黒褐色土 (10YR2/3)			
470	F-3	52	47	24	円形	半円形	黒褐色土 (10YR2/3)			
471	F-3	38	34	17	円形	半円形	黒褐色土 (10YR3/3)			
472	F-3	40	32	15	円形	半円形	黒褐色土 (10YR2/2)			
473	E-3	30	27	6	円形	舟底形	黒褐色土 (25Y3/2)			
474	F-3	27	23	17	円形	半円形	黒褐色土 (25Y3/2)			
475	E-3	40	35	13	円形	合形	オーラーク色土 (25Y3/3)			
476	E-3	38	32	15	円形	舟底形	黒褐色土 (10YR3/3)			
477	E-3	32	29	9	円形	舟底形	黒褐色土 (10YR3/4)			
478	E-3	38	26	11	円形	U字形	オーラーク色土 (25Y3/3)			
479	E-3	32	30	15	円形	半円形	オーラーク色土 (5Y3/2)			
480	E-3	37	32	15	円形	半円形	オーラーク色土 (25Y3/2)			
481	E-3	41	32	12	円形	半円形	黒褐色土 (25Y3/1)			
482	F-2	46	34	18	梯形	舟底形	黒褐色土 (25Y3/2)			
483	F-2	30	25	17	円形	舟底形	オーラーク色土 (25Y3/3)			
484	F-2	33	28	16	円形	舟底形	オーラーク色土 (10YR3/4)			
485	F-2	40	35	16	円形	舟底形	オーラーク色土 (10YR3/3)			
486	F-2	37	36	12	円形	舟底形	オーラーク色土 (25Y4/3)			
487	F-2	29	24	6	円形	U字形	オーラーク色土 (5Y3/2)			
488	F-2	24	21	14	円形	半円形	オーラーク色土 (5Y3/2)			
489	F-2	42	39	20	円形	半円形	オーラーク色土 (5Y3/1)	縫 (1~3mm) 合		
490	F-2	35	30	15	円形	半円形	黒褐色土 (25Y3/2)			
491	F-2	29	18	10	円形	U字形	黒褐色土 (10YR3/2)			

番号	位置	規 模 (cm)	底 高	土		層	出 土 遺 物	備 考
				平面形	断面形			
492	F-2	26	22	6 円形	角底形 U字形	褐褐色土 (10YR 3/3) 1段オリーブ褐色土 (5Y5/1) 2段褐色土 (10YR 4/2)	土壌層	—
493	F-2	40	29	12 楕円形	半円形	オリーブ褐色土 (5Y3/2)	—	—
494	F-2	25	22	14 円形	半円形	オリーブ褐色土 (5Y3/2)	—	—
495	F-2	31	30	16 円形	半円形	オリーブ褐色土 (5Y3/2)	—	—
496	F-2	57	37	20 円形	半円形	褐褐色土 (5Y3/2)	—	—
497	F-2	90	75	25 円形	角底形	褐褐色土 (5Y3/2)	—	—
498	G-2	62	60	22 円形	角底形	褐褐色土 (5Y3/2) 厚 (1~2cm) 少量含 谷苔	—	—
499	G-2	57	51	23 円形	角底形 U字形	オリーブ褐色土 (5Y4/2) 厚 (1~2cm) 少量含 谷苔	白褐V面層 (1IC)	<3821
500	G-2	146	75	13 楔円形	角底形	角底形 U字形	—	—
501	G-2	192	175	15 円形	角底形 U字形	角底形 U字形	—	—
502	G-2	90	76	35 円形	角底形 U字形	オリーブ褐色土 (5Y3/2) 2段褐色土 (2.5Y3/2)	—	—
503	H-2	37	33	23 円形	U字形	オリーブ褐色土 (5Y4/3)	—	—
504	G-2	43	36	16 円形	U字形	褐褐色土 (5Y3/2)	—	—
505	G-5	216	90	24 長方形	角底形	角底形 U字形	—	—
506	H-4	35	26	18 円形	角底形 U字形	オリーブ褐色土 (5Y5/2)	—	—
507	H-4	40	36	25 円形	U字形	褐オリーブ褐色土 (5Y5/2)	—	—
508	H-4	25	24	7 円形	半円形	褐オリーブ褐色土 (5Y5/2)	—	—
509	G-4	29	25	8 円形	半円形	褐褐色土 (5Y5/4)	—	—
510	F-2	113	92	50 円形	U字形	角底形 U字形	—	—
511	E-2	188	95	20 椭円形	角底形	角底形 U字形	—	—
512	G-2	484	218	14 長方形	角底形	角底形 U字形	—	—
513	F-7	41	40	25 円形	半円形	オリーブ褐色土 (5Y5/2)	—	—
514	G-7	85	60	22 椭円形	角底形	褐褐色土 (10YR 2/3)	—	—
515	G-7	26	24	14 円形	半円形	褐褐色土 (5Y4/2)	—	—
516	G-7	105	94	19 U字形	角底形	1段褐色土 (5Y5/3) 2段褐色土 (6Y4/1)	—	—
517	G-7	35	24	9 椭円形	角底形	オリーブ褐色土 (5Y4/4)	—	—
518	C-6	76	53	15 円形	角底形	1段褐色土 (5Y5/4) 2段褐色土 (6Y4/1)	—	—
519	G-6	60	42	15 椭円形	角底形	オリーブ褐色土 (5Y3/1) 厚 (1~5cm) 少量含 谷苔	—	—
520	G-7	25	10	10 円形	角底形	褐褐色土 (10YR 2/2)	—	—
521	G-6	152	130	43 椭円形	角底形	—	—	—
522	C-6	30	27	10 円形	角底形	褐褐色土 (5Y5/2)	—	—
523	G-6	30	20	35 円形	U字形	褐褐色土 (10YR 2/2)	—	—
524	G-6	25	24	32 円形	U字形	褐褐色土 (10YR 2/2)	—	—

褐色V面層 (1IC)、内壁面

番号	位置	標高 (m)	長径 直径 深さ	平面形	断面形	層	出土遺物		備考
							出	土	
525	G-6	82	70 20	円形	角形	1.オリーブ褐色土 (2.5Y4/3)			
526	G-6	65	61 27	円形	角形	1.黒褐色 (10YR4/2) 2.赤褐色 (5YR4/1) 黄褐色 (5Y6/2) 含			
527	G-6	45	30 8	円形	角形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)			
528	G-6	32	25 13	円形	角形	オリーブ褐色土 (2.5Y3/1)			
529	G-6	51	42 15	円形	角形	暗灰褐色土 (2.5Y4/2)			
530	G-6	60	53 12	円形	角形	灰黄褐色土 (10Y4/2)			
531	C-6	36	32 10	円形	角形	灰灰褐色土 (2.5Y4/2)	断(1~8cm)少量含		
532	G-6	42	31 15	円形	半円形	灰黄褐色土 (10YR4/2)			
533	F-4	33	29 12	円形	半円形	暗灰褐色土 (10YR8/4)			
534	G-6	80	66 19	円形	半円形	暗灰褐色土 (7.5Y4/2)	断(1~10cm)少量含		
535	G-6	37	31 11	円形	角形	暗灰褐色土 (2.5Y4/2)			
536	G-6	26	26 13	円形	半円形	暗灰褐色土 (2.5Y4/2)			
537	G-6	35	25 23	円形	半円形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)			
538	F-6	30	27 10	円形	半円形	灰黄褐色土 (10YR4/2)			
539	F-6	35	30 35	円形	半円形	灰オリーブ色土 (5Y5/2)			
540	F-6	38	30 10	橢円形	角形	灰褐色土 (7.5YR4/2)			
541	F-6	37	30 6	橢円形	角形	暗灰褐色土 (2.5Y4/2)			
542	F-6	94	60 14	橢円形	角形	灰黄褐色土 (10YR4/2)			
543	F-6	34	32 14	橢円形	半円形	灰黄褐色土 (10YR4/2)			
544	Z-6	73	66 7	橢円形	角形	灰褐色土 (7.5YR4/2)	断(1cm)少量含		
545	H-5	37	35 10	橢円形	角形	灰褐色土 (7.5Y4/2)			
546	H-5	40	38 7	橢円形	角形	灰黄褐色土 (10YR4/2)			
547	G-5	153	126 18	円形	角形	灰褐色土 (7.5YR4/2)			
548	F-5	30	28 5	円形	角形	灰褐色土 (10YR4/2)			
549	F-5	45	38 10	円形	角形	灰褐色土 (10YR4/2)			
550	F-5	40	33 7	円形	角形	1.暗褐色 (2.5Y5/3) 2.灰リード褐色土 (5Y4/1)			
551	F-4	57	36 9	橢円形	角形	灰褐色土 (10YR4/2)			
552	Z-4	25	22 7	円形	角形	灰褐色土 (7.5YR4/2)			
553	E-5	37	31 12	円形	半円形	灰褐色土 (7.5YR4/2)			
554	E-4	22	15 7	円形	半円形	灰褐色土 (7.5YR4/2)			
555	C-4	35	32 7	円形	角形	タリード灰褐色土 (5Y5/2)			
556	G-4	29	8 10	円形	角形	灰褐色土 (10YR4/2)			
557	G-4	40	36 10	円形	角形	灰褐色土 (10YR4/2)			

番号	位置	規 模 (mm)	最深	断面形	土	層	備考	
							幅	高さ
568	C-5	38	35	15 円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y3/1)	1層版黄色土 (1Y4/2)		
569	F-3	30	28	9 円形	角底形 角底色土 (7.5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含 鐵(1~3a)少量含		
560	F-3	34	30	6 円形	角底形 角底色土 (10Y4/4)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
561	G-5	38	27	8 円形	角底形 角底色土 (7.5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
562	C-4	33	30	35 円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
563	B-8	25	25	24 円形	U字形 角底形 角底色土 (7.5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
564	B-8	32	27	20 條円形	U字形 角底形 角底色土 (7.5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
565	B-7	25	25	18 円形	U字形 角底形 角底色土 (7.5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
566	C-8	62	50	20 不整円形	U字形 角底形 角底色土 (10Y3/4)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
567	C-8	30	30	17 円形	U字形 角底形 角底色土 (2.5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
568	C-7	22	20	40 円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
569	B-4	35	32	30 円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
570	C-5	26	23	12 円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
571	B-4	30	30	10 円形	U字形 角底形 角底色土 (2.5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
572	B-4	32	28	7 円形	角底形 角底色土 (2.5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
573	B-4	45	41	16 円形	角底形 角底色土 (5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
574	B-4	37	34	8 円形	角底形 角底色土 (2.5Y5/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
575	C-4	30	24	30 條円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y4/2)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		
576	B-4	20	20	22 円形	U字形 角底形 角底色土 (5Y4/1)	1層版 少量含 鐵(1~3a)少量含		

SB 1 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	高さ			
灰褐色 环		1	13.5	5.8	3.8	* 体部下半をやや膨らませながら立ち上がり、口縁をわずかに外反させる。	* 内外ヨコナデ。底部内面斜角切り。	* 灰白色～青褐色灰質。
		2	13.4	5.8	4.1			"
		3	13.1	5.3	4.0	* 内部は底部周囲に明瞭な筋を作らず、底やかに傾き傾き立ち上がる。		* 傷跡あり。
		4	13.2	6.0	4.4			"
		5	12.6	4.5	3.6			"
		6		5.6				"
		7		5.3		* 内部底部周囲に明瞭な筋を持つ。		* 青灰色。
灰褐色 环		8	12.4	6.0	4.3	* 体部はやや丸味を持つて立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。内面へラ辞き、黑色處理。 * 底部外周斜角切り。	
黑色十字 碗		9	15.8	6.4	5.1	* 体部はやや丸味を持つて立ち上がる。口縁底部は外反する。	* 内外ヨコナデ。内面へラ辞き、黑色處理。 * 底部外周斜角切り。高台貼り付け後、周辺部ヨコナデ。	
		10	14.6					
土師器 小型皿		11	12.8			* 脚部に足跡を持ち、口縁部の外反は弱い。	* 内外ヨコナデ。 * 底部内面斜角切り、周辺部ヨコナデ。	
		12		7.0			* 底部内面斜角切り。	
土師器 碗		13	21.6			* 口縁部が「く」字状に強く外反する。	* 内外ヨコナデ。底部外周ハケ目調節。口縁部内面カキ目調節。	
土師器 碗		14	29.5			* 脚部が大きく外反する。脚部は底盤を作らない。	* 内外ヨコナデ。	

SB 2 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	高さ			
黑色上唇 环		15	12.2	5.6	2.9	* 体部下半をやや膨らませながら立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。内面へラ辞き、黑色處理。	
		16	12.4	4.8	4.1	* 口縁底部は強くおさまる、わずかに外反傾向のものもある(17)。		
		17	12.9	5.2	4.2			* 黑斑あり、底堅膜？
		18	13.0	5.5	4.1			
		19	13.0	5.5	4.1			
		20	13.1	5.0	3.8			
		21	13.1	5.3	4.1			
		22	13.5	5.0	4.4			* 傷跡あり。
		23	13.2					
		24	17.6	5.7	7.2			
黑色上唇 碗		25	16.4	7.1	5.7			
		26	15.2	7.8	5.7	* 体部は直線的に回る。内面は底部周囲に明瞭な筋を作らない。	* 内外ヨコナデ。内面へラ辞き、黑色處理。 * 底部外周斜角切り。高台貼り付け後、周辺部ヨコナデ。	
灰褐色 碗		27	15.5	7.0	6.3			
		28						
灰褐色 碗		29				* 口縁底部が強く外反する。	* 内外ヨコナデ。30は底部外側下半へと折り、高台貼り付け後、周辺部ヨコナデ。	
		30	17.6			* 大形で、体部中位で缺がつく。	* 疋孔ヨコナデ。	

土器の種類	器形の種類	番号	法環	形態の特徴	技法の特徴	備考	
		口径	底径	高さ			
灰褐色器	縦	31	13.3	7.1	5.0	* 内外ヨコナデ。底輪ハケ焼り。	
		32	12.7	5.7	3.9	* 内外ヨコナデ。 * 底部外側回転糸切り。	* 灰白色状況。
		33	12.7	4.6	4.5		
須恵器	環	34	12.6			* 1縫端部がやや凹入する。 * 内面は底部周囲に明顯な接を作らない。	
		35		5.1			
須恵器	縦	36	13.3	7.1	5.0	* 体部は薄く、立時に開く。 * 断面三角形の高台が付く。	* 内外ヨコナデ。 * 底部外側回転糸切り。高台貼り付け後、底部ヨコナデ。
		37	17.2			* 口縁部は外反しながら開き、輪郭は上方へ折り返す。	
須恵器	互刃縦	38	14.3				
		39				* 脊部に二条の断面V字形の凸脊をめぐらし、下側の凸脊を4分割する形で実起(耳)を付す。	* 体部外側は平行タタキ。内面はナデ。
須恵器	縦	40	42.7			* 口縁部は大きく外反する。輪郭は下方へ折り出すもの(40)と上方へ折り出すもの(41)がある。	* 内外ナデ(平行タタキ底あり)。
		41	39.5				
土師器	縦	42	12.7			* 脊部は浅く平らで、輪郭は特に折り返しがない。	* 内外ナデ。内面ヘラ開き。
		43	25.6				
		44	19.7			* 脊の長い縦で、外面はハケ目調節で仕上げる。	* 内外ナデ。
		45	20.8			* 口縁部は「く」字状に弱く外反する。	* 制部外側ハケ目、口縁部内面カキ目調節。
		46	8.6			* 43は両が混る。	
土師器	縦	47	17.9			* 脊部はヘラ削り調節され、非常に開く。	* 口縁部外側へ内面ナデ。
		48	18.4			* 口縁部は「コ」字状。	* 脊部外側ヘラ削り。
		49	18.6			* 脊がつくもの(50)もある。	
		50					
土師器	小彫	51	13.3			* 口縁部は「く」字状に強く外反し肩が張る。	* 内外ヨコナデ。
		52	18.8				* 制部外側、口縁部内面カキ目調節。

SB 6 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法環	形態の特徴	技法の特徴	備考	
		口径	底径	高さ			
須恵器	縦	53	13.7	6.6	4.6	* 体部は丸味を帯びて立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。 * 底部外側回転糸切り。
灰褐色器	互	54		7.2		* 体部に縫を有す。 * 高台は断面V字形。	* 内外ヨコナデ。 * 底部回転糸切り。高台貼り付け後周辺ヨコナデ。
灰褐色器	縦	55		8.7		* 断面三日形の高台が付く。	* 内外ヨコナデ。体部外側ヘラ削り。 * 高台貼り付け後、周辺ヨコナデ。
灰褐色器	縦	56	15.0	5.8	4.5	* 体部は下平でやや内斜を持つ。 * 口縁部は丸くおさめる。	* 内外ヨコナデ。底輪回転糸切り。 * 内面ヘラ削り、黒色施塗。
灰褐色器	縦	57	16.5	6.8	6.7	* 体部はやや丸味を持って立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。底輪回転糸切り、高台貼り付け後、周辺ヨコナデ。 * 内面ヘラ削り、黒色施塗。
灰褐色器	縦	58		8.1		* 内面は底部周囲に明顯な坂を作らず、緩やかに直に傾き立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。 * 内面ヘラ削り、黒色施塗。

土器の種類	器形の種類	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考	
		番号	口径	底径				
土器	小形甕	59	15.1	7.5	18.5	*肩部に最大径をもち、口縁部は弱く外反しながら立ち上がる。	*内外コナデ。肩部外周カキ目。 *底縁部斜角切り。	
土器	甕	60	24.8	9.2	36.0	*肩の長い型で、外面はハケ目調査で仕上げる。	*内面ナデ。	
		61	21.0			*口縁部は「く」字状に外反する。	*底縁部外正ハケ目、口縁部内把カキ目調査。	
		62	21.5					

SB 7 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	器高			
須恵器	甕	53				*肩平な玄底状のつまみが付く。 *底部は断面三折形。	*内外コナデ。 *外面底部斜角へラ削り。つまみ貼り付け。	*瓶月認
		64	14.3					
須恵器	環	65	13.5	5.1	3.9	*体部は薄く、底を明瞭に残す。 *内面底部斜角へ切削的な形を作る。	*内外コナデ。 *底部斜角斜角切り。	
		66	39.4			*口縁部は大きく外反し、底部の断面は三角形となる。	*内外ナデ。底部外周平行タタキ。(口縁部外周平行タタキ痕あり)	
須恵器	長頸甕	67			7.8	*肩部が丸みをもつ。	*内外コナデ。底部下在円柱へラ削り。 *底部兩台貼り付け兼ナデ。	
		68	13.0	7.1	2.4	*底部は厚く、高台は小さい。 *口縁端部は丸くおさめる。	*内外コナデ。内面へラ削り、黑色剥離。 *底縁部斜角へラ底辺を付け兼ナデ。	
須恵器	环	69	16.6	6.7	4.7	*体部はやや丸味をもながら立ち上がる。	*内外コナデ。内面へラ削り、底部外周へラ削り。 *底縁部斜角へラ削り。	
		70	14.3			*口縁部は「く」字状に外反する。	*内外コナデ。口縁部内面・底部外周カキ目調査。	
土器	小形甕	71						
		72	16.0			*口縁部は「く」字状に外反する。 *外縁は赤い。	*内外ナデ。 *底縁部外周へラ削り。	
		73	23.3			*口縁部が「く」字状に外反する。 *口は外反が弱く、肩も仄らない。	*内外ナデ。底部外周ハケ目調査。 *口縁部内面カキ目調査。	
		74	22.7					

SB 8 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	器高			
須恵器	蓋	76	11.2			*天井部は扁平で、口縁端部は下方へ折り返す。	*天井部外周へ内面コナデ。 *天井部斜角へラ削り。	
須恵器	环	76	13.1	5.5	4.1	*体部は直線的に開き、横が明顯に長くなる。	*内外コナデ。 *底縁部斜角切り。	
		77	13.1	6.3	3.9	*体部は直線的(77)、あるいはやや膨らみをもちらながら立ち上がる。		灰白色軟質。
		78	13.2	5.1	3.5			"
		79	13.3	5.8	4.3			"
		80	14.0	5.7	4.1			"
須恵器	長頸甕	81	10.9			*口縁端部を上方へ折り返す。	*内外コナデ。	
須恵器	短頸甕	82			9.4		*内外ナデ。	
須恵器	輪	83	15.8	7.9	5.3	*体部は膨らみをもちら立ち上がり、口縁端部は外反する。	*内外コナデ。底縁部斜角斜角切り。 *底縁部貼り付け。底部へラ削り。	*S3.2出土片と複合。

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	高さ			
黒色土器	環	64	12.2	6.7	2.5	●体部は直線的に聞く。 ●断面三角形の高台が付く。	●内外ヨコナギ。内面へラ哥さ、黑色處理。 ●底部回転糸切り。高台貼り付け。	
		65	12.4	5.4	2.8			
黒色土器	环	66	12.2	5.5	4.0	●体部はやや膨らみをもちらがら立ち上がる。	●内外ヨコナギ。	
		67	12.2	5.4	3.0	●口縁部分は丸くおさめるが、やや外反形状のもの(68-90)もある。	●内面へラ哥さ、黑色處理。 ●底部回転糸切り。	
		68	13.8	6.6	4.2			
		69	14.3	6.3	4.0	●内面底部表面には明瞭な塗を作らない。		
		70	13.1	5.9	4.6			
		71	15.2	6.7	5.4	●体部は下部で膨らみをもつが、ほぼ直線的に聞く。	●内外ヨコナギ。内面へラ哥さ、黑色處理。 ●底部回転糸切り。高台貼り付け。	●裏蓋あり。
黒色土器	楕	72	15.3	7.2	5.4			
		73	13.6			●口縁部分が「く」字状に聞く。	●内外ヨコナギ。	
		74	16.4			●63は底部外縁の細部が強いため、	●65・66は肩部外縁にカキ目調葉を施す。	
土器	小形環	75						
		76	22.9	9.5	32.4	●脚の長い腰で、外面はハケ目調葉で仕上げる。	●内外ナギ。	
		77	21.4	9.7	30.4	●口縁部は「く」字状に弱く外反する。	●脚部外縁ハケ目調葉。	
		78	19.3				●113脚部内面カキ目調葉。	
		79	21.5					
		80	21.7					
		81	23.6					
		82	20.2	9.4	26.1			
		83		10.5				
		84		9.6				
		85		8.8				
		86						
		87						
		88						
		89						
土器	盤	90						

SB 9 出土土器觀察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	高さ			
黒色土器	环	106	13.6	6.3	4.0	●体部はやや膨らみをもちらがら立ち上がる。	●内外ヨコナギ。 ●底部回転糸切り。	●灰白色款。
		107	13.1	5.6	3.5	●体部は膨らみをもちら立ち上がる。	●内外ヨコナギ。底部回転糸切り。 ●内面へラ哥さ、黑色處理。	
黒色土器	楕	108	14.8	6.0	5.5	●体部はやや膨らみをもちらがら立ち上がる。	●内外ヨコナギ。	
		109	14.9	7.0	5.4	●108は弱く長い高台、109は丸い高台をもつ。	●内面へラ哥さ、黑色處理。 ●底部回転糸切り、高台貼り付け。	●裏蓋あり。
		110	16.4					
土器	小形環	111	11.2	7.5	14.5	●口縁部は弱く外反しながら立ち上がる。	●内外ヨコナギ。底部回転糸切り。 ●脚部外側カキ目調葉。	
		112		10.9		●脚の長い腰で、外面はハケ目調葉で仕上げる。	●内外ナギ。 ●脚部外側ハケ目調葉。	

SB10 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	器高			
灰陶器	盤	113	19.4			* 体部は直線的に大きく開き、口縁部は外反する。	* 内外ヨコナデ。高台貼り付け。	
		114	15.2			* 丸くおさめた高い高台が付く。	* 滾転ハケ作り。	
		115		7.6				
須恵器	环	116		4.0		* 内面底部周囲に明瞭な壙を作らない。	* 内外ヨコナデ。底部回転糸切り。	* 茶黄褐色灰質。
褐色土器	盤	117	13.2	5.6	3.0	* 体部は直線的に開き、口縁部は丸くおさめる。	* 内外ヨコナデ。内面へラ筋き、黒色絞り。 * 真面回転糸切り。高台貼り付け。	
褐色土器	碗	118		5.7		* 体部は脛らみをもって立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。内面へラ筋き、黒色絞り。 * 底部回転糸切り。高台貼り付け。	
褐色土器	钵	119		9.2		* 厚い底部から体部は大きく開く。	* 内外ヨコナデ。底部回転糸切り。 * 内面へラ筋き、黒色絞り。	
土器	小形盤	120	14.6			* 口縁部は「く」字状に強く外反する。	* 内外ヨコナデ。 * 内面底部・上段内面を手目調整。	
		121	14.9			* やや厚い口縁部が「く」字状に外反する。	* 内外ナデ。 * 内面底部・内面上部ハケ目調整。	
土器	盘	122	19.8			* 口縁部が強く外反する。	* 内外ナデ。 * 底部外面ハケ目調整。口縁部内面を手目調整。	

SB11 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	器高			
灰陶器	盤	123	14.2			* 口縁部が大きく外反する。	* 内外ヨコナデ。 * 体部下部周囲へラ筋引。 * 脊物・ケ崩り？	
		124	12.8	5.5	4.2	* 124はやや脣らみをもちらがら、125は直線的に底部が立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。 * 底部回転糸切り。	* 灰白色灰質。
		125	13.3	5.0	3.9			"
褐色土器	环	126		4.9		* 内面底部周囲に明瞭な壙を作らない。	* 内外ヨコナデ。底部回転糸切り。 * 内面へラ筋き、黒色絞り。	
褐色土器	钵	127	21.0			* 体部は脣らみをもちらがら立ち上がる。	* 内外ヨコナデ。底部回転糸切り。	
		128		11.2		* 128は厚い底部で人形。	* 内面へラ筋き、黒色絞り。	
土器	小形盤	129	12.2			* 上端部が「く」字状に外反する。(130は外反の度合いが弱い。)	* 内外ヨコナデ。 * 底部外面カキ目調査。	
		130	13.8					
土器	盤	131	22.0			* 口縁部が「く」字状に強く外反する。	* 内外ナデ。 * 底部外面ハケ目調査。 * 口縁部内面カキ目調査。	
		132	21.9					* 132と同一個体？
		133	25.5					
		134		9.6				
		135		8.6				
		136	28.0			* 丸味をもった底部から体部が大きく開き、口縁部がさらには外反する。	* 内外ナデ。 * 体部下部へラ筋引。	

SB 3 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
		口径	底径	高さ			
白釉碗	137	10.6			* 口縁部が大きく外反する。	* 体部外面に鋸目文をいれる。 * V型	

SB 4 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
		口径	底径	高さ			
鉢輪碗	138		3.6		* 体部が大きく開く。	* 底部回転へ割り。高台削り出し。 * 錐口尖端	
丸付碗	139	12.4			* 両手で口縁部が大きく開く。		
志野丸皿	140		7.7		* 窄く小さい高台が付く。	* 底部削り出し。	

SB12 出土土器・陶磁器観察表

土 器 種 類 の 種類	器 形 の 種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
			口径	底径	高さ			
黒色土器	皿	141	13.2	6.0	3.2	* 断面が丸い高台を付す。	* 内外ヨコナギ。底部回転糸切り後、高台貼りつけ。 * 内面ヘラ削ぎ、黒色處理。	
黒色土器	碗	142	16.4			* 体部は大きく開き、口縁が広く外反する。		

SK 3 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
		口径	底径	高さ			
鉢輪碗	143	8.6			* 体部は丸味を持ちながら立ち上がる。	* 外面下半回転へ割り。 * 底部高台削り出し。	* 錐口尖端
鉢輪碗	144		5.1		* 断面円形の高台を付す。		
青磁碗	145						* 錐形底系

SK 6 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
		口径	底径	高さ			
尖付碗	146	8.9			* 体部は下平で丸味をもち、口縁へとまっすぐ立ち上がる。		
志野丸皿	147	9.0			* 窄い底部に小さい高台を付す。	* 底部削り出し。	
拂利	148	11.1				* 底部削り出し。	

SK 11 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
		口径	底径	高さ			
志野體丸皿	149	11.2	5.8	2.5	* 窄い高台を付す。	* 内部鉛錠を据く。	

SK 12 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徴	備 考
		口径	底径	高さ			
かわらけ	150		9.2		* 窄い底部から体部が斜めに立ち上がる。	* 底部回転糸切り。 * 内面ナヂ(削る)。	

SK13 出土土器・陶磁器観察表

器種・器形の範囲	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
		口径	底径	器高			
盤形碗	151	6.3			*高く丸い高台を付す。	*外沿面青文様を描く。	*毫毛不明
上部内輪	152	3.6			*やや高く盛り高台を付す。	*底部削り。	*底部突出
半舟形碗	153	5.2			*断面円形の高台を付す。	*底部削り。	*船形突出
灰陶杯	154	23.2			*口縁部は大きく折り返す。		*船形突出

SK24 出土土器観察表

土 器 の 種 類	器 形 の 種 類	番 号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
			口徑	底径	器高			
盤形器	环	155	5.8			*体部は斜めに大きく開く。	*内外ヨコナズ。底部回転条切り。	*灰白色

SK25 出土土器観察表

土 器 の 種 類	器 形 の 種 類	番 号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
			口徑	底径	器高			
圓底土器	碗	156	6.5			*高台はやや丸味をもつ。	*内外ヨコナズ。底部高台貼りつけ *内面へり巻き、黑色施想。	
盤底器	盤	157	7.9			*高台は底盤端から斜めに強り だす。	*内外ヨコナズ。 *底盤回転条切り、高台貼りつけ。	

SK51 出土土器観察表

土 器 の 種 類	器 形 の 種 類	番 号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
			口徑	底径	器高			
高地土器	环	158	12.6	8.1	4.8	*体部は丸味を持たながら立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。	*内外ヨコナズ。底面高台貼りつけ *内面へり巻き、黑色施想。	

SK61 出土土器・陶磁器観察表

器種・器形の範囲	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
		口径	底径	器高			
青磁碗	159					*残存印文を施す。	*遺失空所

SK67 出土土器・陶磁器観察表

器種・器形の範囲	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
		口径	底径	器高			
白磁碗	160	18.1			*口縁部が大きく外反する	*体部外面飾目文。	*V型

SK269 出土土器・陶磁器観察表

器種・器形の範囲	番号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
		口径	底径	器高			
灰陶丸盤	161	12.6			*口縁部は丸くおさめる。		*底部突出?

SK296 出土土器観察表

土 器 の 種 類	器 形 の 種 類	番 号	法 量			形態の特徴	技 法 の 特 徵	備 考
			口徑	底径	器高			
盤底器	环	162	12.6	6.6	4.1	*体部は高底凹面に明顯な筋を作らず立上がり、口縁は斜く外傾。	*内外ヨコナズ。底盤回転条切り。	*灰白色状質。

SK297 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	高さ			
直腹器	环	153	15.2	6.0	3.8	* 口縁部は丸くおさめる。	* 内外ココナデ、底部削り内切り。	* 灰白色軟質。
黑色上部	筒	154		6.6		* やや丸味を持った断面三角形の高台を付す。	* 内外ココナデ、内面ヘラ磨き、墨色處理。	
		155		7.4			* 底部削り内切り、高台貼り付け。	

SK298 出土土器観察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径	高さ			
土師器	甌	155	20.8			* 口縁部は「く」字状に圓く外反する。	* 内外ナメ。内面カキ目、口部外面ハケ目調査。	

SK355 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
吉野刺	157	16.0				* 外面施唐草文を施す。	* 龍泉窯系
捏紺	158	22.1	9.8	9.5	* 断面三角形の高い高台を付す。 * 口縁部は肥厚し、面を作る。	* 内外ココナデ。体部下部ヘラ削り。 * 高台貼りつけ。	* 内面磨られている。

SK361 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
志野丸皿	159	11.0				* 口縁部は丸くおさめるもの(159)、* 底部削り出し。 と両反するもの(170)がある。	
	170	10.5	9.3	2.3		* 底部には小さい高台を付す。	
	171			7.4			

SK385 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
かわらけ(灯明皿)	172	10.2	5.8	3.2	* 体部はやや盛に立ち上がる。	* 内外ココナデ。底部削り内切り。	* 内外スス付箋。
志野丸皿	173	10.6	5.4	2.5	* 体部中央に筋をもつ。	* 底部削り出し。	
灰釉皿	174	10.0			* 体部小辺に筋をもつ。口縁は外反。		* 龍戸灰釉
志野織部皿	175			7.2	* 体部は大きく窪く。	* 底部削り出し。内部、紋様を描く。	
青磁碗	176			5.2	* 造部は厚い。		* 龍泉窯系
内耳瓶	177	22.2			* 口縁部は弱く内凹する。	* 内外ナメ。	

SK400 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
青磁碗	178	16.2				* 内面刻花文を施す。	* 龍泉窯系

SK456 出土土器・陶磁器観察表

被き物・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
山皿	179	8.4	4.2	2.0	* 口縁部は丸くおさめる。	* 内外ココナデ。底部削り内切り。	

SK500 出土土器・陶磁器観察表

形状・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
白磁碗	180				* 断面扇形の高台を付す。	* 扇形高台。	* V頭

SK512 出土土器・陶磁器観察表

形状・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
かわらけ	181	11.8	6.8	3.1	* 口縁端部は丸くおさめる。 * 高さ内面のおさえしっかりしている。	* 内外ココナデ。 * 口縁内面斜め切り。	

堀（東側）出土土器・陶磁器観察表

土器の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
灰釉器	182		8.3		* 断面三角形の高台を付す。	* 内外ココナデ。高台貼りつけ。	
灰釉器	183		8.8		* 断面端に断面三角形の高台を付す。		
土器	184	25.4			* 口縁部が「く」字状にやや突出する。	* 内外ナデ。口縁内面カキヨ、脚部外面ハケ目調整。	

形状・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
内青釉	185	20.1	20.2	9.8	* 断面端に立ち上がった体部から口縁部は横を作つて上方に折れる。	* 内外ナデ。	
内青釉	186	31.6					
内青釉	187						
灰釉杯	188		7.8		* 高台が底端より内側に付く。	* 内外ココナデ。底部削り出し。	
灰釉杯	189		4.6		* 体部から体部にかけて丸味をもつた断面。		
灰釉杯	190		13.4		* 断面端の高台を付す。	* 削り高台。	* 磨び美濃
灰釉杯	191	22.0			* 口縁端部を丸く折り返す。		
灰釉杯	192		13.2		* 体部は大きく開く。	* 5本が単位の組目を出す。	
灰釉杯	193	23.0			* 口縁部を外方へ2段に折る。		

堀（南側）出土土器・陶磁器観察表

形状・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
内青釉	194		21.2		* 口縁部が外方へ折れる。	* 内外ナデ。	
灰釉杯	195	5.8	3.4	4.1	* 体部はまっすぐ立ち上がる。	* 内外ココナデ。底部削り出し。 * 脚部貼りつけ。	* 磨び美濃

堀（北側）出土土器・陶磁器観察表

形状・器形の種類	番号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
ほうろく	196	30.5	23.4	8.7	* 体部は下半で丸味をもちながら立ち上がる。	* 内外ナデ。	
柳青茶碗	197	12.7			* 体部は下半で丸味をもちながら立ち上がる。	* 鋸歯を削す。	* 磨び美濃
清物鉢	198	34.4			* 口縁端部を強く折り返す。		

器物・器形の種類	番号	法量		形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径			
鉢形瓶	199	19.9		* 体部は外反しながら大きく開く。	* 単足11本の脚目を施す。	
染付瓶	200	6.0		* 高い高台が付く。		
	201	6.9		* 小形で体部は丸味をもつ。		

遺構出土土器・陶磁器觀察表

土器の種類	器形の種類	番号	法量		形態の特徴	技法の特徴	備考
			口径	底径			
灰窓器	环	202	6.4		* 体部は大きく開く。	* 内外ヨコナヂ。底部回転糸切り。	* 浅鉢形款。
	有台环	203		8.7	* 高台の内側で接地する。	* 内外ヨコナヂ。底部回転糸切り、回転ヘラ削り後、萬古貼りつけ。	
	短縁瓶	204	7.7		* 底部は薄く、体部はほぼまっすぐに立ち上がる。	* 内外ヨコナヂ。底部回転糸切り。	
灰窓器	皿	205	8.8		* 高台の内側に縁を有する。	* 内外ヨコナヂ。	
		206	9.1		* 高台はやや丸味をもつ。	* 底部回転ヘラ削り、高台貼りつけ。	
黑色土器	鉢	207	12.4		* 体部は大きく外側する。	* 内外ヨコナヂ。底部回転糸切り。	* 内面ヘラ削き、黑色鉢。

遺物・器形の種類	番号	法量		形態の特徴	技法の特徴	備考	
		口径	底径				
山茶碗	208	8.7		* 断面三内角の低い高台が付く。	* 内外ヨコナヂ。底部回転糸切り、高台貼りつけ。	* 高台モミ痕あり。	
かわらけ	209	9.3	6.8	1.7	* 口縁端部がやや凹む。	* 内外ヨコナヂ。内面ナダ削め)	* 底部回転糸切り、高台貼りつけ。
青磁碗	210				* 花文を施す。	* 青磁系	
ほうろく	211	30.2	26.4	7.7	* 口縁端部は直面をなす。	* 内外ナダ。	
内耳瓶	212	25.2			* 口縁部は外に向く開く。	* 内外ナダ。	
	213		25.4		* 体部は斜めに開く。		
火鉢	214	26.6			* 口縁部は内外に縁をもながら内折し、端部を外に折り返す。	* 内外ナダ。	
灰釉皿	215	5.1			* 高い高台を付す。	* 灰口美濃	
志野丸皿	216	5.7			* 小さい高台を折り出し。	* 内外ヨコナヂ。底部削り出し。	
灰釉碗	217	5.5			* 底部から体部にかけて大きく開く。	* 内外ヨコナヂ。底部削り出し。	* 灰口美濃
灰釉碗	218	8.1			* 断面台形のしっかりした高台を付す。		* 灰口美濃
灰釉碗?	219	8.6			* 体部は大きく開き、浅い。		
灰釉碗	220	5.6			* 体部は丸味をもって立ち上がる。		* 灰口美濃
灰釉碗	221	7.6			* 底部が深い。	* 内面凹凸輪で文様を描く。	* 灰口美濃
片づぎ	222	7.0			* 底部と体部との縁に深い縫をわりそこに把手を付ける。		* 灰口美濃
志野輪盤油付	223	10.6			* 志野部に足を付す。	* 足貼りつけ。	
	224	11.2					
染付瓶	225	6.6			* 体部は下單で丸味をもって立ち上がる。		
	226	6.3					
	227	8.0			* 高台が底盤より内面につき、体部はまっすぐに立ち上がる。		

被物・器形の種類	名号	法量			形態の特徴	技法の特徴	備考
		口径	底径	高さ			
焼付鏡	226		3.5		*体部は丸型をもって立ち上がる。		*鶴岡美濃
焼付鏡	226	3.4					
	230				*小さい底台が付く。 *230は丸型		
	231		3.1				
	232	15.0			*握手で口縁が外反する。		
灰釉鉢	233		13.1		*体部と底部との境に棱を作つて立ち上がる。	*底部底台削り出し。 *233は四脚鉢を指す。	*鶴岡美濃
	234		14.4		*体部は丸型をもって立ち上がる。		

鉄器・金属製品一覧表

No	出土遺構	図番号	種別	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1	SB 2	240	鎌		32	4	40	
2	"		鐵 淚				40	
3	SB 3		釘		5	5	1	
4	"		釘		6	5	2	
5	SB 5		鐵 淚				110	
6	SK 3		不 明		9	8	4	棒状
7	SK 7	241	刀 子		12	3	17	刃部と茎部の境不明瞭
8	SK 11	242	煙 管	径 9	0.5	1		
9	"	243	不 明		30	3	5	鎌?
10	SK 25		釘		8	7	2	
11	SK 39	244	釘		6	5	2	
12	"		鐵 淚				28	
13	SK 236		鐵 淚				32	
14	焼出面		鐵 淚				25	
15	"	246	不 明	径 30	3	5	環状	
16	"		釘		6	5	2	
17	"		釘		5	4	2	
18	"	245	釘		6	6	2	

銭一覧表

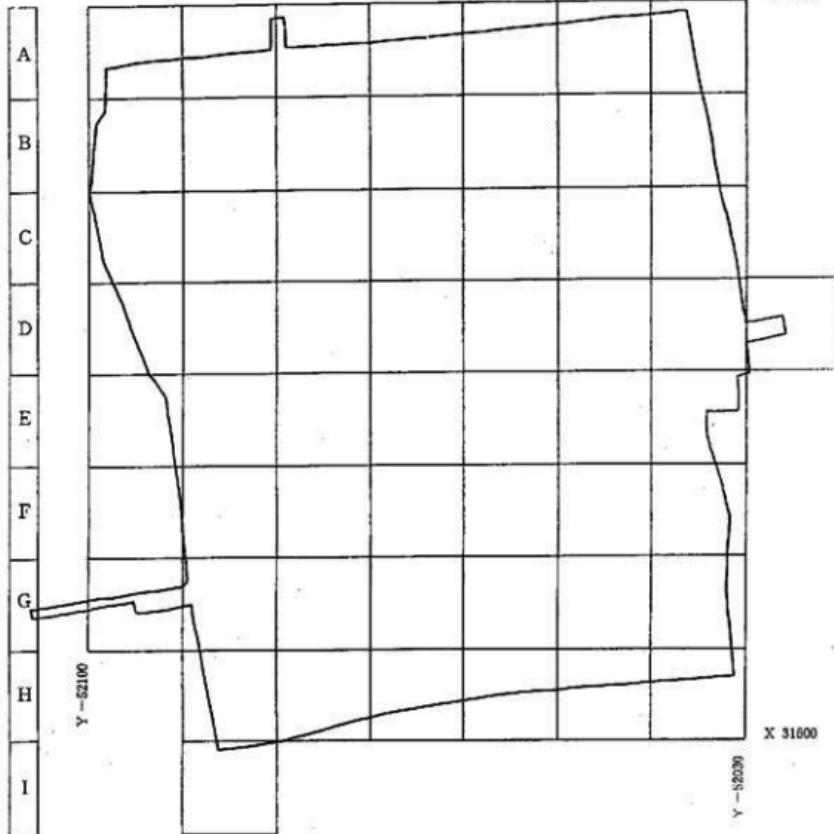
No	出土遺構	図番号	名 称	初鋤年	径 (mm)	重 量 (g)	備 考
1	SB 3		不 明		26.2	3	鏽著しい
2	SK 8	235	不 明			0.5	1/4 残存、□□通宝、銅錢
3	SK 65	236	紹聖元宝	1094	25.0	3	
4	SK 457	237	元祐通宝	1086	24.2	3	
5	検出面	238	寛永通宝		23.4	2	
6	"	239	寛永通宝		23.4	2	
7	"		寛永通宝		22.4	2	
8	"		不 明			25.1	8・9付着
9	"		不 明			4	

石器・石製品一覧表 (長さの項 石臼は径)

No	出土遺構	品 名	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	石 質	備 考
247	検出面	石 磨	2.1	1.8	0.4	2	黒 磁 石	先端欠損
248	"	石 磨	1.9	1.4	0.3	1	"	基部欠損
249	"	石 磨	1.7	1.1	0.3	1	"	"
250	SB 2	不 明	10.7	6.0	1.5	95	砂 岩	
251	龜 (北)	砥 石	7.5	3.1	1.4	55	珪 長 岩	
252	蟻 (東)	凹 石	14.8	11.4	6.8	975	安 山 岩	
253	SK 12	凹 石	12.1	9.9	7.9	930	安 山 岩	
254	SB 5	石 白	30.8		8.2	3450	玢 岩	上臼 1/3
255	SK 6	石 白	38.4		13.0	3240	花崗 岩	上臼 1/4
256	SK 58	凹 石	24.9	13.5	15.0	6725	砂 岩	上・横面磨かれている
257	SK 205	石 白	20.1		8.8	3370	安 山 岩	茶臼・上臼ほぼ完形
258	遺 構 外	石 白	33.0		9.4	2165	安 山 岩	下臼 1/4、凹石に転用

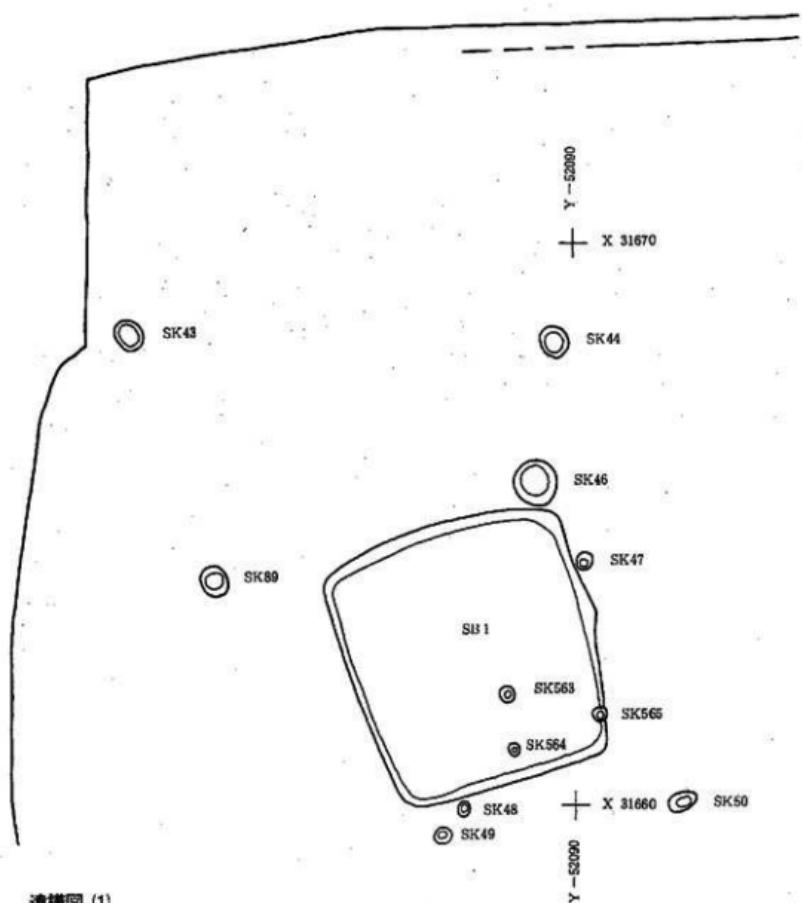
図 版

8	7	6	5	4	3	2	1
---	---	---	---	---	---	---	---

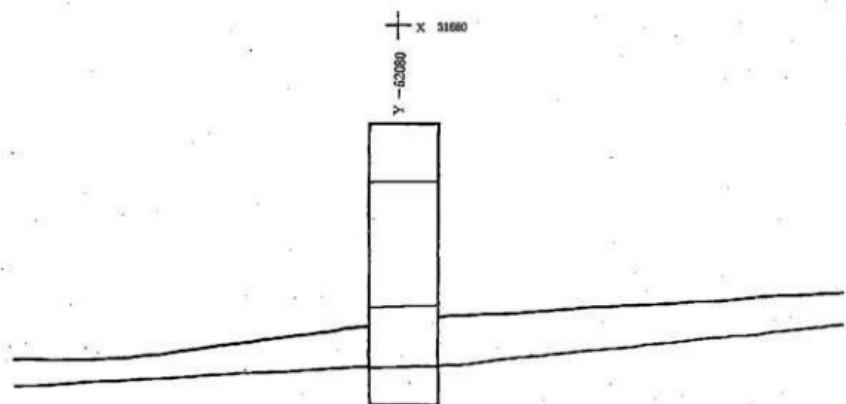




調査地全体図



造構図(1)



+ X 31670
Y -52080

SK72 SK74
SK71 SK75 SK126
SK125 SK292
SK122 SK123 SK124
SK121

+ X 31660
Y -52080

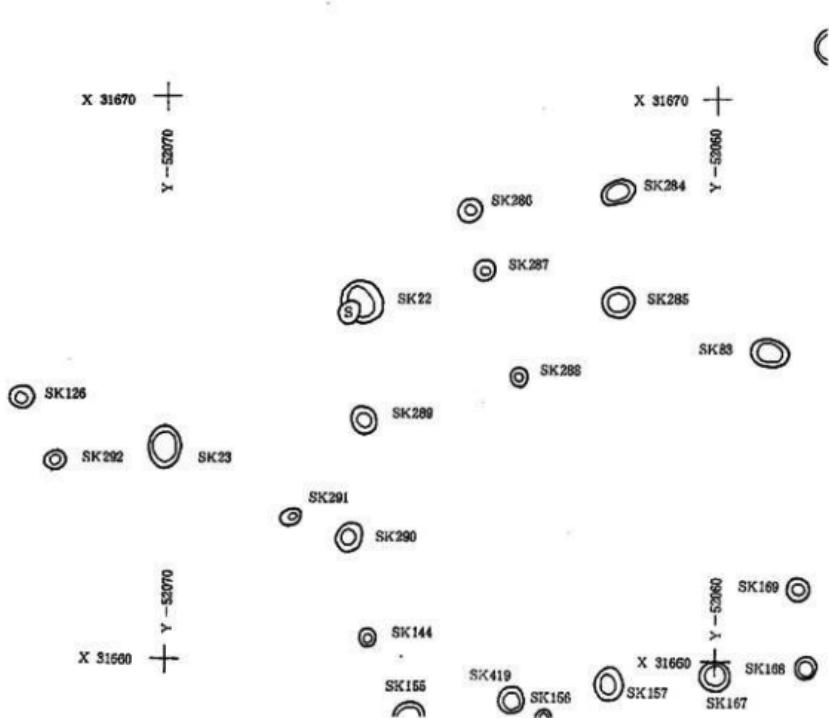
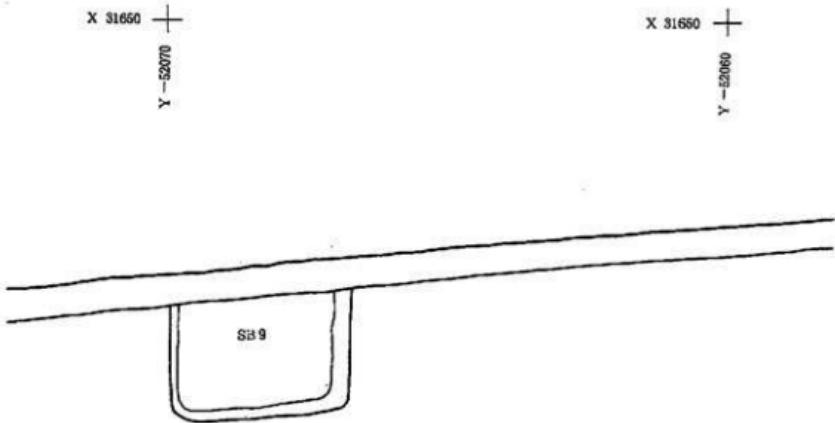
SK16

SK128

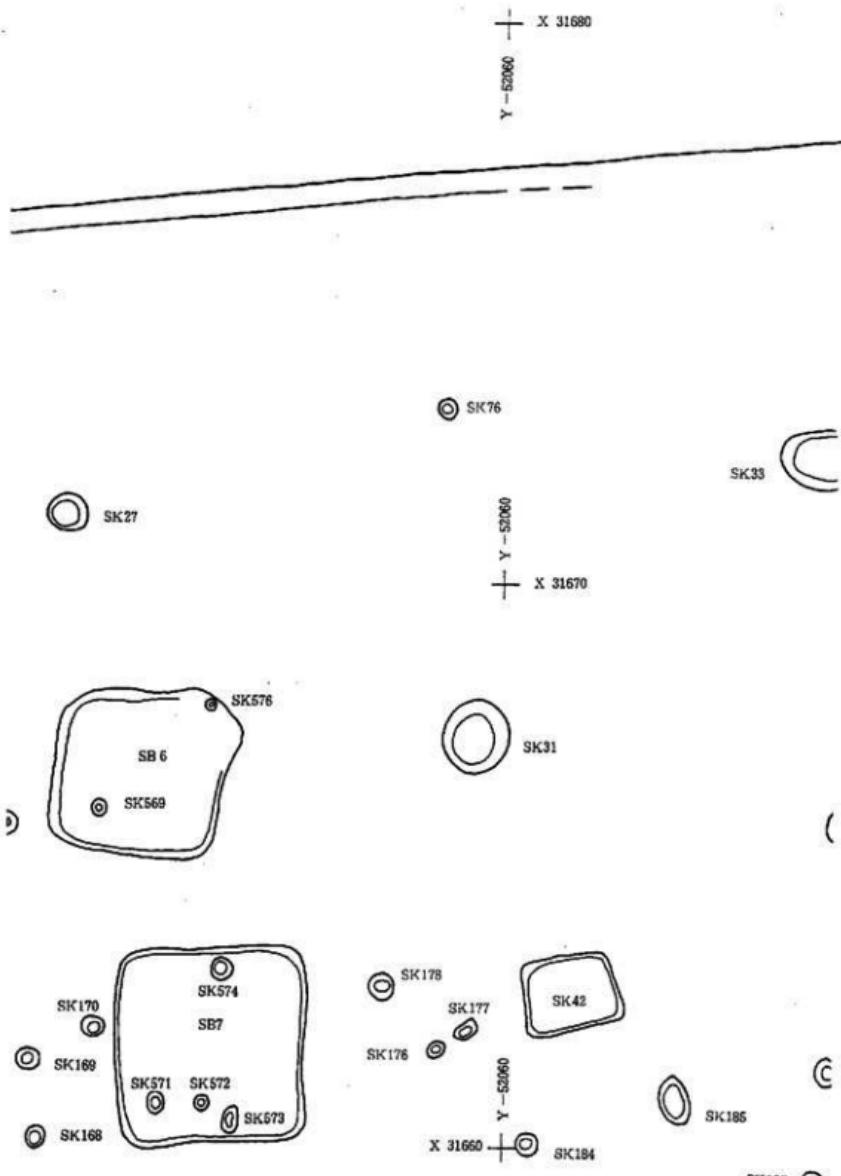
SK127

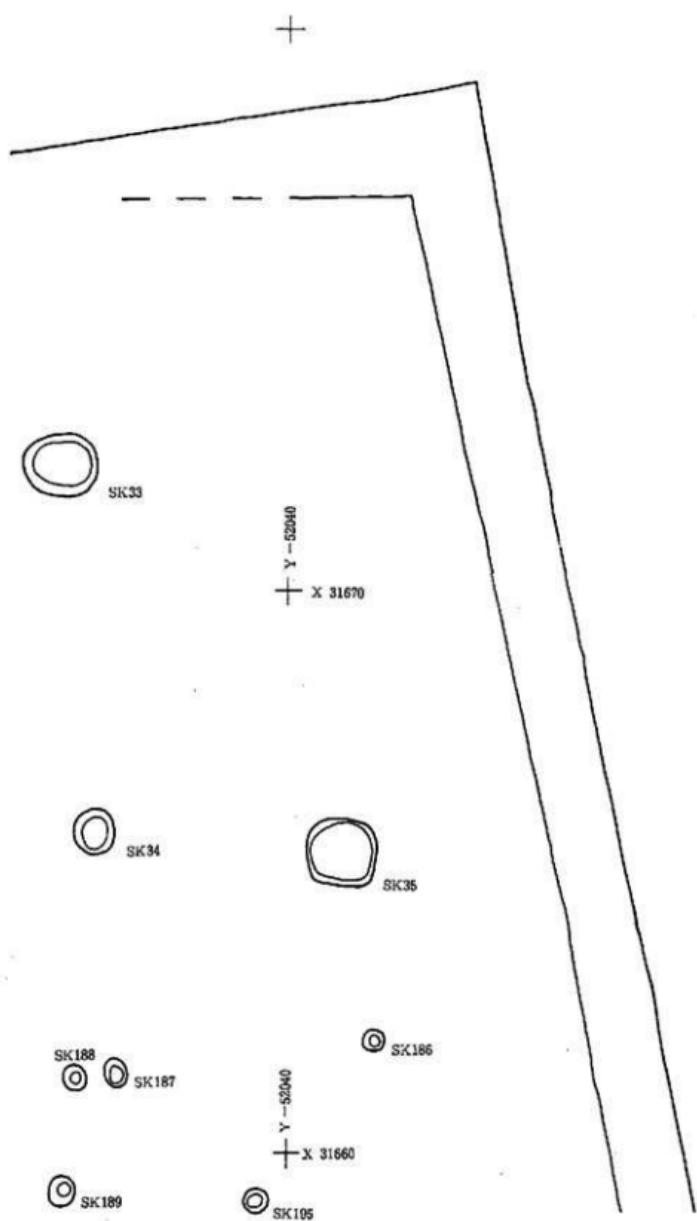
SK18

造構図(2)

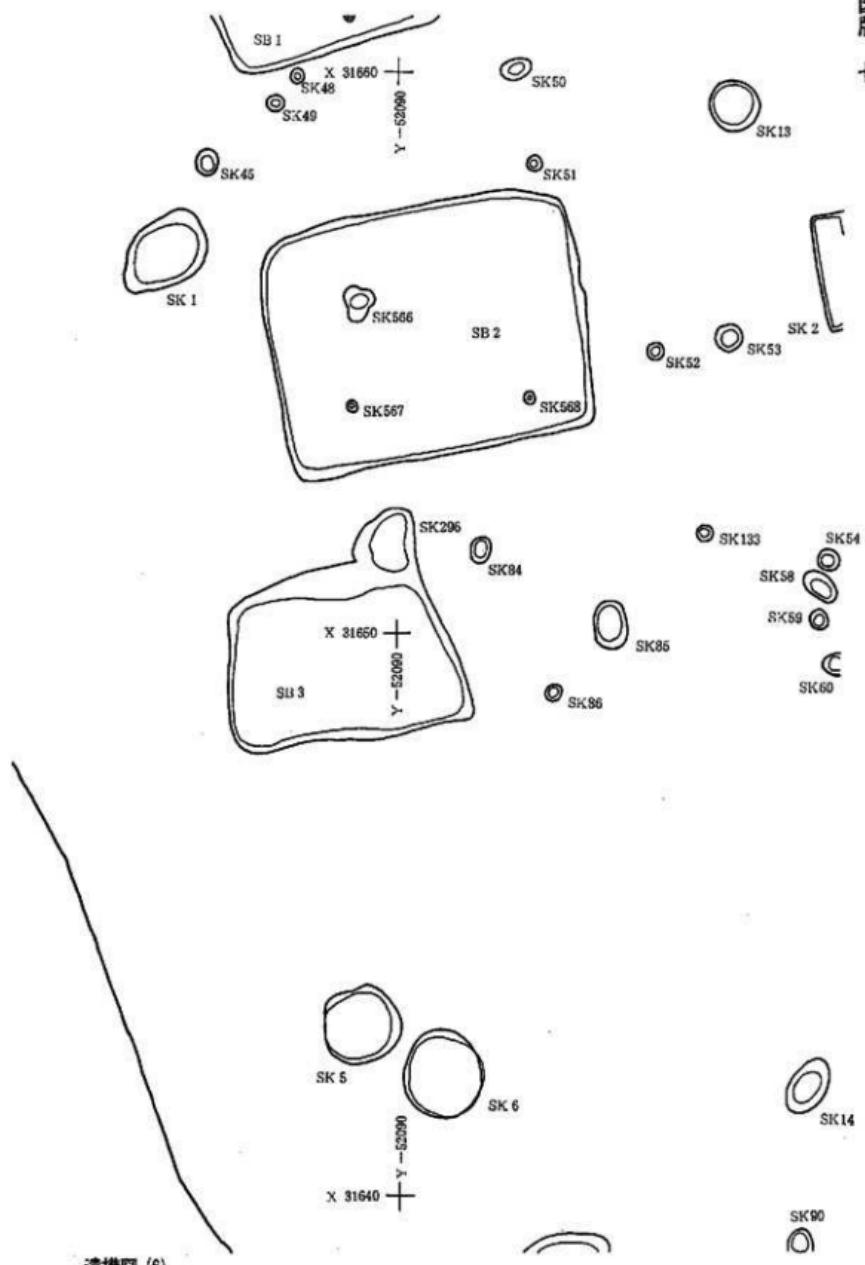


造構図(3)

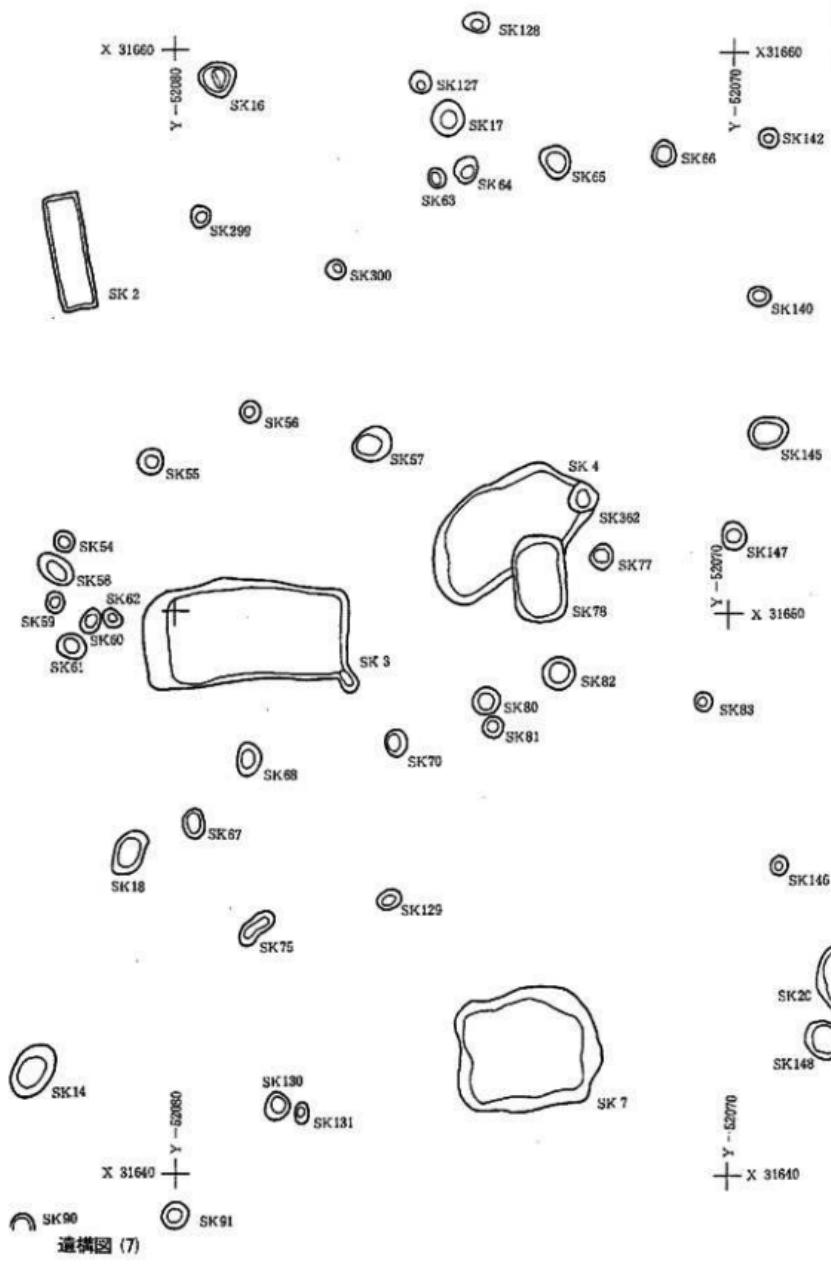




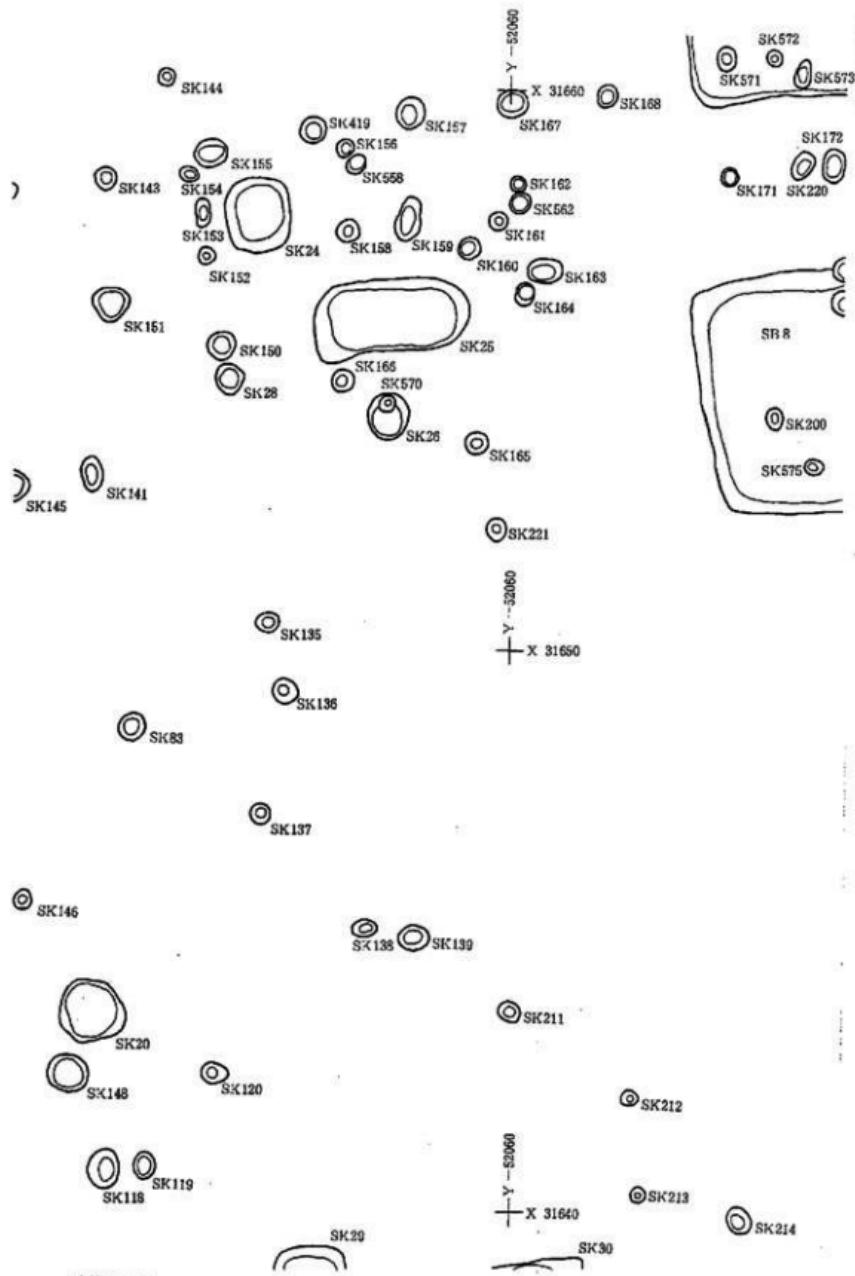
遺構図 (5)



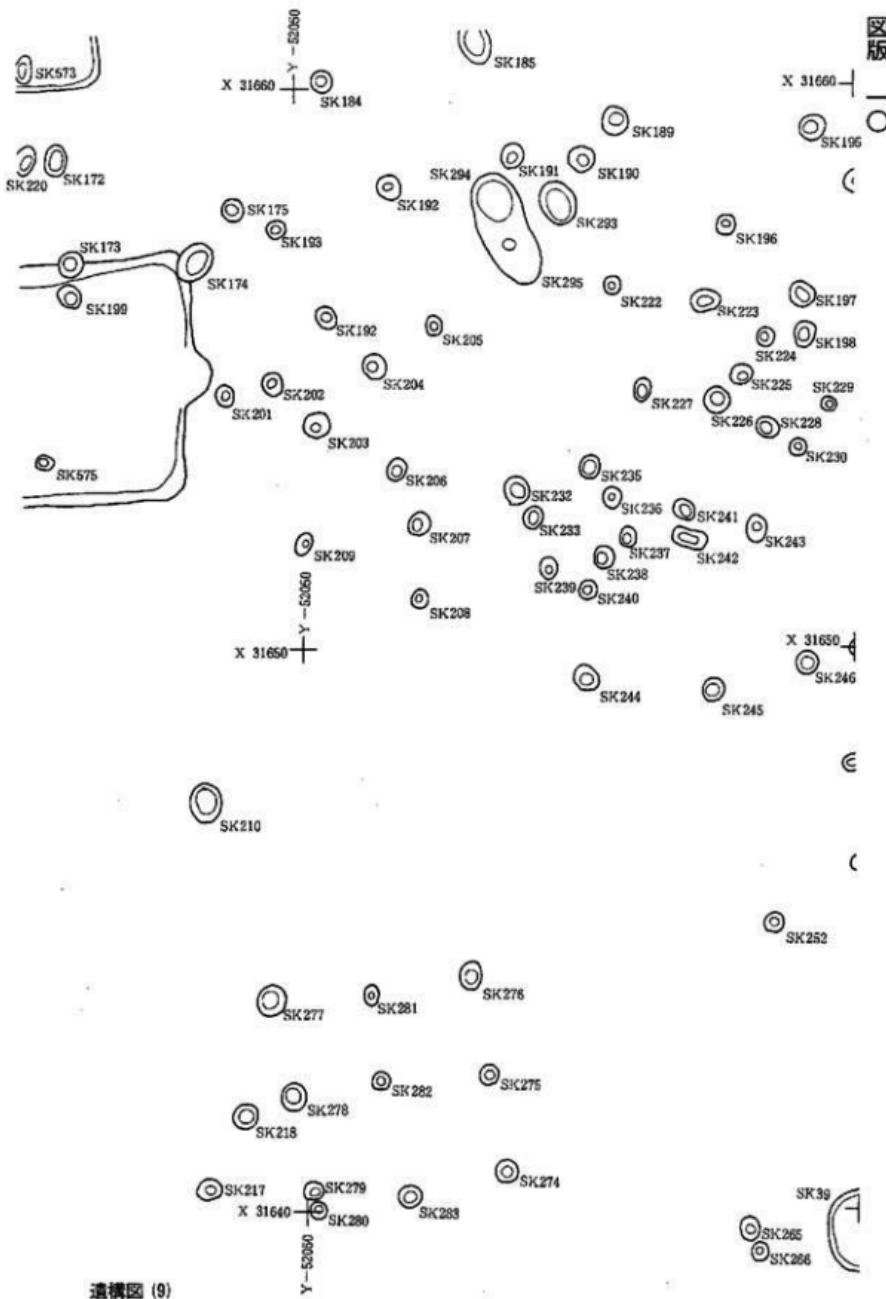
造構図 (6)



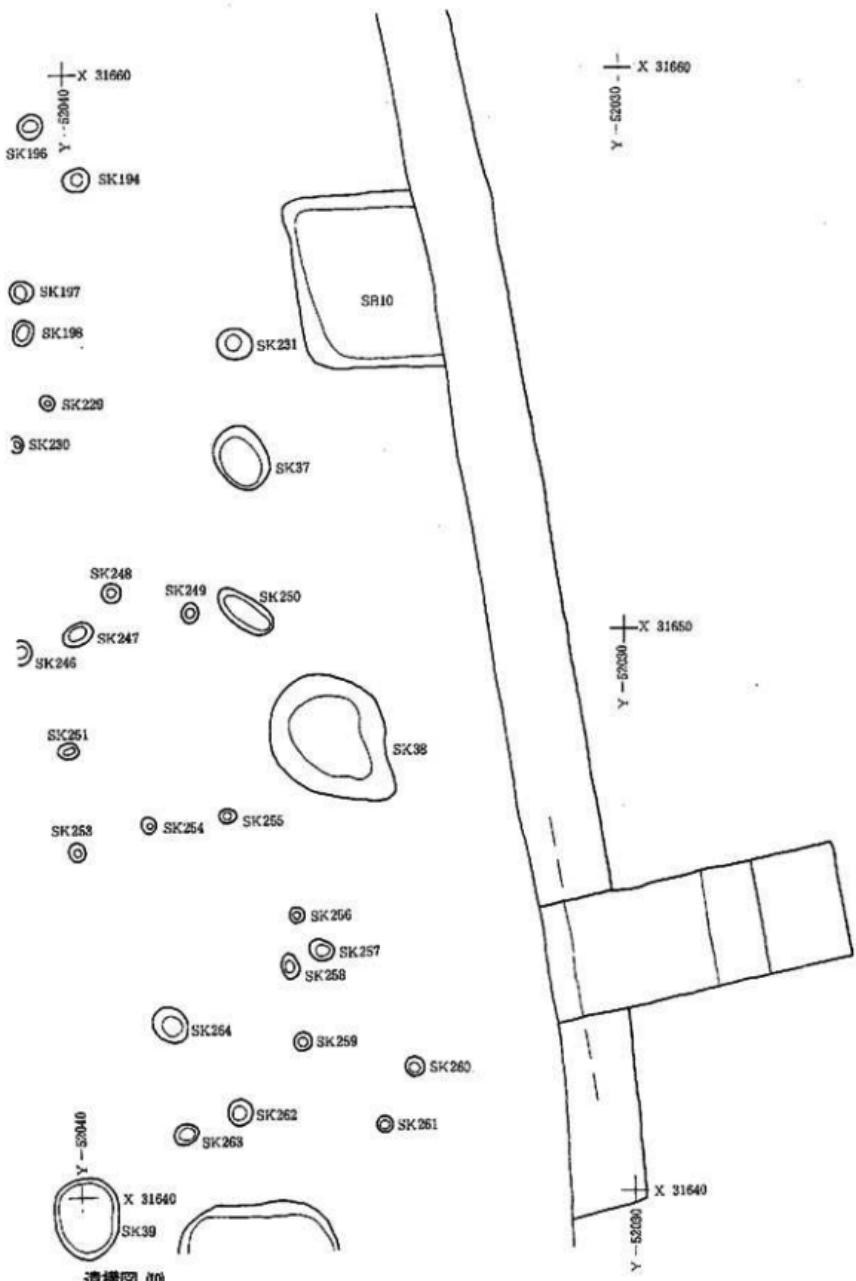
造構図 (7)



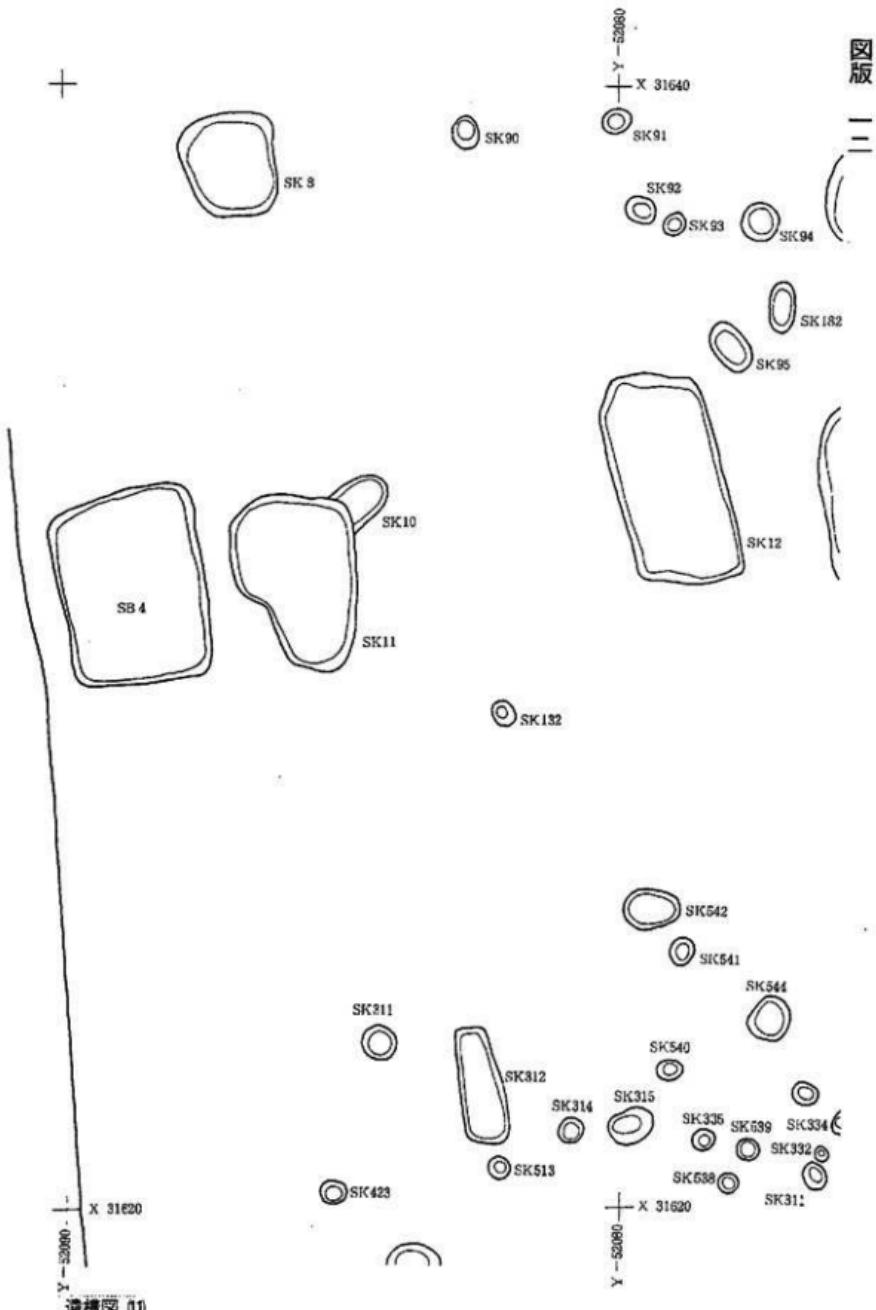
遺構図(8)



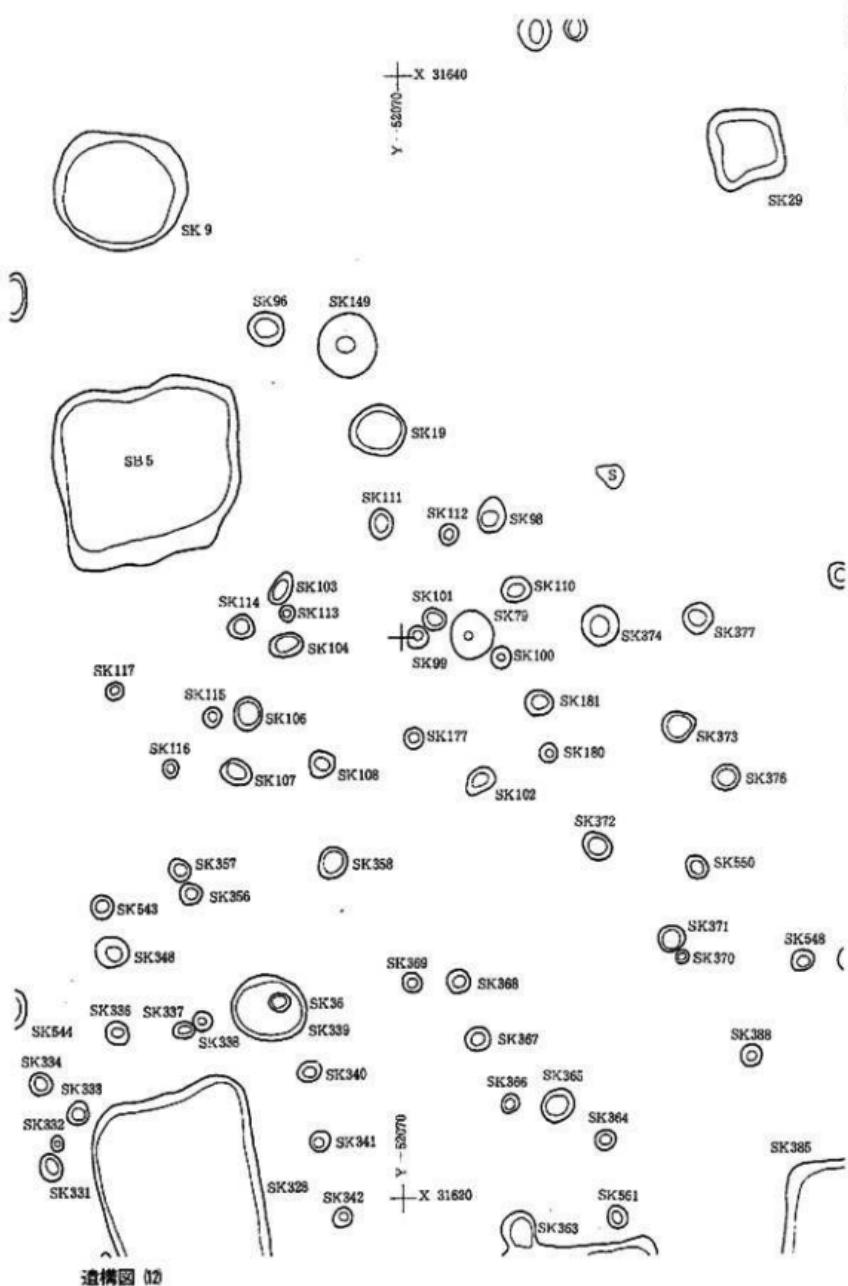
遺構図(9)

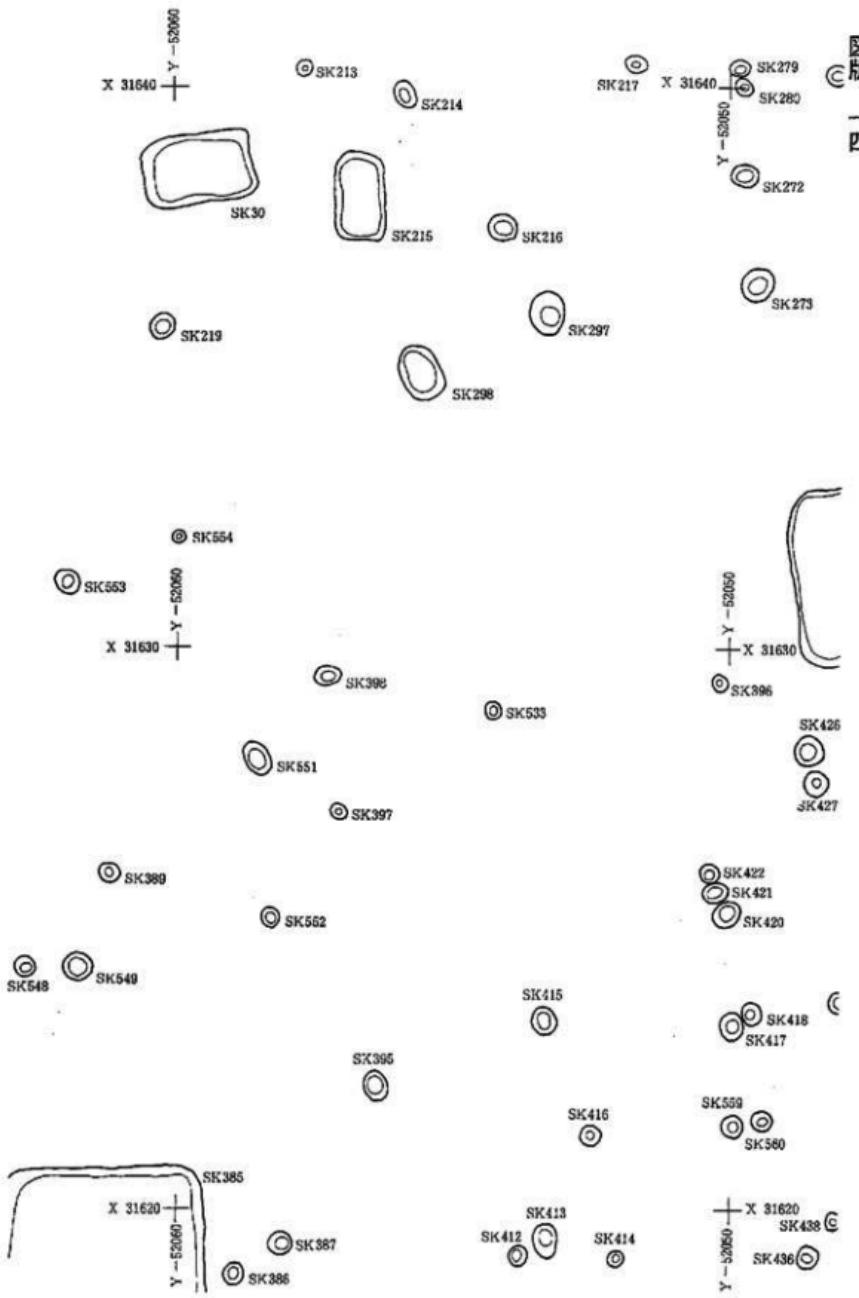


遺構図(10)

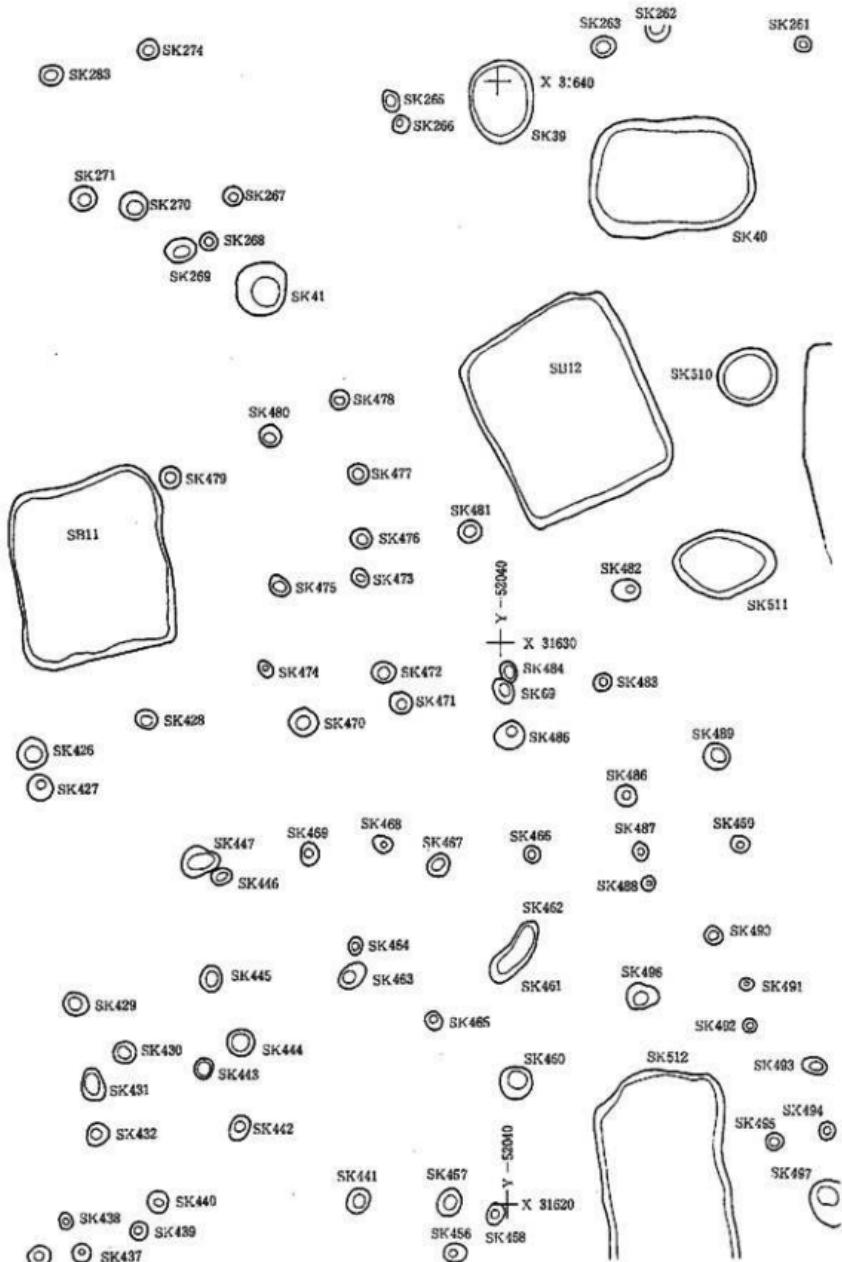


遺構図 (11)

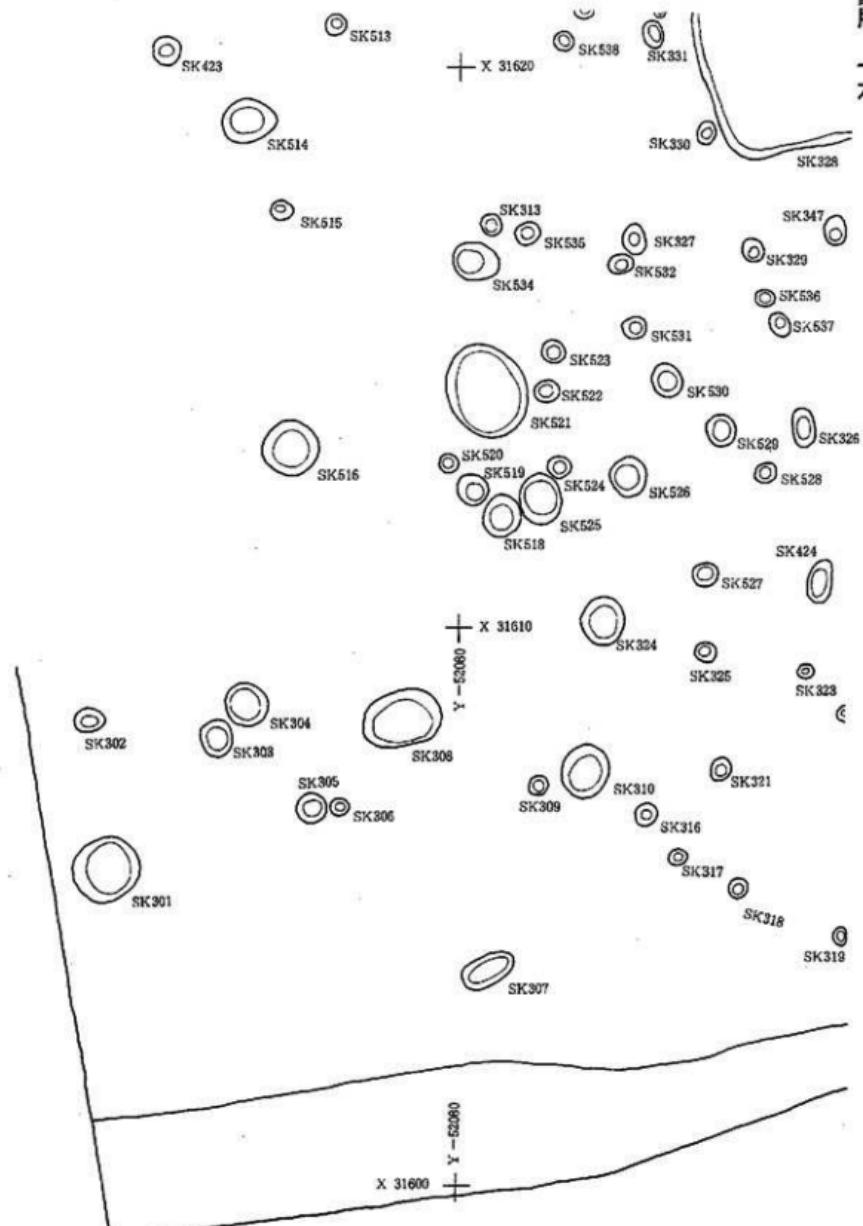




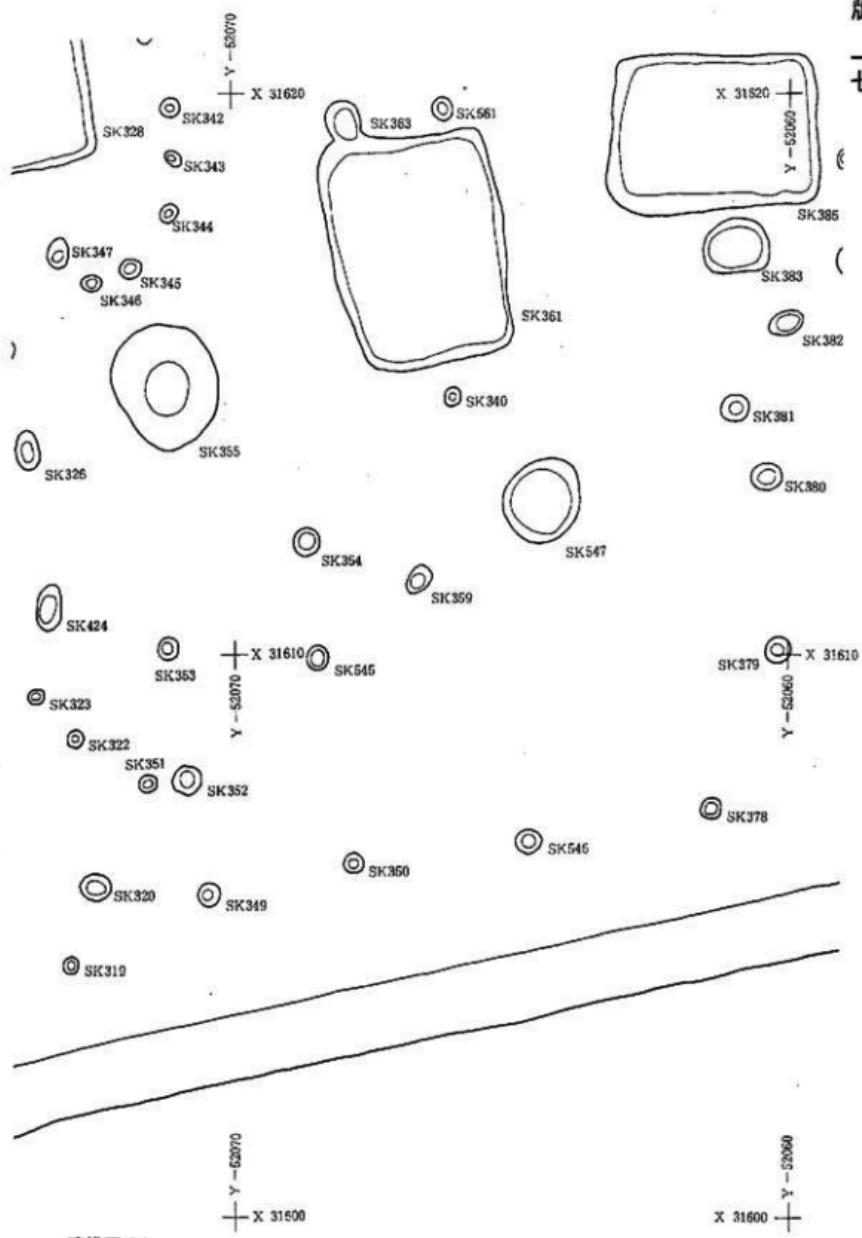
遺構図 (13)



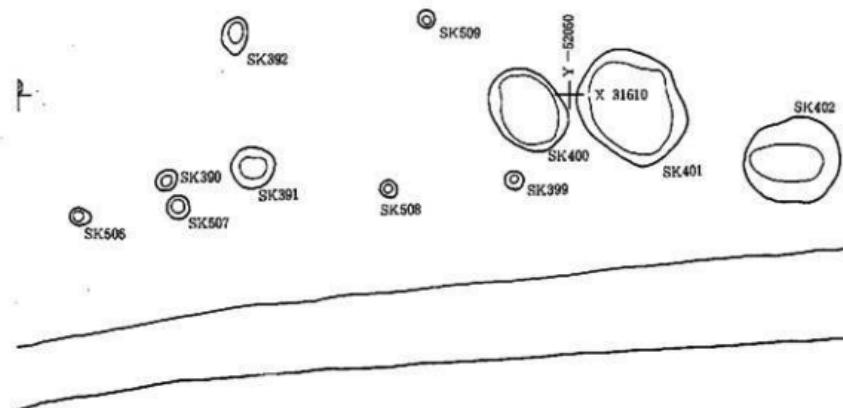
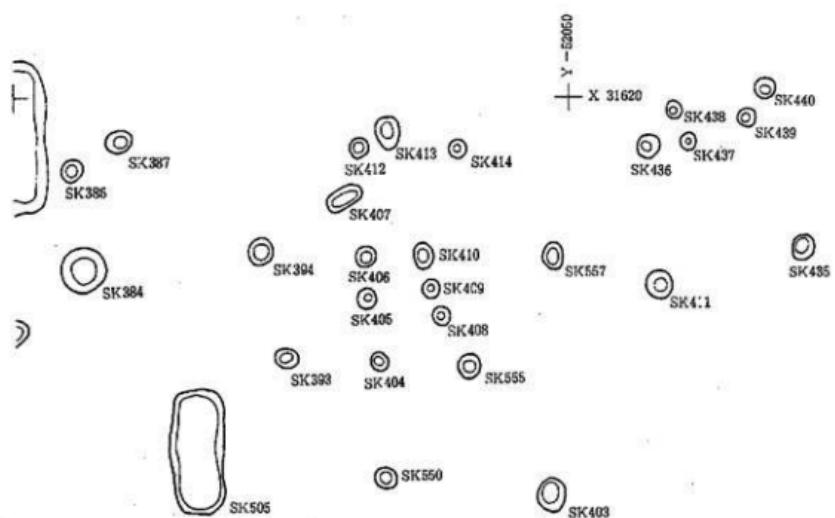
遺構圖 04



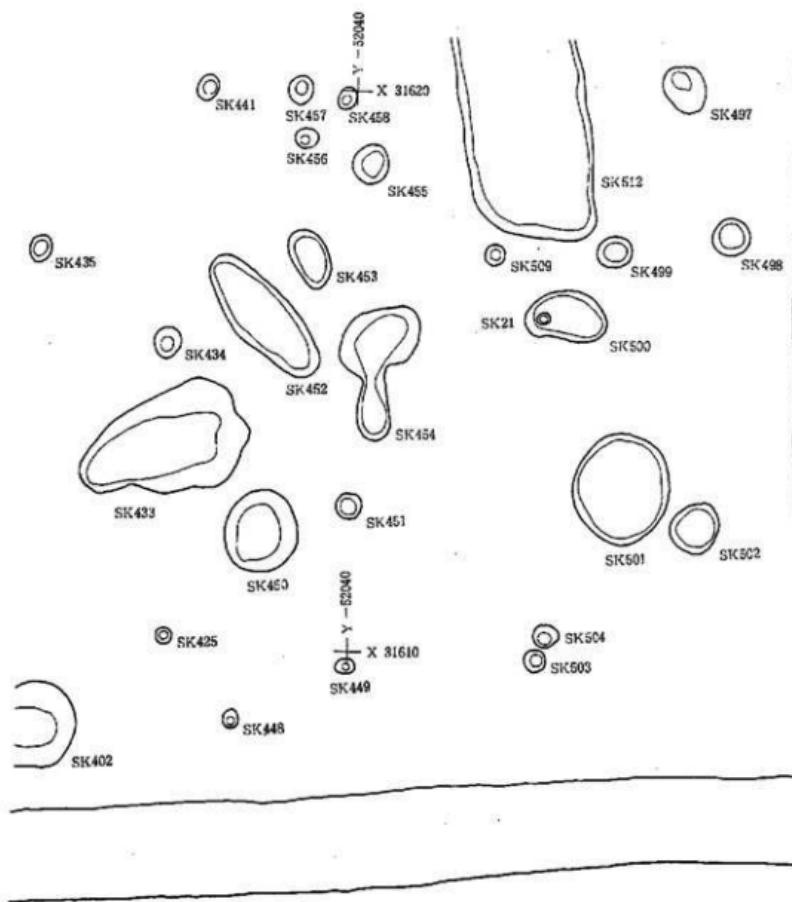
造構図 16



遺構図 10

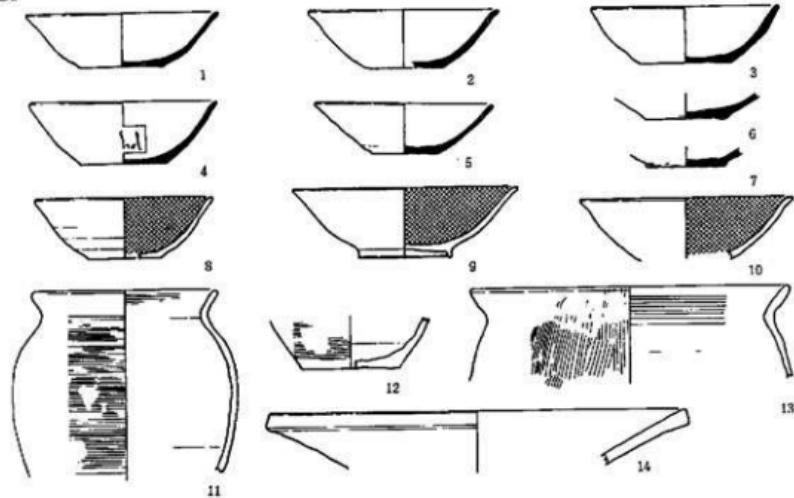


造構図 (17)

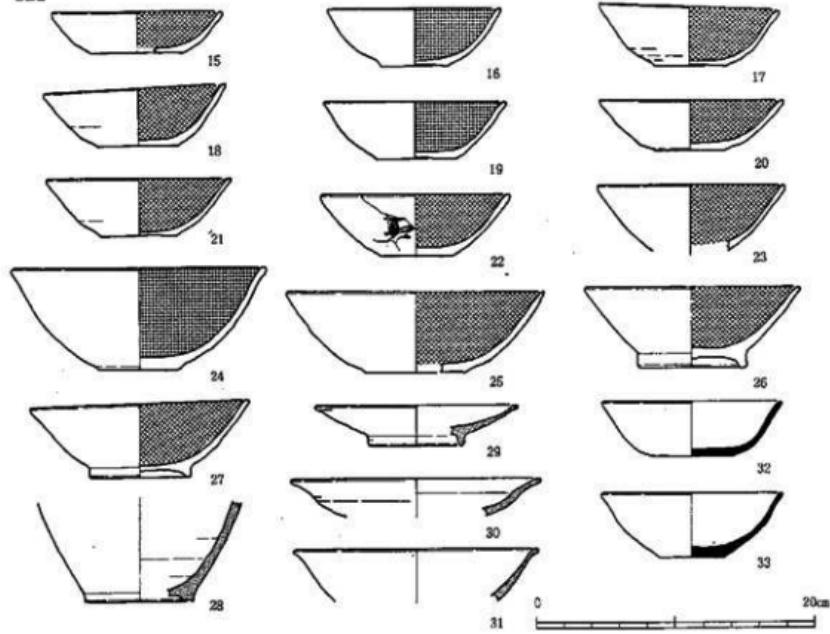


遺構図 (8)

SB1

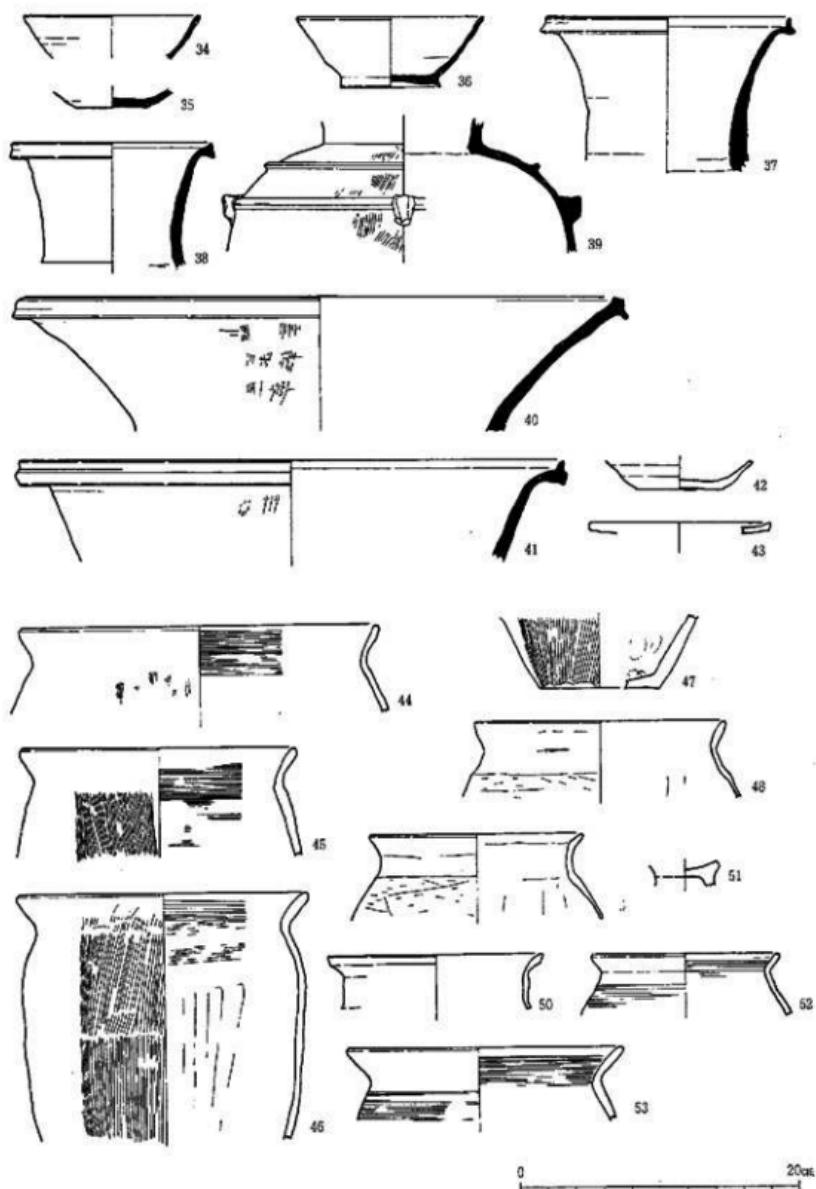


SB2



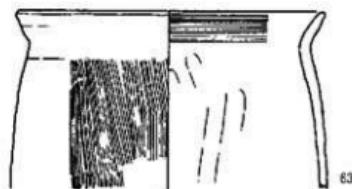
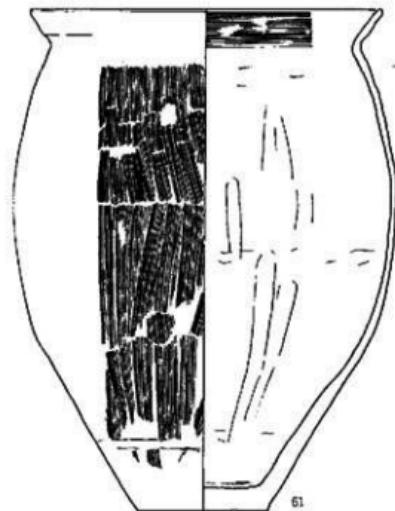
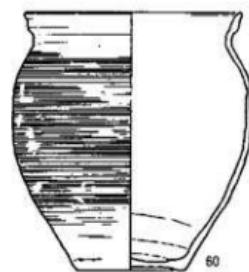
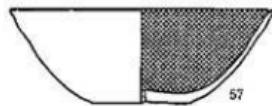
0 1 20cm

遺物実測図（土器：SB1, SB2）

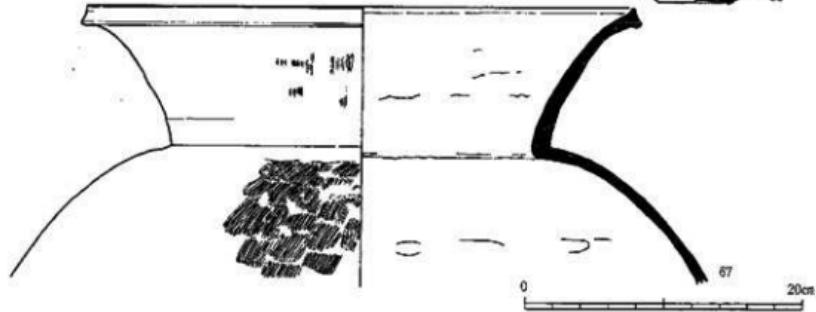


遺物実測図（土器：SB 2）

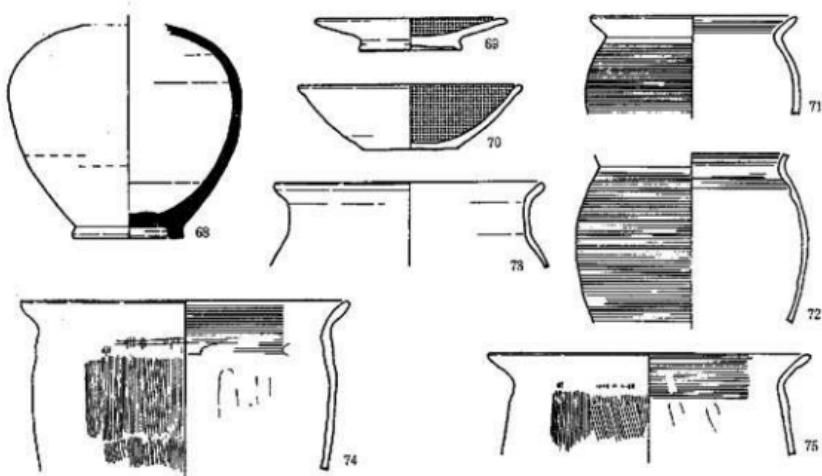
SB 6



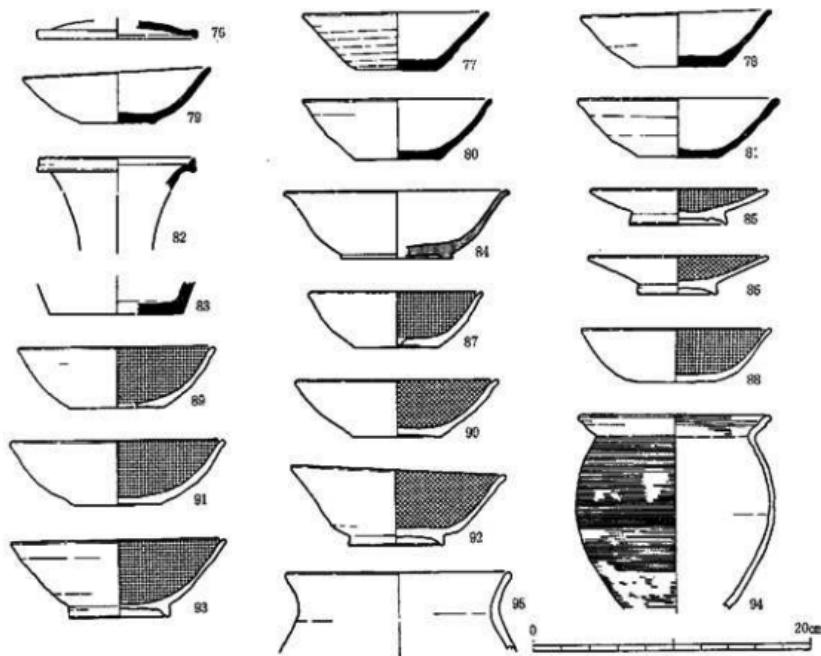
SB 7



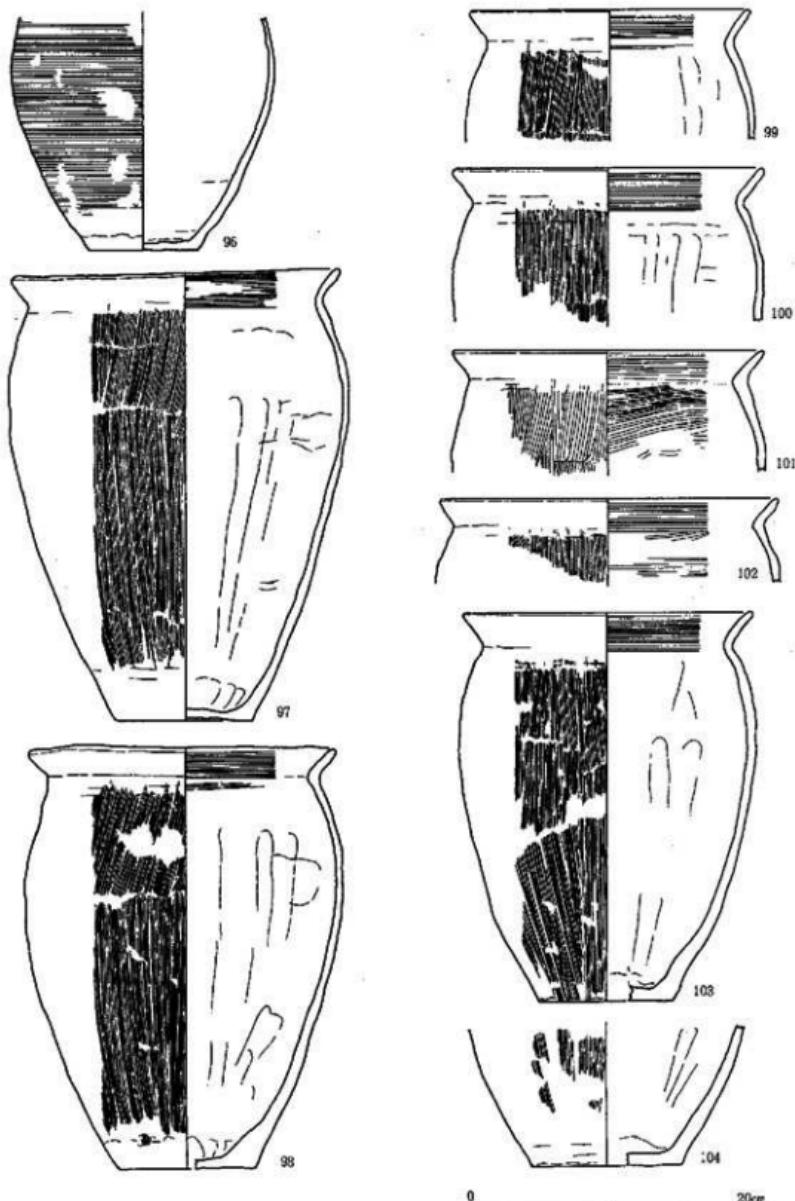
遺物実測図（土器：SB 6, SB 7）



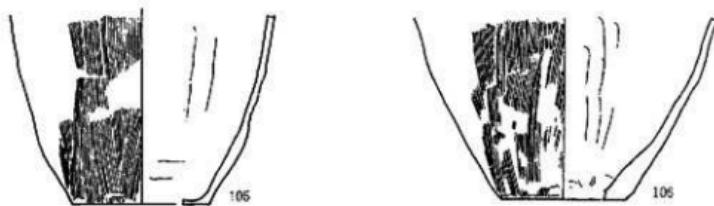
SB 8



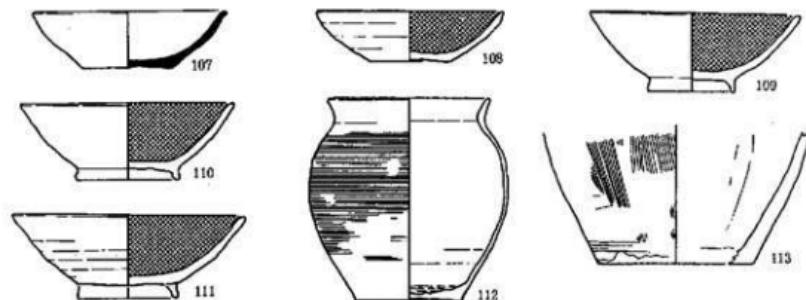
遺物実測図（土器：SB 7, SB 8）



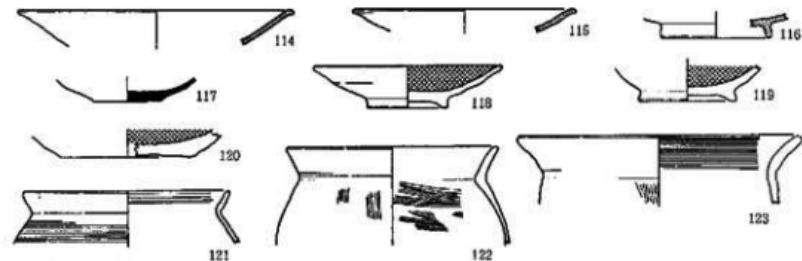
遺物実測図（土器：SB 8）



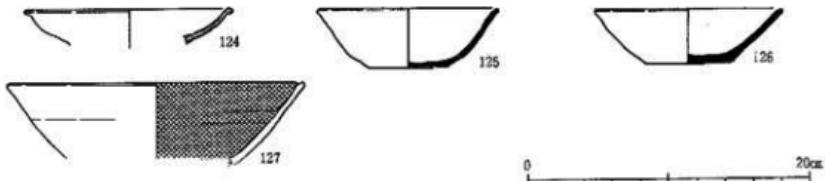
SB 9



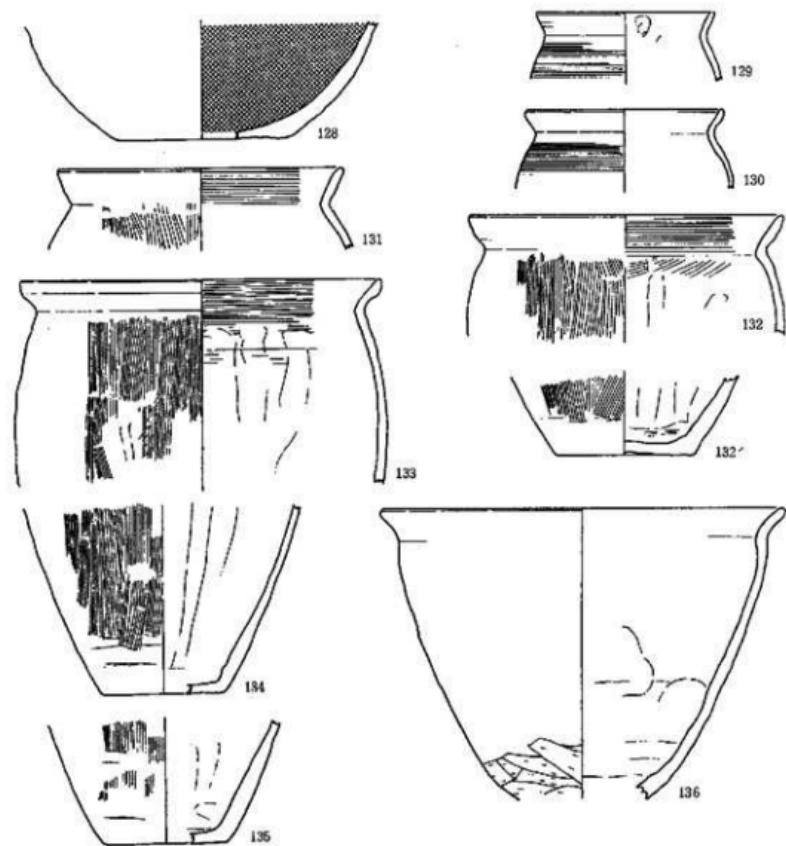
SB 10



SB 11



遺物実測図（土器：SB 8, SB 9, SB10, SB11）----



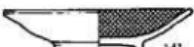
SB 3



SB 4



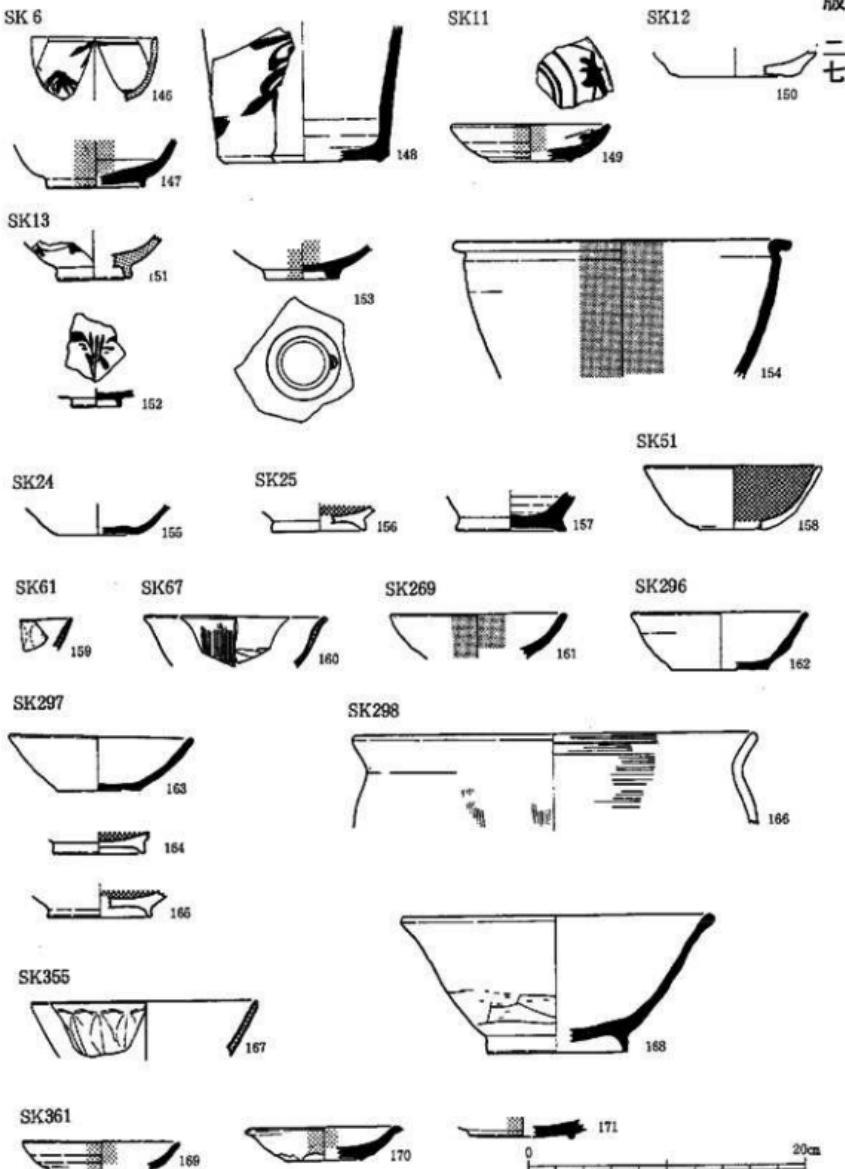
SB12



SK 3

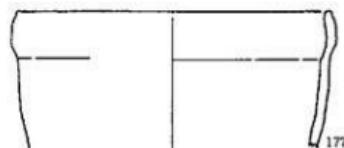
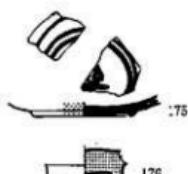


造物実測図（土器・陶器器：SB11, SB3, SB4, SB12, SK3）



遺物実測図（土器・陶器等：SK 6, SK11, SK12, SK13, SK24, SK25, SK51, SK61, SK67, SK269, SK296, SK297, SK298, SK355, SK361）

SK385



SK400



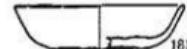
SK456



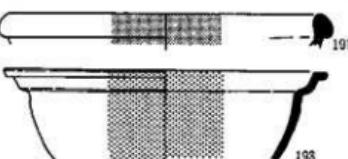
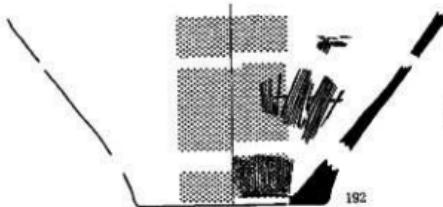
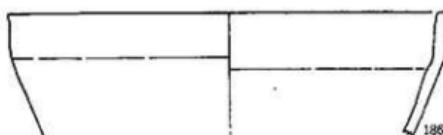
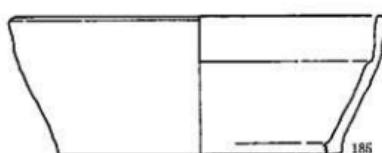
SK500



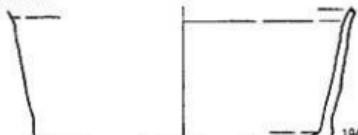
SK512



堀（東側）

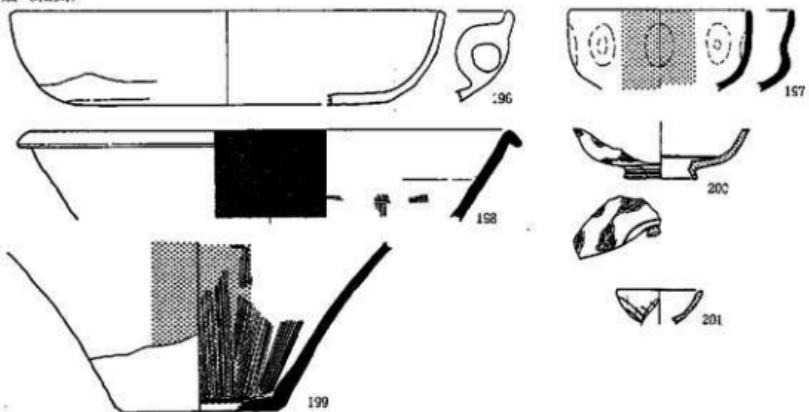


堀（南側）

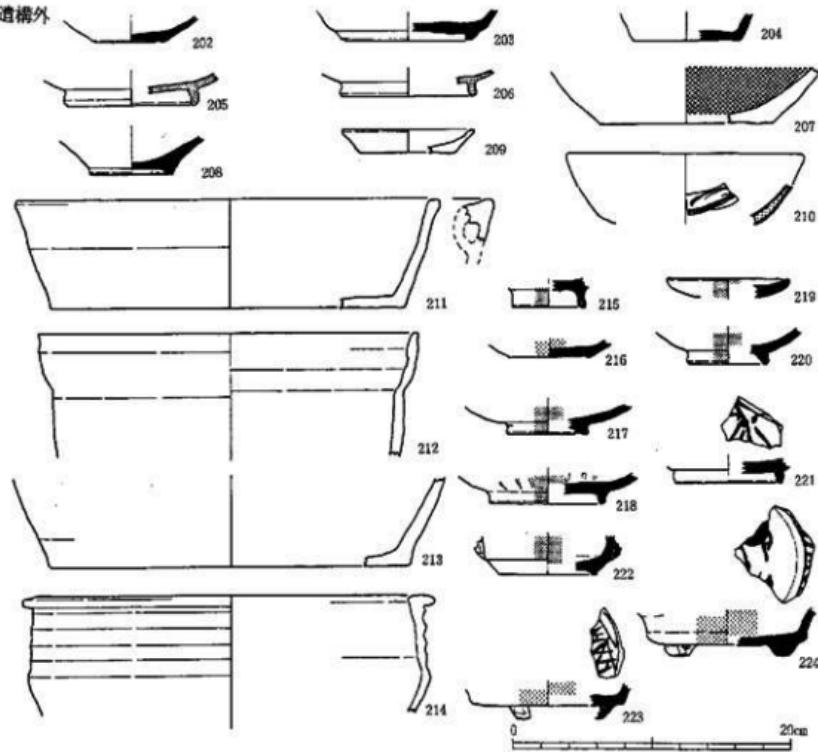


遺物実測図（土器・陶器器：SK385, SK400, SK456, SK500, SK512, 堀（東側）, 堀（南側）

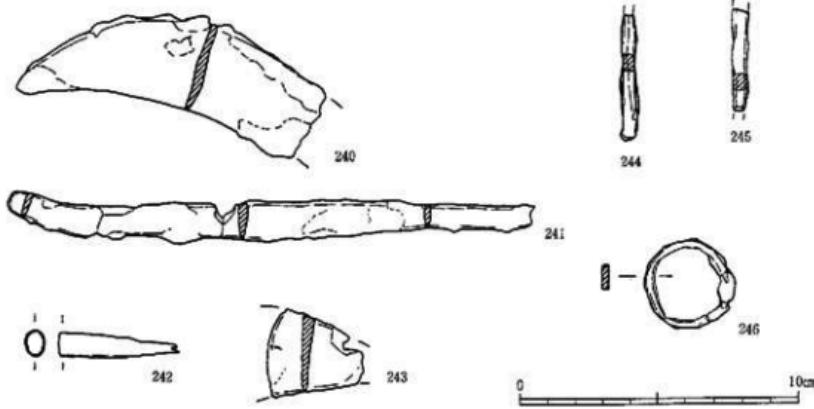
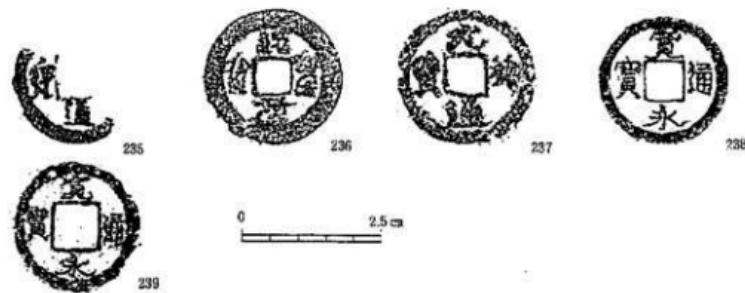
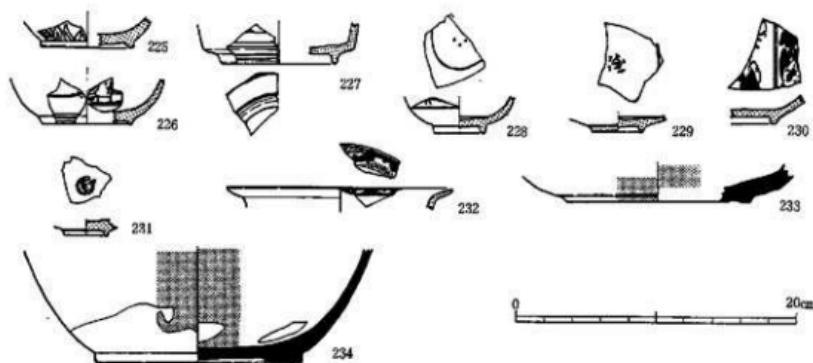
壺(北側)



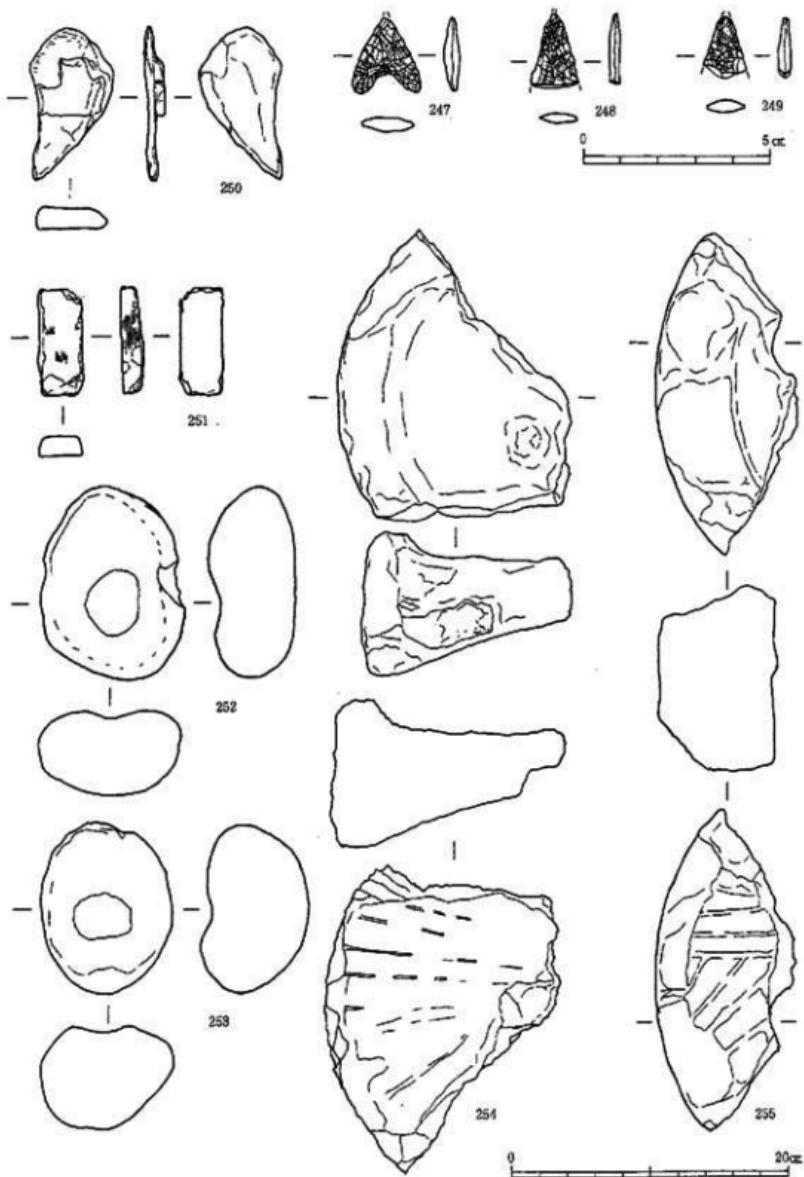
遺構外



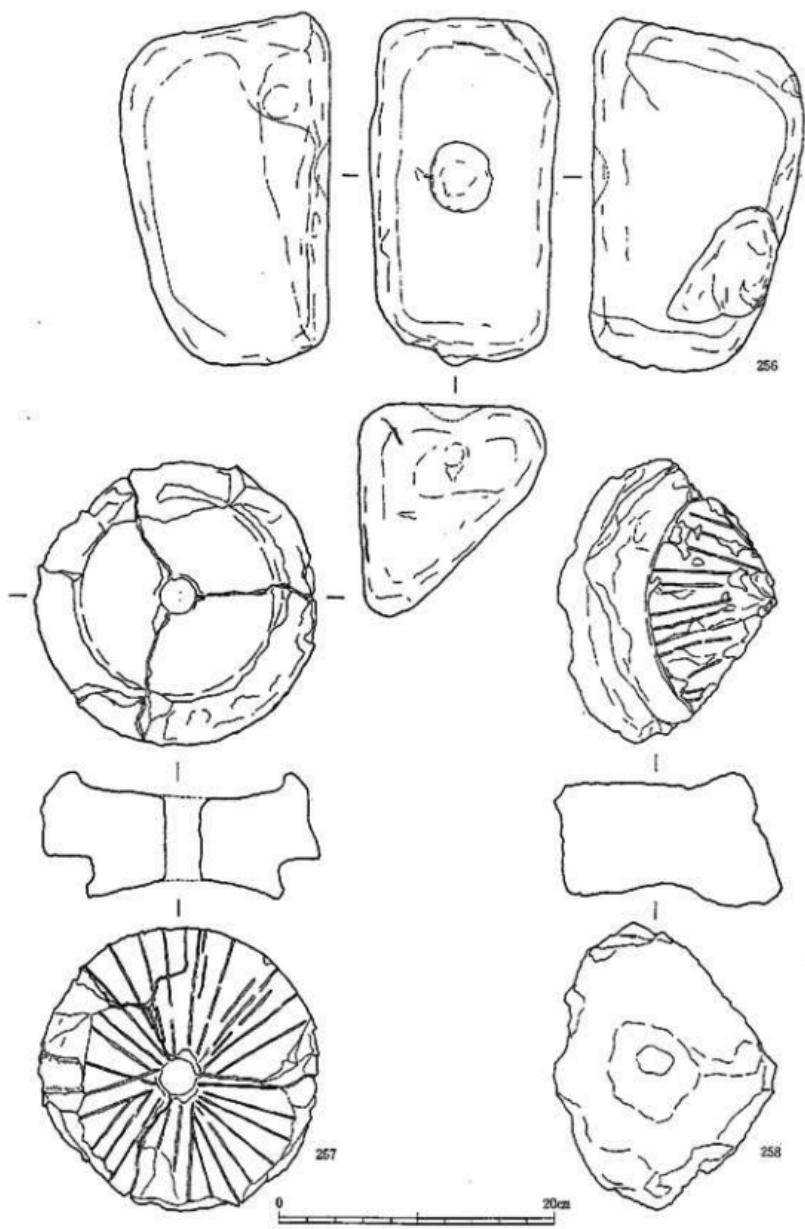
遺物実測図(土器・陶磁器: 壷(北側), 遺構外)



遺物実測図（土器・陶磁器：遺構外、鉢貨、鐵器、金属製品）



遺物実測図（石器・石製品）



遺物実測図(石器・石製品)



西上空より（調査地北半、1 平瀬城、2 上ノ山痕跡群）



東上空より（調査地南半、背後に吉野町の町並が見える）



二の郭西側の矢竹



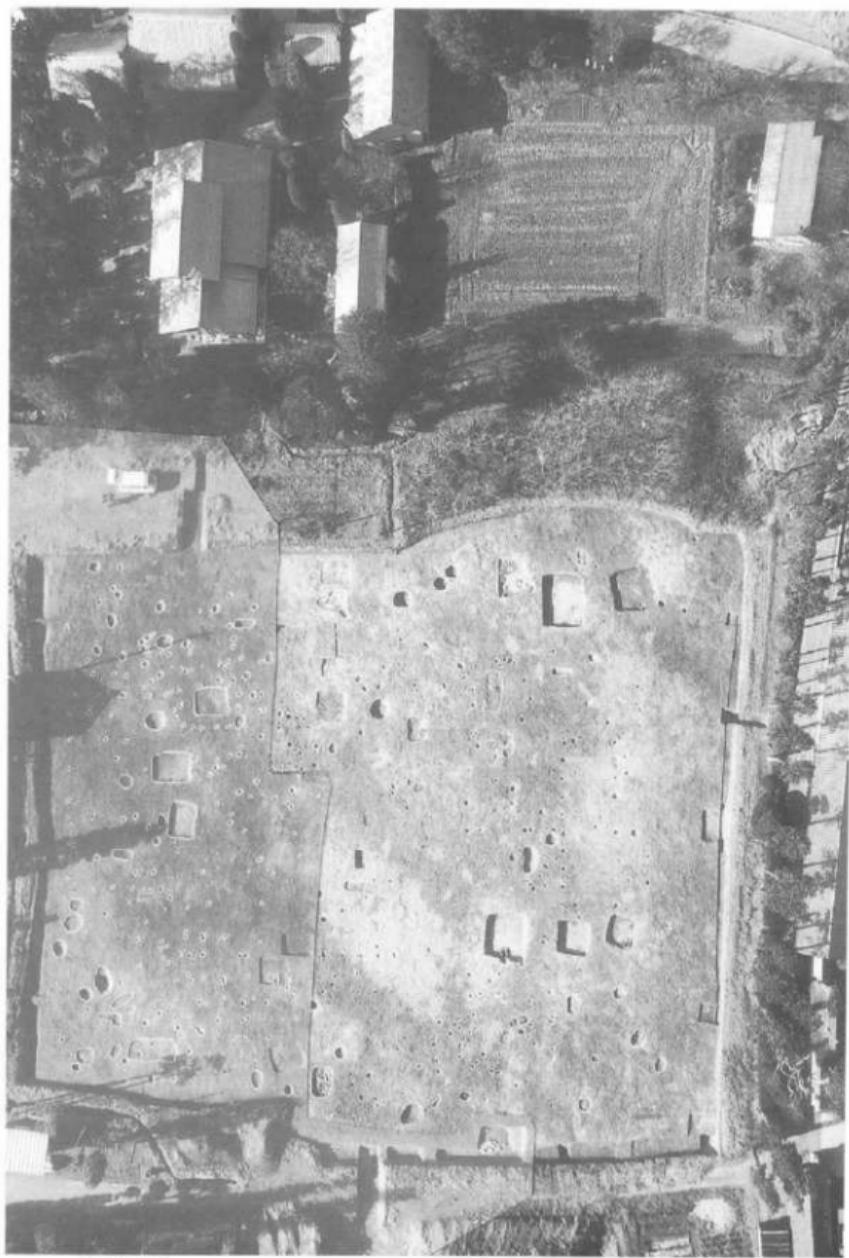
調査地北側（右奥が調査地、剣と土星を彷彿させる。）



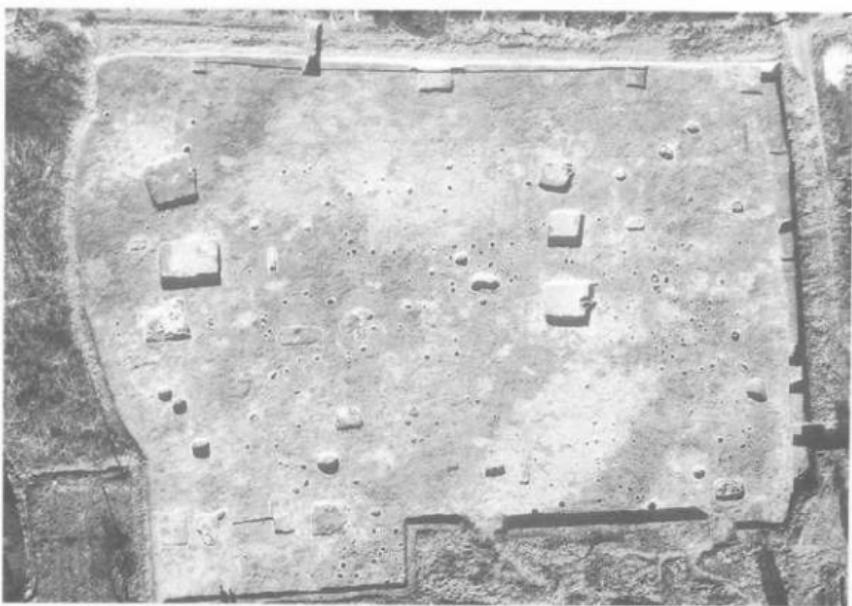
壠 跡（本郭西側）



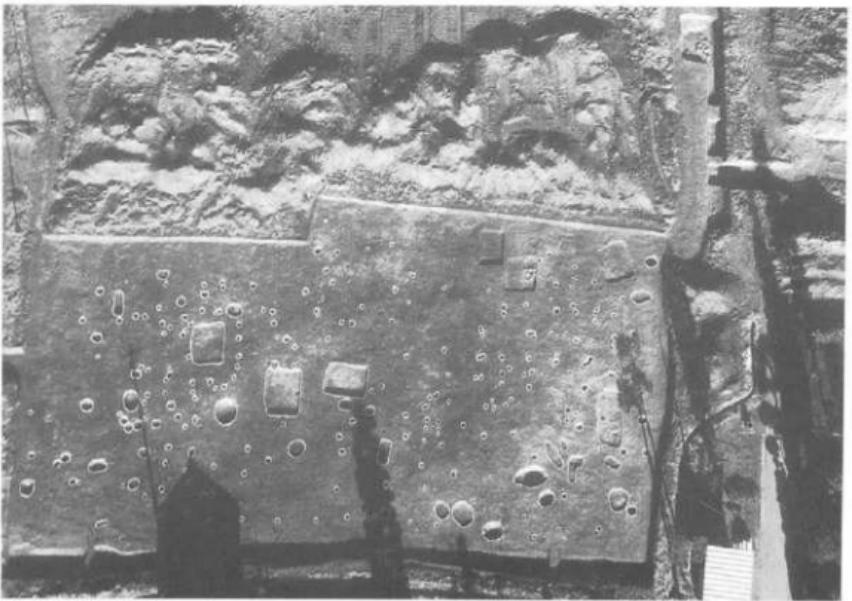
熊野椎現社（西より）



調査地全景



調査地北半



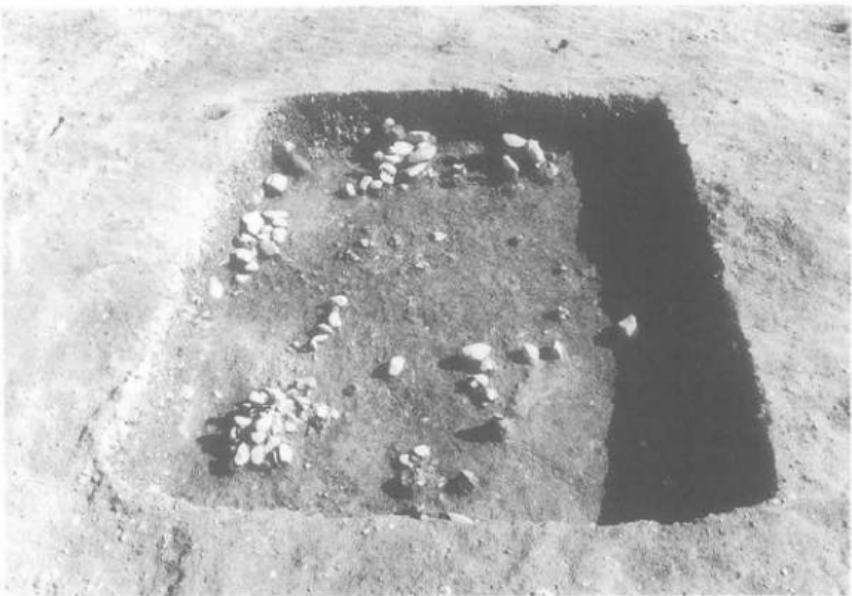
調査地南半



SB1



SB1 カマド



SB2 遺物等出土状況



SB2



SB6 碓等出土状況



SB6



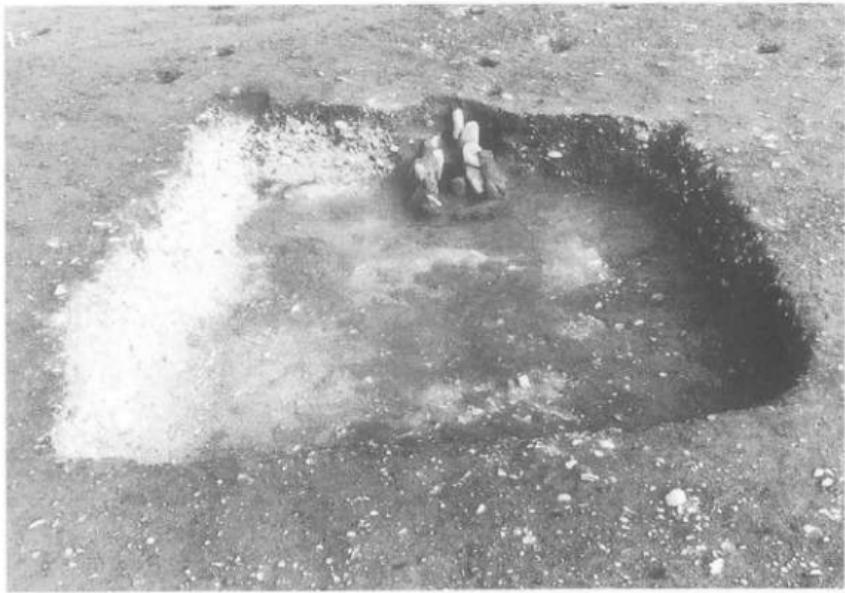
-SB7



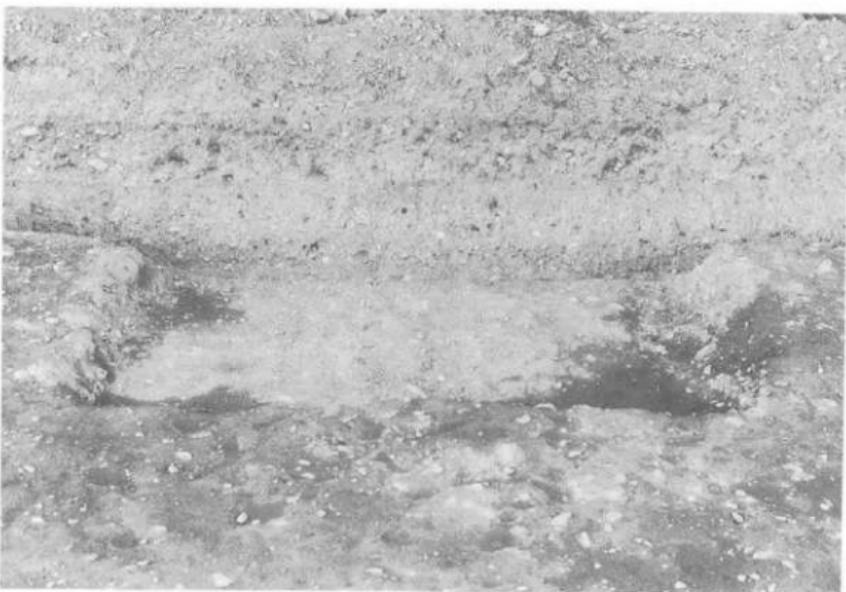
SB8 遺物等出土狀況



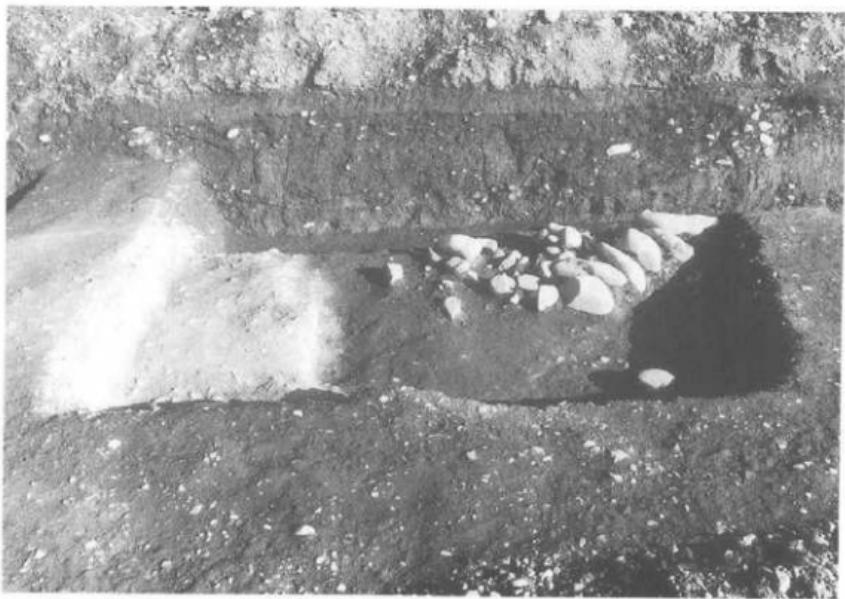
SB8 カマド



SB8



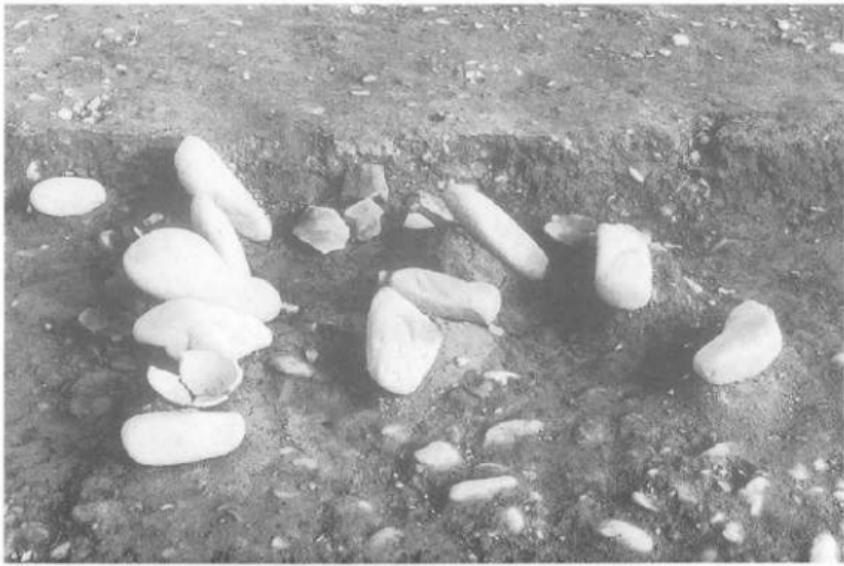
SB9



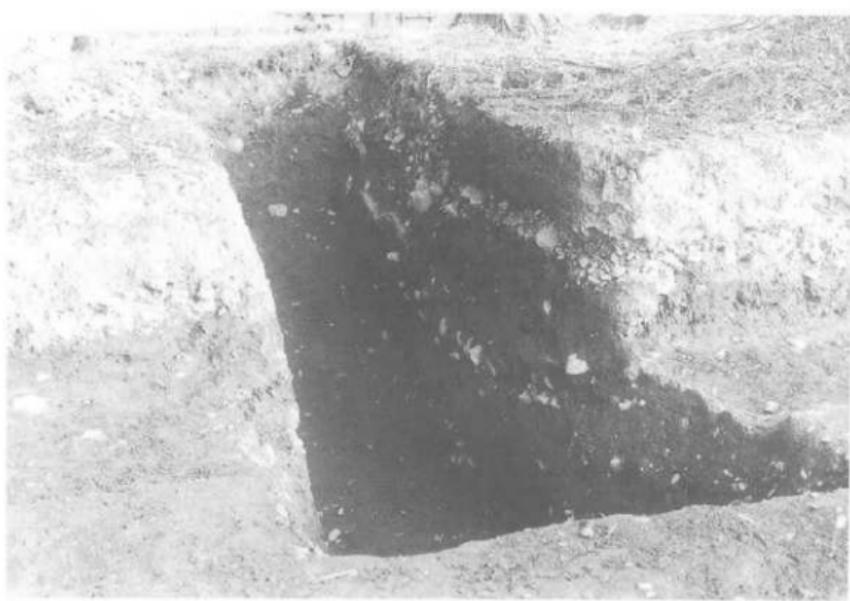
SB10



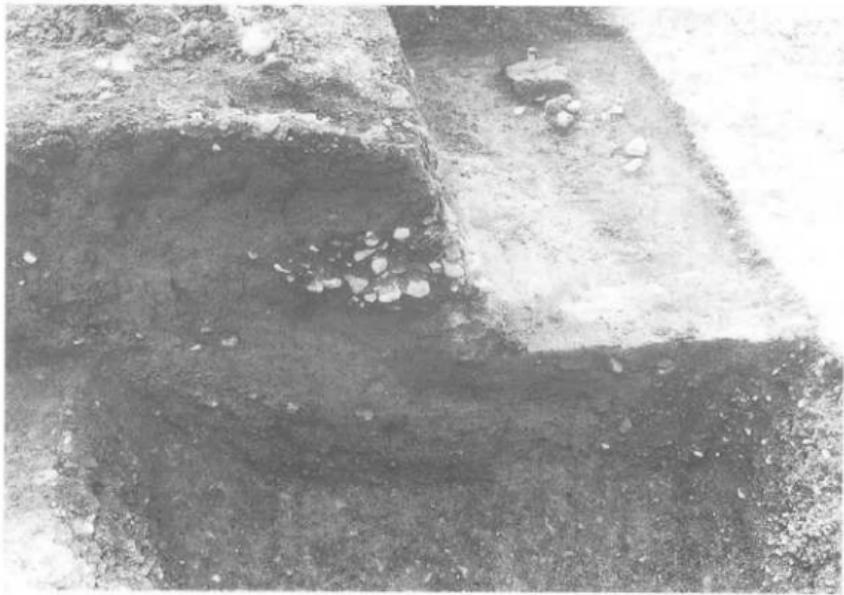
SB11



SB11 カマド



堀（北側）



堀（東側）



SB3



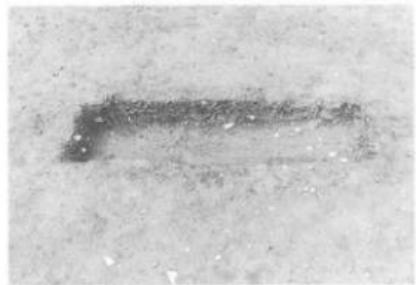
SK24 周辺



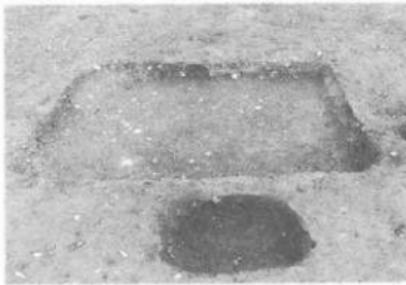
SB5



SK328 周辺



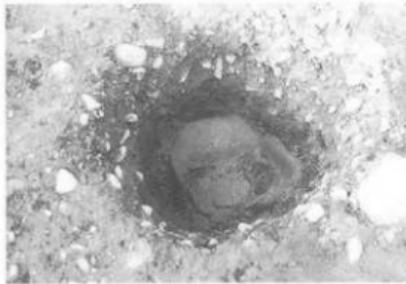
SK2



SK383（手前）・SK385



SK6 土層



SK374



1



9



3



17



4



18



5



19



11



26



29



38



32



34



33



35



36



37



37



60



68



81



84



69



85



70



86



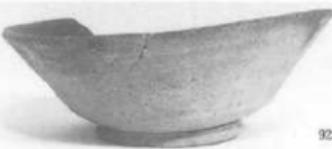
77



91



78



92

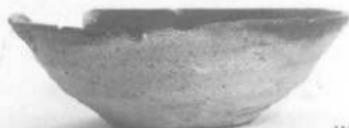


80



93

SB7・SB8 出土土器



111



118

97



126

98



107



163



109

SB8・SB9・SB10・SB11・土坑出土土器・陶器



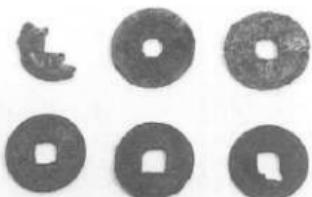
168



172



211



錢貨



256



瀬戸美濃系陶器・磁器



258



肥前系磁器



259

土器・陶磁器・錢貨・石器・石製品

吉野町館跡遺跡

農業生産整備事業豊科南郷地区に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成4年3月20日 印刷

平成4年3月25日 発行

発行 豊科町教育委員会

長野県南安曇郡

豊科町大字豊科4289-1

印刷機安芸印刷
豊科町大字豊科4821

